文　学　部

学修ガイドブック

2023

SCHOOL of LETTERS

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる　“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した４人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性（**Socio-Intelligence**）の開発」を 21 世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

文　学　部

学修ガイドブック

2023
令和５年度

専　修　大　学

専修大学学則

第１章　大学の目的および使命

第１条　本大学は，社会現象に対する自由でとらわれない研究を基礎とし，旧い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし，人間の値打を尊重する平和的な良心と民主的な訓練を身につけた若い日本人を創りあげることを目的としている。

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは，みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み，紛失することのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は，幅広い教養と人間の営為に関する高度で体系的な知識を有し，専門分野における研究を通じて自由で柔軟な発想と思考力を身に付け，文化の継承と創造に寄与することができる人材を育成します。この方針に基づいて各学科において以下の知識や能力を修得した者に対して，日本文学文化学科，英語英米文学科，哲学科，歴史学科，環境地理学科では学士（文学）の学位，ジャーナリズム学科では学士（ジャーナリズム学）の学位を授与します。

日本文学文化学科

(1) 日本の文学と文化に関する基本的な情報を修得し，専門的な知識体系として理解し，説明することができる。（知識・理解）
(2) 日本の文学と文化及びそれに関連する文献・史料による情報を正しく読み解き，自分自身の思考や判断として適切に伝達することができる。（汎用的技能）
(3) 幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し，論理的に分析して課題解決に適用することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
(4) 広い視野から多文化共生社会を生きる能力を身に付け，主体的に行動することができる。（態度・志向性）

英語英米文学科

(1) 英語圏の文学・文化や歴史に関する知識を修得し，文化・歴史・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け，それらについて説明することができる。（知識・理解）
(2) グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身につけ，他者に対し，自分自身の思考や判断を的確に表現することができる。（汎用的技能）
(3) 国際的な視野から知識を統合し，活用することによって様々な課題を論理的に分析し，問題解決に導くために応用することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
(4) 英語圏文化における多様な価値観を理解し，倫理的な判断を踏まえた上で，国際的な視点から独自の考えを構築することができる。（態度・志向性）

哲学科

(1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し，それらを説明することができる。（知識・理解）
(2) 多様な文献を正確に読解する能力に基づいて，自分の解釈を適切に表現し，他者に伝えることができる。（汎用的技能）
(3) 哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し，ものごとを多様な視点から分析的にとらえ，筋道立てて思考することを通じて，課題の新たな捉え方や解決策を提示し，社会の諸問題の解決に寄与することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
(4) 自分の考えをむやみに絶対視することなく，他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって，社会に参画することができる。（態度・志向性）

歴史学科

(1) 文化・社会・自然などについての教養を幅広く身に付けた上で，日本および世界各地域の過去の歴史について深く掘り下げて理解し，説明することができる。（知識・理解）
(2) 歴史上の様々な課題を解明するために必要な，言語または非言語の情報・データを収集・

分析し，適切に表現することができる。（汎用的技能）

(3) 歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し，知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め，独自の成果を創出することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

(4) 多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて，社会の諸課題に対して，倫理観をもって主体的に取り組むことができる。（態度・志向性）

環境地理学科

(1) 地理学における基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，それらを説明することができる。（知識・理解）

(2) 情報技術等を利用して地域や環境に関するデータを収集，処理するとともに，分析の結果を適切な表現で他者に伝えることができる。（汎用的技能）

(3) 地理学における理論を基盤とした思考方法と世界の諸地域についての知識を活用し，地域や環境に関する社会の諸課題に取り組むことができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

(4) 地域や環境についての調査活動を通じて，社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力を更新し続けることができる。（態度・志向性）

ジャーナリズム学科

(1) ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる。（知識・理解）

(2) 社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる。（汎用的技能）

(3) ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

(4) 広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる。（態度・志向性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では，教育研究上の目的及び養成する人材の目的を達成するために，教育課程を「転換・導入科目」,「教養科目」,「外国語科目」,「専門科目」の４つの科目群から構成することとし，教育課程全体の体系性・順次性を確保し，かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ります。

日本文学文化学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，１年次に科目区分「転換・導入科目」として「専修大学入門科目」,「データリテラシー」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科目」,「保健体育基礎科目」を配しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明できる能力を養成するため，科目区分に「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

・日本の文学と文化に関する基本的な情報を修得し，専門的な知識体系として理解し，説明することができる能力を養成するため，日本文学，日本文化，中国文学，出版文化，ビジュアル文化，児童文化，書道などの領域に関連する科目を配置しています。

・日本の文学と文化及びそれに関連する文献・史料による情報を正しく読み解き，自分自身の思考や判断として適切に伝達することができる能力を養成するため，日本文学研究，日本文化研究，現代文学研究，現代文化研究，文藝創作，マンガ研究，演劇研究，映画研究，書道史などの科目を配置しています。

・幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し，論理的に分析して課題解決に適用することができる能力を養成するため,「ゼミナール１～３」,「卒業論文」を配置しています。

・広い視野から多文化共生社会を生きる能力を身に付け，主体的に行動することができる能力を養成するため，中国文学研究，比較文学研究，アジア文化研究，比較文化研究，書道美学論などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門ゼミナール」,「スポーツリテラシー」,「スポーツウェルネス」において実施し，必修科目として，１年次に全員が学びます。

・幅広い領域の知識・理解の修得は「教養科目」において実施し，８単位以上修得するこ

とを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母国語以外の言語運用能力の養成は，「外国語科目」において実施し，英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。

・古典文学や近現代文学の他，日本文化と関わりの深い分野の基礎的な知識・理解を得るための講義科目や出版編集や書道の分野の実習科目を1年次から履修することができます。

・古典文学や近現代文学の他，日本文化と関わりのある文献・史料を活用し調査・分析を行い，自分自身の発想や思考を説明する応用力の養成をはかる講義科目や，それらを統合・活用し研究レポートや文藝作品の制作などを通じて論理的思考力の養成をはかる演習科目を2年次から履修することができます。これらの「専門科目」群の中から56単位以上修得することを卒業要件としています。

・幅広い教養と専門知識を統合した価値を創出し，論理的に分析して課題解決に適用することができる自己設計力を養成するための科目のうち，「ゼミナール1～3」は2～4年の各年次に学び，必修科目として12単位修得することを卒業要件としています。「卒業論文」は4年次に定時外に実施し，必修科目として8単位修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」，「キャリア入門」，「情報入門1・2」，「あなたと自然科学」，「スポーツリテラシー」，「スポーツウェルネス」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また，「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とし

ます。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」では，日本の文学と文化に関する専門の骨格を正確に把握させるとともに，科目間の関係や履修の順序，単位数等に配慮し，系統性と順次性のある教育課程の編成としています。「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

古典文学や近現代文学はもちろん，１年次から幅広く履修し知見を広げるために日本文化と関わりの深い中国文学，書道など各分野の概説的な内容の科目が配当さてれています。また，文藝創作や演劇の講義，書道の実習，雑誌編集の実践など自分で創作する科目も設定されています。さらに２年次からゼミナールに所属し，少人数の演習形式で実施されます。各自が設定した研究テーマに応じた資質の涵養に努め，その成果として卒業論文・作品を作成します。

英語英米文学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には,「専修大学入門科目」,「専門入門ゼミナール」,「データリテラシー」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明できる能力を養成するため，科目区分に「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

・英語圏の文学・文化や歴史に関する知識を修得し，文化・歴史・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け，それらについて説明することができる能力を養成するため,「英語英米文学概論１・２」,「特別総合講義」などの科目を配置しています。

・グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身につけ，他者に対し，自分自身の思考や判断を的確に表現することができる能力を養成するため,「Integrated English１・２」,「英語プレゼンテーション１・２」などの科目を配置しています。

・国際的な視野から知識を統合し，活用することによって様々な課題を論理的に分析し，問題解決に導くために応用することができる能力を養成するため,「国際理解１・２」,

「異文化理解」,「異文化コミュニケーション」などの科目を配置しています。

・英語圏文化における多様な価値観を理解し，倫理的な判断を踏まえた上で，国際的な視点から独自の考えを構築することができる能力を養成するため,「イギリスの歴史と文化１・２」,「アメリカの歴史と文化１・２」などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門科目」において実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。

・情報・データリテラシーの基礎力養成は,「転換・導入科目」の「情報リテラシー科目」および「データリテラシー」において実施します。

・幅広い領域の知識・理解の修得は,「教養科目」において実施し，8単位以上修得することを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は,「外国語科目」において実施し，英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。

・英語圏の文学・文化や歴史に関する知識を修得し，文化・歴史・社会・自然などについて幅広く一般的教養を身に付け，それらについて説明することができるための科目は，1年次から展開します。

・グローバル社会で役立つ英語運用能力や英語圏文化に関する情報の収集・処理能力を身につけ，他者に対し，自分自身の思考や判断を的確に表現することができるための科目は，その多くを必修科目として，1年次から学びます。

・国際的な視野から知識を統合し，活用することによって様々な課題を論理的に分析し，問題解決に導くために応用することができるための科目は，2年次から展開します。

・英語圏文化における多様な価値観を理解し，倫理的な判断を踏まえた上で，国際的な視点から独自の考えを構築することができるための科目は，2年次から展開します。

これらの専門科目群の中から，英語コミュニケーションコースは84単位以上，英語文化コースは72単位以上修得することを卒業要件としています。

・科目のうち，ゼミナール１～４は，3年から4年の各年次に実施し，必修科目として8単位，卒業研究は4単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」,「専門入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」,「キャリア入門」,「情報入門１・２」,「あなたと自然科学」,「スポーツリテラシー」,「スポーツウェルネス」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではな

く，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

1年次に履修する専門科目の学修のための導入科目としての「英語英米文学概論1・2」は，英語英米文学にまつわる基礎的な知識を身につけられる内容であり，演習形式とします。

1・2年次においては，聞く・話す・読む・書くという英語4技能それぞれに特化した科目と統合した科目の計14科目をそれぞれの学生の英語力に応じて学修できるように習熟度別クラスにて必修科目として演習形式で展開します。2・3・4年次では，英語力をさらに高め，自分自身の思考や判断を的確に表現するための能力を身につける内容であり，多種の上級英語スキル科目計14～16科目を選択必修科目として演習・実習形式とします。

2・3・4年次で履修する，英語圏の文学や文化，英語学，応用言語学に関する専門科目である,「イギリスの歴史と文化1・2」,「アメリカの歴史と文化1・2」などは専門的な知識を理解する内容であり，選択必修科目として講義形式として計64～78科目展開します。他にも,「国際理解1・2」,「異文化理解」,「異文化コミュニケーション」などは，国際的な視野から知識を統合し，活用することによって様々な課題を論理的に分析し，問題解決に導く能力を身につける内容であり，講義形式とします。

3・4年次では，全員がゼミナールに属し，各自の個性的な資質の涵養に努め，英語英米文学に関する分析の技法を身につける内容であり，少人数の演習形式とします。

哲学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には,「専修大学入門科目」,「専門入門ゼミナール」,「データリテラ

シー」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

・哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し，それらを説明することができる能力を養成するため，哲学の各分野のもっとも包括的な科目として概論科目を，哲学・思想の流れを学ぶ科目として思想史科目を配置しています。

・多様な文献を正確に読解する能力に基づいて，自分の解釈を適切に表現し，他者に伝えることができる能力を養成するため,「専門入門ゼミナール」を配置しています。

・哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し，ものごとを多様な視点から分析的にとらえ，筋道立てて思考することを通じて，課題の新たな捉え方や解決策を提示し，社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するため，哲学・思想の特定の分野の哲学系の概説科目と，狭義の哲学をこえて広く思想・文化・芸術を扱う概説科目とを配置しています。

・自分の考えをむやみに絶対視することなく，他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって，社会に参画することができる能力を養成するため，ゼミナール，卒業論文を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門科目」において実施し，必修科目として，1年次に学びます。

・情報・データリテラシーの基礎力養成は,「転換・導入科目」の「情報リテラシー科目」および「データリテラシー」において実施します。

・幅広い領域の知識・理解の修得は,「教養科目」において実施し，8単位以上修得することを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は,「外国語科目」において実施し，英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。

・哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得し，それらを説明することができる能力を養成するための科目，多様な文献を正確に読解する能力に基づいて，自分の解釈を適切に表現し，他者に伝えることができる能力を養成するための科目は，1年次から実施します。

哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し，ものごとを多様な視点から分析的にとらえ，筋道立てて思考することを通じて，課題の新たな捉え方や解決を提示し，社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するための科目，自分の考えをむやみに絶対視することなく，他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって，社会に参画することができる能力を養成するための科目は，2年次から実施します。

これらの専門科目群の中から72単位以上修得することを卒業要件としています。

・哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し，ものごとを多様な視点から分析的にとらえ，筋道立てて思考することを通じて，課題の新たな捉え方や解決策を提示し，社会の諸問題の解決に寄与することができる能力を養成するための科目，自分の考えをむやみに絶対視することなく，他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって，社会に参画することができる能力を養成するための科目のうち，ゼミナール1～3は，2年から3年の各年次に実施し，必修科目として12単位，卒業論文は8単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」,「専門入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」,「キャリア入門」,「情報入門1・2」,「あなたと自然科学」,「スポーツリテラシー」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

1年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習）で実施します。

・概論科目や思想史科目は，哲学の基礎的な知識を身につけ，哲学の専門的な知識を理解する内容であり，講義形式とします。

・「専門入門ゼミナール」は，文献から得た情報についての自分の解釈を適切に表現し，他者に伝えることができる能力を身につける内容であり，演習形式とします。

・哲学系の概説科目と広く思想・文化・芸術を扱う概説科目は，哲学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合し，ものごとを多様な視点から分析的にとらえて課題の新たな捉え方や解決を提示する能力を身につける内容であり，主に講義形式とします。

・「ゼミナール１～３」「卒業論文」は，他者や異文化を理解する柔軟な視点をもって，社会に参画することができる能力を身につける内容であり，少人数の演習形式とします。

歴史学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には,「専修大学入門ゼミナール」,「専門入門ゼミナール」,「データリテラシー」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

・日本および世界各地域の過去の歴史について深く掘り下げて理解し，説明することができる能力を養成するため,「世界史講義１～８」,「欧米文化史１・２」,「イスラーム史１・２」などの多彩な科目を配置しています。

・歴史上の様々な課題を解明するために必要な，言語または非言語の情報・データを収集・分析し，適切に表現することができる能力を養成するため,「歴史資料研究法１～20」などの科目を配置しています。

・歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し，知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め，独自の成果を創出することができる能力を養成するため,「ゼミナール１～３」などの科目を配置しています。

・多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて，社会の諸課題に対して，倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成するため,「卒業論文」などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。
・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は，「転換・導入科目」の「専修大学入門ゼミナール」「専門入門ゼミナール」において実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。
・幅広い領域の知識・理解の修得は，「教養科目」において実施し，8単位以上修得することを卒業要件としています。
・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は，「外国語科目」において実施し，英語から8単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から8単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。
・日本および世界各地域の過去の歴史について深く掘り下げて理解し，説明することができる能力を養成し，さらに，多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて，社会の諸課題に対して，倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成するための科目は，1年次から実施します。
このうち「日本史概説1・2」，「アジア史概説1・2」，「欧米史概説1・2」，「総合世界史1～4」，「古文書学概論1・2」，「考古学概論1・2」は1・2年次に実施します。「日本史概説1・2」，「アジア史概説1・2」，「欧米史概説1・2」のなかから8単位以上修得することを卒業要件としています。
上記の他の科目は2～4年次に実施します。「総合世界史1～4」，「古文書学概論1・2」，「考古学概論1・2」を含めた科目群のなかから42単位以上修得することを卒業要件としています。
・歴史上の様々な課題を解明するために必要な，言語または非言語の情報・データを収集・分析し，適切に表現することができる能力を養成し，さらに，歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し，知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め，独自の成果を創出することができる能力を養成する科目は，2年次から実施します。
このうち「歴史資料研究法1～20」は2年次において実施し，4単位以上修得することを卒業要件としています。「古文書学実習」は3・4年次，「考古学実習1・2」は2～4年次で実施します。
・歴史上の様々な事象について自ら問題を設定し，知識・技能を統合・応用して論理的に分析を深め，独自の成果を創出することができる能力を養成し，さらに多様な価値観の受け入れや相互批判を通じて，社会の諸課題に対して，倫理観をもって主体的に取り組むことができる能力を養成する科目のうち，「ゼミナール1～3」は，2年から4年の各年次に実施し，必修科目として12単位，「卒業論文」は8単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」，「キャリア入門」，「情報入門1・2」，「あなたと自然科学」，「スポー

ツリテラシー」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）をとります。

・「日本史概説１・２」,「アジア史概説１・２」,「欧米史概説１・２」は，各領域の基本的な知識を学ぶ内容であり，講義形式とします。
・「日本文化史１・２」,「アジア文化史１・２」,「欧米文化史１・２」は，それぞれの地域が生んだ文化の特色について専門的な知識を理解する内容であり，講義形式とします。
・「世界史講義１～４」,「イスラーム史１・２」,「ジェンダー史１・２」では，現代社会の諸問題を踏まえて歴史学が取り組んでいる最新のテーマについて学ぶ内容であり，講義形式とします。
・「総合世界史」は，時代や地域，学問の固有の性格を超えて，世界史的視野から歴史研究の多様性・共通性を学ぶ内容であり，講義形式とします。このうち「総合世界史１・２」は，学科の専任教員全員がオムニバス形式で授業を担当します。
・「歴史資料研究法１～20」は，歴史研究のもとになる資料を収集するための技術や，資料を読みこなす力など，研究に必要な基本的能力を身に付ける内容であり，演習形式とします。
・「古文書学実習」は，古文書の取り扱い方法・解読能力を身につける内容であり，演習および実習形式とします。
・「考古学実習１・２」は，考古学的調査の基本を学んだうえで，実際に発掘調査に参加し技能を身につける内容であり，実習形式とします。

・「ゼミナール１～３」は，３か年の間に卒業論文を作成するための能力を身につける内容であり，演習形式とします。「卒業論文」は歴史学科での学びの集大成となるもので，ゼミナールの教員の指導のもと，自らの立てた研究課題について資料・関連論文を収集し，その批判的検討をへて論文として完成させます。

環境地理学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，科目区分「転換・導入科目」には，「専修大学入門科目」，「専門入門ゼミナール」，「データリテラシー」，「キャリア基礎科目」，「情報リテラシー科目」，「基礎自然科学」，「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明することができる能力を養成するため，科目区分「教養科目」には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「融合領域科目」，「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

・地理学における基本的な知識・理論を理解し，それらを説明することができる能力を養成するため，「都市環境学１・２」「農村環境学１・２」「歴史環境学１・２」「社会環境学１・２」「地誌学１・２」「地形環境学１・２」「気候環境学１・２」「地域生態学１・２」「環境地図学１・２」などの科目を配置しています。

・情報技術等を利用して地域や環境に関するデータを収集，処理するとともに，分析の結果を適切な表現で他者に伝えることができる能力を養成するため，「空間情報学１・２」「地理情報システム実習１・２」などの科目を配置しています。

・地理学における理論を基盤とした思考方法と世界の諸地域についての知識を活用し，地域や環境に関する社会の諸課題に取り組むことができる能力を養成するため，「ゼミナール１・２」などの科目を配置しています。

・地域や環境についての調査活動を通じて，社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力とそれを更新し続けることができる能力を養成するため，「卒業論文」などの科目を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は，多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は，「転換・導入科目」の「専修大学入門科目」において実施し，必修科目として，１年次に全員が学びます。

・情報・データリテラシーの基礎力養成は，「転換・導入科目」の「情報リテラシー科目」および「データリテラシー」において実施します。

・幅広い領域の知識・理解の修得は，「教養科目」において実施し，８単位以上修得するこ

とを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母語以外の言語運用能力の養成は，「外国語科目」において実施し，英語から４単位以上（外国人留学生は日本語８単位以上），英語以外の外国語から４単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。

・地理学分野の基礎的な知識・理解を得るための科目を，主として１年次から３年次に実施します。

・地理学分野のデータや地図等を分析し，情報・データリテラシーの応用力養成をはかる科目を２年次から実施します。

・フィールドワークの実践等を通じて問題解決力や自己設計・管理力を養成する科目として３，４年次に「ゼミナール１」「ゼミナール２」を実施します。必修科目として各４単位計８単位を修得することを卒業要件としています。

・卒業研究を通じて地域や環境に関する課題解決を模索する中で，倫理観や社会的責任についての意識の向上を図る科目として４年次に「卒業論文」を実施します。必修科目として８単位を修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」,「キャリア入門」,「情報入門１・２」,「あなたと自然科学」,「スポーツリテラシー」は, 専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力

を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

・地理学分野の基礎的な知識・理解を得るための「都市環境学１・２」「農村環境学１・２」「歴史環境学１・２」「社会環境学１・２」「地誌学１・２」「地形環境学１・２」「気候環境学１・２」「地域生態学１・２」「環境地図学１・２」などの科目は講義形式とします。

・地理学分野のデータや地図等を分析し，情報・データリテラシーの応用力養成をはかる「空間情報学１・２」「地理情報システム実習１・２」などの科目は実習形式とします。

・フィールドワークの実践等を通じて問題解決力や自己設計・管理力を養成する「ゼミナール１・２」および卒業研究を行う「卒業論文」は少人数の演習形式とします。

ジャーナリズム学科

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・卒業認定・学位授与の方針で掲げる資質・能力の基盤となる授業科目として，１年次に科目区分「転換・導入科目」として「専修大学入門科目」,「データリテラシー」,「キャリア基礎科目」,「情報リテラシー科目」,「基礎自然科学」,「保健体育基礎科目」を配置しています。

・文化，歴史，社会，自然など幅広い領域の知識を理解し，説明できる能力を養成するため，科目区分に「教養科目」には,「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」,「融合領域科目」,「保健体育系科目」を配置しています。

・言語運用能力を身につけ，活用することができる能力を養成するため，科目区分「外国語科目」には,「英語」,「英語以外の外国語」,「海外語学研修」を配置しています。

②専門科目

・科目区分「専門科目」には，本学科の学位授与の方針をふまえ，以下のような科目群を配置しています。

まずカリキュラムを編成するにあたり,「ジャーナリズム」,「情報文化アーカイブ」,「メディアプロデュース」,「スポーツインテリジェンス」の４つの学びの柱を設けています。また科目間の関係や履修の順序，単位数等に配慮し，系統性と順次性のある教育課程を構築し,「基礎科目」,「基幹科目」,「発展・応用科目」,「関連科目」の科目群を配置しています。

・ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる能力を養成）するため,「基礎科目」を配置しています。

・社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成）するため,「情報表現実習（基礎)」「情報表現実習（応用)」（２科目４単位）などの科目を配置しています。

・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決すること

ができる能力を養成）するため,「基幹科目」,「発展・応用科目」,「関連科目」を配置しています。

・広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成）するため,「発展・応用科目」,「関連科目」を配置しています。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①転換・導入科目，教養科目，外国語科目

・大学での学修の基盤となる能力を養成する「転換・導入科目」は多様な入学者が自ら学修計画を立て，主体的な学びを実践する初年次教育として実施します。

・言語運用能力のうち，自分自身の思考や判断を明晰かつ適切に伝達するための基礎力養成は,「転換・導入科目」の「専修大学入門ゼミナール」,「スポーツリテラシー」,「スポーツウェルネス」において実施し，必修科目として，1年次に全員が学びます。

・幅広い領域の知識・理解の修得は「教養科目」において実施し，8単位以上修得することを卒業要件としています。

・言語運用能力のうち，母国語以外の言語運用能力の養成は,「外国語科目」において実施し，英語から4単位以上（外国人留学生は日本語8単位以上），英語以外の外国語から4単位以上修得することを卒業要件としています。

②専門科目

・「専門科目」については教育課程編成の方針に基づき，以下のように実施します。

・ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる能力を養成するための科目である「基礎科目」は，1年次から実施し,「ジャーナリズム論」など4科目8単位を必修科目，12科目24単位を選択科目として配置しています。特に社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成するための科目である「情報表現実習（基礎）」「情報表現実習（応用）」（2科目4単位）などを配置しています。

・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するための科目，広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目である「基幹科目」（26科目52単位を選択科目),「発展・応用科目」（6科目16単位を必修科目，29科目58単位を選択科目）「関連科目」は，30科目60単位を選択科目）とし，2年次（「情報とスポーツ」,「現代社会とスポーツ」は1年次）から実施します。

・ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するための科目，広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目のうち，ゼミナール1～4は，3年から4年の各年次に実施し，必修科目として8単位，卒業論文・制作は6単位を修得することを卒業要件としています。

・これらの専門科目群の中から，82単位以上修得することを卒業要件としています。

(3) 教育内容・方法

①転換・導入科目

高等学校段階の教育と大学での教育とを接続するために，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける内容の「専修大学入門ゼミナール」は，初年次教育の少人数演習形式とします。

「データ分析入門」,「キャリア入門」,「情報入門１・２」,「あなたと自然科学」,「スポーツリテラシー」は，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点を持つため，その基礎となる内容と，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につける内容とします。

②教養科目

各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた幅広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることを目的とする「教養科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実験・実習）とします。

「教養科目」を構成する「人文科学基礎科目」,「社会科学基礎科目」,「自然科学系科目」は，特に，文化，歴史，社会，自然など幅広い教養を身につける内容とします。また,「融合領域科目」は，基礎的な知識や技能を背景として，専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力を養成する内容とします。「保健体育系科目」は，自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず，自己管理力やチームワークなどを身につける内容とします。

③外国語科目

英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し，適切なコミュニケーションを行うことで，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的とする「外国語科目」は，一部の授業科目を除き，演習形式とします。

１年次に履修する英語は，入学時に行うプレイスメントテストに基づいて習熟度別の少人数クラスを編成し，外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力を身につける内容とします。

英語以外の外国語は，多くの学生が初めて学ぶものであることを踏まえ，初級・中級・上級とそれぞれの学習段階における到達目標を明確にした内容とします。

また，異文化・多文化への理解を深め，世界の諸地域の言語とその背景となる文化を身につける内容の「世界の言語と文化」,「言語文化研究」は，講義形式とします。

④専門科目

「専門科目」は各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

主にジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる能力を養成するための科目，社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる能力を養成するための科目である「基礎科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

主にジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる能力を養成するための科目，広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる能力を養成するための科目で

ある「基幹科目」,「発展・応用科目」,「関連科目」は，各授業科目の内容に応じた授業形態（講義，演習，実習）で実施します。

文学部長
道 家 英 穂

は じ め に

ご入学おめでとうございます。専修大学文学部の教職員一同，みなさんを心より歓迎いたします。

専修大学の文学部には，日本文学文化学科，英語英米文学科，哲学科，歴史学科，環境地理学科，ジャーナリズム学科の６つの学科があります。みなさんは自分の選んだそれぞれの学科の学問分野に関心を抱き，これから４年間，学修・研究に打ち込むことへの期待に胸を膨らませていることでしょう。

大学での勉強は高校までとは大きく異なります。高校では文系か理系かによって，学ぶ教科は異なるものの，それぞれの教科で学習する内容は決められています。大学では高校までに身につけた知識やスキルを基礎にして，主体的に勉学に励むことになります。これまでは流れにそって川を下ってきましたが，これからいよいよ広い学問の大海原にこぎ出すのです。では高校のように決まった教科書も時間割もないなかで，どの方向に向かって進んでいけばよいのでしょうか。その指針を示してくれるのが，このガイドブックです。大学での学修の仕方については，１年次前期の専修大学入門ゼミナールで学ぶことになりますが，その前に，自分が属する学科の授業の履修方法を知り，卒業までの履修計画を立てなければなりません。このガイドブックにはそのために必要な情報が載っています。熟読して，１年次から４年次まで体系的に学んでいけるよう，入念に計画をたててください。文学部での学びの集大成が，４年次の卒業論文（卒業研究，卒業論文・制作）になります。4年間の学修の成果として自分で納得できる論文（研究，制作）を仕上げることは，その後の人生の糧となるでしょう。

その一方，６つの学科を擁する文学部には，自分の所属する学科以外にも相互に履修できるさまざまな科目があります。自分の専門に打ち込むことも大切ですが，違う分野の学問に触れれば視野を広げることができ，それによって専門分野への理解も深まります。自分独自の時間割を組むことができるのが大学の特徴ですから，意欲的に他学科の科目も履修することをお勧めします。

みなさんが入学時のわくわくした気持ちを持ちつづけて充実した学生生活を送り，卒業のときには本学文学部で学んでよかったと実感できることを願ってやみません。

目　　次

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）　…… 3
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）　…… 5
はじめに　…… 21
第１章　卒業までに何を学ぶか
Ⅰ　大学の授業科目　…… 29
1　専修大学の学士課程教育　…… 29
2　専修大学の科目ナンバリング　…… 30
3　専修大学の数学・データサイエンス・ＡＩ教育　…… 33
4　全学公開科目　…… 34
5　授業科目の種類　…… 35
6　単位制と履修年次指定制　…… 35
7　単位の考え方と算定基準　…… 35
8　オンライン授業による修得単位の上限について　…… 35
Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修　…… 36
1　大学卒業の要件　…… 36
2　履修計画の立て方　…… 37
3　履修上限単位数　…… 37
4　科目の再履修　…… 37
5　履修モデル　…… 38
Ⅲ　科目の履修登録　…… 39
Ⅳ　試験と成績評価　…… 40
1　試験の種類　…… 40
2　受験上の注意，その他　…… 41
3　定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価　…… 42
4　卒業論文，卒業研究，卒業論文・制作　…… 42
5　成績評価と通知　…… 43
Ⅴ　卒業　…… 45
1　卒業見込証明書の発行　…… 45
2　卒業発表　…… 45

第２章　転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方
Ⅰ　転換・導入科目　…… 49

専修大学入門科目 …… 49
専門入門ゼミナール …… 50
データリテラシー …… 50
キャリア基礎科目 …… 51
情報リテラシー科目 …… 52
基礎自然科学 …… 53
保健体育基礎科目 …… 53
Ⅱ　教養科目 …… 56
人文科学基礎科目 …… 56
社会科学基礎科目 …… 58
自然科学系科目 …… 59
融合領域科目 …… 61
保健体育系科目 …… 62
Ⅲ　外国語科目 …… 64
英語 …… 64
英語以外の外国語 …… 68
海外語学研修 …… 71
Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目 …… 75

第３章　専門科目の学び方
専門科目では何を学ぶか …… 79
日本文学文化学科
Ⅰ　日本文学文化学科の特色 …… 80
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 81
１　卒業要件 …… 81
２　科目の履修方法 …… 82
文学部日本文学文化学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 87
文学部日本文学文化学科（外国人留学生）転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 88
文学部日本文学文化学科専門科目一覧 …… 89

英語英米文学科
Ⅰ　英語英米文学科の学生のために …… 91
１　英語英米文学科の特色 …… 91
２　１年次の履修に当たって …… 92
３　コース分けについて …… 93

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 93
1　卒業要件 …… 93
2　科目の履修方法 …… 95
文学部英語英米文学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 101
文学部英語英米文学科(外国人間学生)転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 … 102
文学部英語英米文学科（英語コミュニケーションコース）専門科目一覧 …… 103
文学部英語英米文学科（英語文化コース）専門科目一覧 …… 104
哲学科
Ⅰ　哲学科の特色 …… 105
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 107
1　卒業要件 …… 107
2　科目の履修方法 …… 108
文学部哲学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 113
文学部哲学科(外国人留学生)転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 114
文学部哲学科専門科目一覧 …… 115
歴史学科
Ⅰ　歴史学科の特色 …… 117
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 118
1　卒業要件 …… 118
2　科目の履修方法 …… 119
文学部歴史学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 125
文学部歴史学科(外国人留学生)転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 126
文学部歴史学科専門科目一覧 …… 127
環境地理学科
Ⅰ　学科の目的・課題・方法 …… 129
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 130
1　卒業要件 …… 130
2　科目の履修方法 …… 130
Ⅲ　履修モデルと資格認定手続き …… 137
1　履修モデル …… 137
2　資格の取得のための条件と手続き …… 137
文学部環境地理学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 139
文学部環境地理学科(外国人留学生)転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 140
文学部環境地理学科専門科目一覧 …… 141

ジャーナリズム学科
Ⅰ　ジャーナリズム学科の特色 …… 143
Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法 …… 144
1　卒業要件 …… 144
2　科目の履修方法 …… 146
文学部ジャーナリズム学科転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 151
文学部ジャーナリズム学科（外国人留学生）転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧 …… 152
文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧 …… 153
文学部専門科目一覧 …… 155

第４章　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について
Ⅰ　科目設置の趣旨と教育の目的 …… 163
Ⅱ　文学部で取得できる資格について …… 164
Ⅲ　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目 …… 165
Ⅳ　文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格 …… 171
Ⅴ　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料 …… 173

第５章　資格課程について
Ⅰ　教職課程 …… 185
Ⅱ　司書・司書教諭・学校司書課程 …… 186
Ⅲ　学芸員課程 …… 186
Ⅳ　大学院教職課程 …… 187
Ⅴ　科目等履修生 …… 187

付　　録
Ⅰ　専修大学履修規程 …… 191
Ⅱ　専修大学定期試験規程 …… 194
Ⅲ　定期試験における不正行為者処分規程 …… 198

第１章

卒業までに何を学ぶか

Ⅰ　大学の授業科目

Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修

Ⅲ　科目の履修登録

Ⅳ　試験と成績評価

Ⅴ　卒　　業

Ⅰ　大学の授業科目

１．専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんが，これから４年間専修大学に在学し，各学部学科で定められている授業科目の単位を修得すると，それぞれの専攻分野を付した「学士」となって卒業し，「社会への第一歩」を踏み出します。

この入学から「社会への第一歩」を繋ぐ「学び」の道のりを「学士課程」と呼んでいます。

しかしながら，中学や高校の勉強と大学での「学び」は同じではありません。大学では，一人ひとりが自分で「学び」を選択し，自ら研鑽することが求められます。大学における「学び」は，受動的，画一的な「学習」ではなく，能動的，自律的な「学修」なのです。

そこで専修大学の「学士課程教育」では，まず，みなさんが大学での「学び」や生活にスムーズに適応し，大学および社会で求められる必要不可欠な基礎的知識と技能を修得できるよう転換・導入科目を設置しています。例えば，少人数の専修大学入門ゼミナールは全ての学部の学生が履修する科目です。この科目で，専修大学の学生としての自覚と心構えを得るでしょう。

この転換・導入科目に加えて，専修大学の学士課程教育は，教養科目，外国語科目および専門科目の４つの科目群で構成されています。転換・導入科目を土台に，教育課程全体の体系性・順次性が確保されるとともに，かつ教養教育と専門教育の有機的連携が図られています。2019 年度からは科目ナンバリングも導入され，科目の体系性・順次性がよりわかりやすくなりました。

教養科目には，「人文科学基礎科目」，「社会科学基礎科目」，「自然科学系科目」，「融合領域科目」および「保健体育系科目」の５つの科目群があり，興味を持った分野をより深く学べるようになっています。今日的かつ学際的・融合的な科目も用意されています。外国語科目は，「英語」，「英語以外の外国語」，「海外語学研修」の３つの科目群で構成されています。外国語の重要性はみなさんも十分に理解しているでしょう。専門科目は，それぞれの専攻分野について，基礎から応用へと段階的に学修できる科目配置となっています。専修大学の多様な科目を履修することで，各自の興味や関心を深化，発展させたり，専門分野を多角的に考察したりすることで，社会に通用する力を確実につけることができます。

つまり，専修大学の学士課程教育を通じて，どの学部に所属していても，社会に出てから必要な基礎的知識や技能を学び，課題解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力などを身につけることができます。専修大学の学士課程教育は，一人ひとりの「学修」が，将来の持続的成長につながるよう，様々に工夫されています。

みなさんの将来には，無限の夢と希望が満ち溢れています。しかし内外の環境は急速に変化しており，それらに適時適切な対応をしつつ，世界に飛翔するためには，国際的通用性を備え，先見性・創造性・独創性に富み，積極的に社会を支え，社会を改善する意欲・能力が肝要です。「学び」は一瞬の夢ではありません。生涯続く険しい道のりです。高い志と気概を失うことなく，21 世紀を生き抜くために，専修大学での学びを通じて人生の礎を築いてください。

２．専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは，授業科目に適切な番号を付し分類することで，学修の段階や順序等を表し，教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。専修大学では科目ナンバリングを，６桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」で表すこととし，2019 年度から全ての学部で導入しています。コースコードを用いることで，学びたい分野で開講されている科目とそのレベルを参照することができます。学びたい科目の詳細な授業内容は講義要項（シラバス）で確認することができますので，みなさんの興味関心を最大限に活かした，より体系的な履修計画を立てることができます。

なお，コースコードは講義要項（シラバス）に表示されるほか，単位修得学業成績証明書（和文・英文）および二種複合証明書に記載されます。コースコードは，年度毎に付番するのではなく，原則として授業科目に固定したものとして付されます。

１．「科目ナンバリング」の意義

みなさんが，履修する授業科目を検討する際に，授業科目の分類，標準的な学修の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

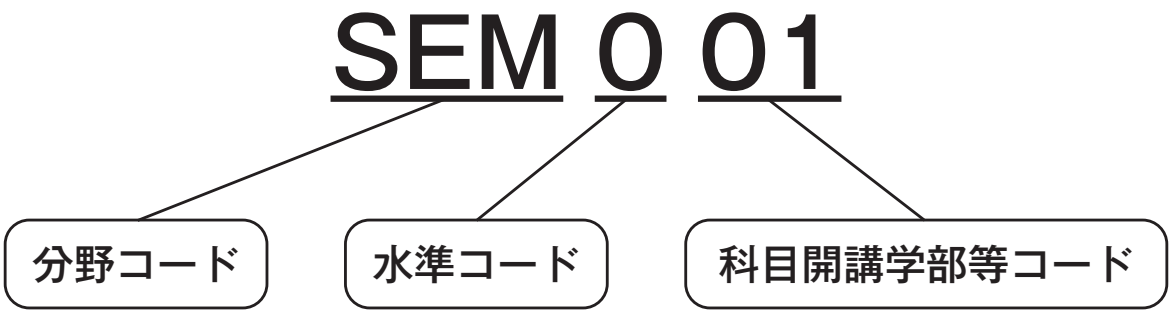
また，コードの構成は全学部で統一されているため，全学公開科目のように他学部で開講されている科目を履修する際に，学問分野や科目の水準など，開講科目の位置づけを理解することが容易になるので，主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

さらに，コースコードは学外にも公開されますので，国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や，在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する場合の単位互換等を円滑に進められることが期待できます。

２．「コースコード」の構成

「コースコード」は，「①分野コード（科目の学問分野を表す）」「②水準コード（科目のレベル，水準や難易度を表す）」「③科目開講学部等コード（開講学部や科目区分等）」から構成され，授業科目毎にコードが付されます。

例えば，転換・導入科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合，次のようなコースコードが付されます。



＜各コードの意味＞

①分野コード　専修大学で開講されている科目を１１１の分野に分け，３桁のアルファベットで表します。

科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード
会計学	ACC	ドイツ語	GER	経営学	MAN
アラビア語	ARA	地理学一般	GGR	数理科学	MAT
考古学	ARC	情報学一般	GIN	学芸員課程	MCP
芸術一般	ARL	心理学一般	GPS	経営情報学	MNI
地域研究	ARS	ギリシャ語	GRK	金融・ファイナンス	MOF
美学・芸術諸学	ASA	アジア史・アフリカ史	HAA	新領域法学	NFL
文化財科学・博物館学	CAS	ヨーロッパ史・アメリカ史	HEA	自然科学一般	NSC
中国語	CHI	人文学一般	HMN	海外語学研修	OSS
中国文学	CHL	思想史	HOT	財政・公共経済	PFP
民事法学	CIL	史学一般	HSG	哲学一般	PHE
臨床心理学	CLP	人文地理学	HUG	自然地理学	PHG
商学	CME	人間情報学	HUI	計算基盤	POI
キャリア科目	CRE	人体病理学	HUP	政治学	POL
刑事法学	CRL	情報通信技術	ICT	精神神経科学	PSS
文化人類学・民俗学	CUA	国際開発問題	IDG	公法学	PUL
発達心理学	DEP	融合領域科目	IDS	地誌学	REG
デザイン学	DES	国際経済政策	IEP	宗教学	RES
経済史	ECH	国際法学	ILA	ロシア語	RUS
経済政策	ECP	インドネシア語	IND	社会科学一般	SCS
経済統計	ECS	国際関係論	INR	ゼミナール	SEM
理論経済学	ECT	情報システム	INS	空間情報科学	SIS
教育心理学	EDP	イタリア語	ITL	学校司書課程	SLP
教育工学	EDT	日本文化	JAC	特別支援教育	SNE
教育学	EDU	日本文学	JAL	社会学	SOC
英語一般	ENG	日本語教育	JLE	社会情報学	SOI
英語学	ENL	日本語学	JLI	社会法学	SOL
経済学・政治経済学	EPE	日本史	JPH	社会心理学	SOP
環境政策・環境社会システム	EPS	日本語	JPN	特殊講義	SPL
英語　読む・聴く	ERL	ジャーナリズム	JRN	スペイン語	SPN
英語　話す・書く	ESW	コリア語	KOR	スポーツ科学	SPS
倫理学	ETH	ラテン語	LAT	社会システム工学	SSE
実験心理学	EXP	司書課程	LCP	統計科学	STS
美術史	FAH	図書館情報学・人文社会情報学	LHS	SWP 科目	SWP
外国語教育	FLE	英米・英語圏文学	LIE	教職課程	TCP
フランス語	FRE	文学一般	LIG	卒業論文・卒業研究	THE
基礎法学	FUL	言語学	LIN	司書教諭課程	TLP
ジェンダー	GDE	論理学	LOG	世界の言語と文化・言語文化研究	WLC

②水準コード　学士課程４年間におけるそれぞれの科目の位置づけ（学修段階）に基づいて，１桁の数字で表します。科目の配当年次とは異なりますので，３・４年次に水準の低い科目を履修することも，１・２年次に高い水準の科目を履修することもありえます。

水準コード	学　修　段　階
0	転換教育および導入教育を目的とした科目
1	学問分野の初級レベル，入門的位置づけの科目 （主に大学１年次を想定したレベル）
2	学問分野の中級レベル，基礎的位置づけの科目 （主に大学２年次を想定したレベル）
3	学問分野の上級レベル，発展的・応用的位置づけの科目 （主に大学３・４年次を想定したレベル）
4	学士課程で学修する最高水準の科目 （主に４年次を想定したレベル）

③科目開講学部等コード　科目を開講している学部等を２桁の数字で表します。

科目開講学部等コード	科　目　開　講　学　部　等
01	転換・導入，教養，外国語科目
02	資格課程科目
03	ＳＷＰ科目
11	経済学部
12	法学部
13	経営学部
14	商学部
15	文学部
16	ネットワーク情報学部
17	人間科学部
18	国際コミュニケーション学部

３．専修大学の数理・データサイエンス・ＡＩ教育

令和３年に発表された第６期科学技術基本計画では，前期計画で掲げた「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」である Society 5.0 を現実のものとすることが再提示されました。Society 5.0 で実現する社会とは，IoT （Internet of Things）でモノとモノがつながり，様々な知識や情報が共有され，今までにない新たな価値を生み出すことで，これらの課題や困難を克服するとされています。サイバー空間では，人工知能（ＡＩ）により，必要な情報が必要な時に提供されるようになり，それがフィジカル空間におけるロボットや自動運転技術などで，少子高齢化，地方の過疎化，貧富の格差などの課題が克服されることが期待されています。

フィジカル空間でのロボットなどの技術革新も必要となりますが，Society 5.0 を支えるのはサイバー空間におけるビッグデータの収集と解析，解析結果のフィジカル空間へのフィードバックです。そのため，大学では所属学部の文系理系を問わず，必要とされる数理・データサイエンスの基礎的な素養を持つ人材から高度な技術を持つ専門的な人材まで，様々なレベルに対応した戦略的な人材育成を推進することが必要です。これらの素養や技術を用いて社会の諸課題を解決し，一人ひとりの人間が中心となる社会，すなわち Society 5.0 を実現するという目標は，専修大学の教育目標である「社会知性の開発」にも通じるものです。

専修大学文学部では，Si データサイエンス教育プログラム（※）として，「情報入門１」「情報入門２」を設置しています。「情報入門１」では情報倫理について理解し，情報機器，ネットワークの基本的な使い方および情報処理の基本的な考え方を学修します。「情報入門２」では，「情報入門１」で修得した内容をさらに発展させ，プログラミングやシミュレーションなどについても学修します。この「情報入門１」と「情報入門２」は選択科目ではありますが，積極的に受講することを推奨します。

※このプログラムは，本学が標榜する「社会知性（Socio- Intelligence）の開発」の一翼を担うものであり，その目的は，近年急速に進みつつあるビッグデータとＡＩ（人工知能）が駆動する情報化社会を生き抜く力を身につけ，社会の諸課題を解決する手段の一つを養うものです。今後，「専修大学が創り育てる知」のあり方の一つとなります。Si デーサイエンス教育プログラム開講科目の単位修得者には，数理・データサイエンス・ＡＩに関する基礎的能力を有することを証明（令和６年度より修了証明書を発行予定）します。なお，令和５年度に文部科学省「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）認定制度」へ申請し，認定を得る予定です。

４．全学公開科目

⑴　全学公開科目とは

本学では，各学部・学科の教育方針に則して，多様な授業科目を開講している。このうち，「専門科目」は学部別に開講されているため，他学部で開講している専門科目に興味があっても，以前は履修することができなかった。

みなさんの多様な履修希望に応え，他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう，「学部間相互履修制度」が設けられた。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」である。

⑵　公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではない。どの科目を「全学公開科目」とするか，そして，何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定める。

卒業するまでに，どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは，１年次のガイダンスおよびホームページで告知する。

⑶　講義内容

「全学公開科目」の講義内容を知りたい場合は，その科目を公開する学部の講義要項（シラバス）を閲覧する必要がある。各学部の講義要項（シラバス）はホームページで確認できる。

⑷　履修手続

「全学公開科目」は，公開している学部での履修に支障をきたさないよう，履修者数の制限を行うことがある。このため，履修を希望する学生は，その科目担当者の履修許可を得なければならないことになっている。

履修手続・選考等の詳細は，ガイダンスおよびホームページで告知する。

⑸　修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は，卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定される。各学科で卒業要件単位に認定される上限単位は下表のとおりとなる。

学　　科	認定上限単位
日本文学文化学科	28単位
英語英米文学科	16単位
哲　　学　　科	30単位
歴　　史　　学　　科	28単位
環境地理学科	24単位
ジャーナリズム学科	22単位

５．授業科目の種類

大学で履修する科目は，必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など，次のとおり３種類に分類できる。

必　修　科　目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では○印で示す）

選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し，卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では◎印で示す）

選　択　科　目……適宜選択履修できる科目（授業科目一覧では△印で示す）

６．単位制と履修年次指定制

１つの科目の授業を受け，試験に合格すると，その科目についての「単位」が与えられる。「単位」とは一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるもので，大学で開講している各授業科目には，科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められている。大学において学修する場合，すべて単位数によって勉学の達成度が計算され，卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また，一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければならない。これを**履修年次指定制**という。所定の年次で単位を修得することが，次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もある。履修方法は学科によって幾分ちがいがあるので注意すること。

７．単位の考え方と算定基準

大学の授業は，講義，演習，実験，実習，実技などによって行われる。そして，単位とは，授業の受講に加え，事前の準備や事後の展開という学修の課程に要する時間を加味したもので，学修の量を数字で表した学修成果の指標といえる。なお，単位数はそれぞれの科目により異なる。

大学設置基準において「１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており，大学での２単位の講義科目であれば，授業を含めて90時間の学修が必要とされていることになる。毎週１時限の教室での授業が１学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしている。したがって，２単位科目の場合，残りの60時間分を教室外で学修しなければならない。漫然と授業を受けるだけでなく，事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてほしい。

みなさんは，まずこの単位制度を充分理解して，学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に，かつコンスタントに修得していく努力が求められる。

８．オンライン授業による修得単位の上限について

令和２年度から続くコロナ禍において，本学を含む多くの大学では，インターネット等を介して教室以外の場所でも授業を受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ，普及してきました。

本学では，卒業の要件として修得すべき単位数のうち，オンライン授業とする授業科目（総授業回数の半数以上をオンラインで行う授業科目）から修得することができる単位数の上限を，専修大学学則（第５条の４第２項）において60単位と定めています。

各授業科目の授業運営方法（対面・オンライン）は，講義要項（シラバス）などに掲載しますが，ガイダンスでのお知らせや，年度ごとに配布する時間割などの資料を確認のうえ，各自でこの上限単位数を踏まえた学修計画を立ててください。

Ⅱ　大学卒業の要件と科目の履修

１．大学卒業の要件

大学を卒業するためには，⑴４年以上（休学の期間を除いて８年以内）在学すること，⑵所定の科目の単位を修得すること，の２要件が必要である。卒業要件を充たした者は，学位記が授与され，日本文学文化学科，英語英米文学科，哲学科，歴史学科，環境地理学科では学士（文学）の学位を，ジャーナリズム学科では学士（ジャーナリズム学）の学位が与えられる。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**という。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており，大学の決めた卒業要件単位を修得しなければその大学を卒業することはできない。

本学における文学部の卒業要件単位は，各学科とも下記のとおりであるが，内訳条件については第２章「転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方」および第３章「専門科目の学び方」の各学科，コースの条件を参照のこと。

卒業要件単位

学科	コース	卒業要件単位					
		転換導入	教養	外国語	専門	自由選択	合計
日本文学文化		4	8	8	76	28	124
日本文学文化（外国人留学生）		4	8	8	76	28	124
英語英米文	英語コミュニケーション	6	8	4	84	22	124
	英語文化	6	8	4	72	34	124
英語英米文（外国人留学生）	英語コミュニケーション	6	8	8	84	18	124
	英語文化	6	8	8	72	30	124
哲		6	8	8	72	30	124
哲（外国人留学生）		6	8	8	72	30	124
歴史		6	8	8	74	28	124
歴史（外国人留学生）		6	8	8	74	28	124
環境地理		6	8	8	78	24	124
環境地理（外国人留学生）		6	8	8	78	24	124
ジャーナリズム		6	6	8	82	22	124
ジャーナリズム（外国人留学生）		6	6	8	82	22	124

２．履修計画の立て方

それぞれの個性と志向に応じて，４年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で，各年度の具体的な履修計画を立てなくてはならない。

もちろん大学生活全体の大枠を考えると言っても，入学当初から上級年次の選択科目のどれとどれを履修するかというようなことは決めておくことはできない。学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断もできるようになるからである。しかし，各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかはあらかじめ考えておく必要がある。この際下級年次で比較的多く，上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明である。とくに４年次には卒業論文，卒業研究，卒業論文・制作に取り組み，就職活動をしたりしなくてはならないので，あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよい。このように計画することによって上級年次になってから，余裕をもって広い範囲から選択科目を選び，また自主的な学修を深くすすめることができるようになる。

科目の選択に際して，転換・導入科目と教養科目，外国語科目については，第２章の「転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方」をよく読み，また，専門科目については，学科・コースによって異なるので，第３章の「専門科目の学び方」をよく読んで研究する必要がある。

それでは，履修計画を立てる際の注意事項を次にあげておく。

① 年度はじめに in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料を熟読し，シラバスを活用して各自の履修計画を考える。

② 科目の年次配当を十分考慮し，後に悔いを残さないようにする。
（原則として配当年次以外の履修は認められていない。）

③ 各年次ごとに相応の単位を修得するようにする。

④ 必修科目，選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得するようにする。

⑤ 卒業要件単位は，必要な最低修得単位であるから実際にはこれを上回る単位数を計上して計画をたてる。

３．履修上限単位数

文学部では，履修できる上限の単位数が定められており，各年次一律に48単位が上限となる。海外語学短期研修及び資格課程科目については，年間履修上限単位数には含めない。また，履修上限単位数には，再履修科目も含める。

４．科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得しなければならない。万一やむを得ない理由で必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には，原則として次の年次にそれらの科目を再履修することになる。もちろん，次の年次に進級すると，その年次に配当さ

れている必修科目や選択必修科目があり，それらと再履修科目が時間割の上で重複し，両方を同時に履修できない場合がある。もし，そのような場合は，まず**再履修科目を優先して履修しなければならない**。したがって必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけるように努力しなければならない。

ただし，この原則は選択科目にはあてはまらず，もちろん，自らの判断で再履修しても良い。

不明な点は，各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課の窓口に問い合わせること。

５．履修モデル

専修大学の文学部ホームページの各学科のページに，「履修モデル」を掲載しているので，履修の際に参考にすること。ただし，「履修モデル」はあくまで目安として，履修登録をする際には，必ずこの学修ガイドブックに記載されている，自身が所属する学科の「転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧」，「専門科目一覧」で，卒業要件が満たせる計画であることを確認すること。

Ⅲ　科 目 の 履 修 登 録

科目の履修登録は，各自が考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段である。各自，学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って，その年度に履修する科目を選択し，定められた期日までに登録しなければならない。これを本学では履修登録と呼んでいる。次にあげる注意事項をよく確認し，誤りのないよう履修登録を行うこと。

① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合，その年度の授業科目の履修は認められず，単位は修得できない。

② 履修登録手続きに関する各種登録方法や重要事項等については，履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および文学部時間割（冊子・データ）で確認すること。

③ 一部の科目については，抽選や履修者選抜を行う場合があるので，履修ガイダンスまたは in Campus のライブラリに掲載されるガイダンス資料および文学部時間割（冊子・データ）で確認すること。

④ 履修登録期間後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。

⑤ ゼミナールは原則として，履修する前の年の 10 ～ 11 月頃，テーマ，募集人員，選考方法などについてのガイダンスがあり，選考のうえ，各ゼミナールの履修者が内定される。

⑥ 同一曜日・同一時限においては，１科目しか登録できない。ただし，前期科目，後期科目のように期間の異なるものは，この限りでない。

⑦ 前年度までに単位を修得した科目は，指定された科目を除いて再度履修することはできない。

⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は，それに従って科目を履修しなければならない。

⑨ 同じ名称をもつ科目は，指定された特定の科目を除いて２つ以上は履修できない。

⑩ 必修科目は，指定された年次で必ず履修しなければならない。なお，当該年度に修得できなかった場合は，翌年度必ず再履修しなければならない。

⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に，履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより，当該授業科目の履修を中止することができる。（一部の科目を除く）

Ⅳ　試験と成績評価

試験は，日常の学修成果を問うものである。したがって試験には，厳正な態度で臨まなければならない。遅刻はもちろんのこと，自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意しなければならない。

定期試験は，定期試験規程（p. 194 を参照）に基づいて実施されるので，規程を熟知し，さらに次の事項についても十分理解しておかなければならない。　※ 実施の時期は変更することがある。

１．試験の種類

⑴　前期試験

前期のみの半期授業科目について７月から８月の間に実施する。

⑵　後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について１月から２月の間に実施する。

⑶　追 試 験

前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合，当該授業科目について前期追試験を８月，後期追試験を２月から３月の間に実施する。

なお，本学では，「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう，厳しい基準を設けている。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は，「やむを得ない理由」とは見なされないので注意すること。

①　追試験受験手続

追試験の受験希望者は，指定された期間に追試験受験願と，試験欠席理由を証明する書類を教務課文学部に提出し，受験許可を得なければならない。

◎追試験受験手続きの手順

1		2		3
指定された手続日に教務課発行の「追試験受験願」「試験欠席理由書」を受け取り，必要事項を記入する。	→	「追試験受験願」「試験欠席理由書」に試験欠席を証明する書類を添えて教務課に提出し，確認と検印を受ける。	→	「追試験受験願控」を受け取り手続完了。

②　やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は，次のとおりである。

・教育実習　　教育実習参加を証明するもの

・就職試験　　就職試験受験を証明するもの

・公式試合	公式試合参加を証明するもの
・天災その他の災害	被災を証明するもの
・二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・本人の病気又は怪我	医師の診断書
・交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

２．受験上の注意，その他

⑴　受験について

受験上の注意については，定期試験規程にも定められているが，さらに次の点にも十分注意を払う必要がある。

①　同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので，自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し，間違いのないようにすること。

②　同一科目でも，試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。

③　試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。

④　答案用紙の再交付は行わない。

⑤　試験場内での私語は，不正行為と見なされるので絶対にしないこと。

また，廊下等での私語は，受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

⑵　定期試験時間割

定期試験時間は，授業時間とは異なり，原則として 60 分である。定期試験時間割は，試験実施前に in Campus でお知らせする。ただし，資格課程科目の試験時間割は，教務課資格課程からのお知らせを確認すること。

【注意】

学生証不携帯者は，いかなる理由があっても受験できない。

ただし，当該試験開始時刻までに教務課窓口に申し出た場合は，当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができる。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は，所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがある。

試験当日は，不測の事態に備えて**試験開始30分前には登校**し，**学生証の携帯**と試験場を必ず確認すること。

なお，遅刻をした場合に受験が認められるのは，試験開始後 20 分までに試験場に到着した場合である。

３．定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては，平常点で成績評価が行われるため，前期試験，後期試験は実施されず，したがって追試験も実施されないものがある。

平常点で評価される科目の場合，各科目の授業期間を通しての，授業への貢献度や授業での発表内容，レポート，授業の中で実施されるテスト等（注１）によって総合的に成績評価が行われる。

注１）授業の中で実施されるテストは，期末テスト，授業内テスト，中間テスト，小テスト等と呼ばれ，定期試験規程に定められた試験ではないため，追試験は実施されない。
ただし，これらのテストのうち，授業期間の最終週に実施されるものの中には，授業科目担当教員の判断によって，定期試験規程を準用して実施する場合もあり，その授業科目については，追試験が実施される（追試験を受験するためには，前述の追試験受験手続をとり，受験許可を得ることが必要になる）。

４．卒業論文，卒業研究，卒業論文・制作

① 卒業論文

卒業論文は，文学部（英語英米文学科，ジャーナリズム学科を除く）では必修科目になっている。卒業論文は４年次で提出し，その審査に合格しなければならない。卒業論文は，専門的かつ自主的な研究の中核であり，指導教員の指導を受け，その指導による学修の成果として提出するものである。

⑴ 論　文　提　出

提出締切日は 12 月中旬とする。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し，期限を厳守すること。

⑵ 論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので，詳細については学科の指示に従うこと。

⑶ 提出時に携行すべきもの

学生証，卒業論文題目届（題目届，論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

⑷ 口　述　試　験

１月中旬～１月下旬

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

② 卒業研究

英語英米文学科の学生は４年次に卒業研究を履修し，提出しなくてはならない。卒業研究は，指導教員のもと，各自の４年間の学修・研究の成果をまとめるものであり，それぞれの成果にふさわしい形式を選択することが出来る。詳しくはp. 97 の「⑷ ゼミナールおよび卒業研究」を参照してほしい。

③ 卒業論文・制作

ジャーナリズム学科の学生は４年次に卒業論文・制作を履修し，提出しなくてはならない。

卒業論文・制作は，指導教員のもと，各自の４年間の学修・研究の成果をまとめるものであり，それぞれの成果にふさわしい形式を選択することが出来る。

⑴ 論　文　提　出

提出締切日は 12 月中旬とする。日時・場所など詳細についてはお知らせを確認し，期限を厳守すること。

⑵　論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので，詳細については学科の指示に従うこと。

⑶　提出時に携行すべきもの

学生証，卒業論文・制作題目届（題目届，論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

⑷　口　述　試　験

１月中旬～１月下旬

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

５．成績評価と通知

⑴　成績評価の方法について

学業成績は，授業科目ごとに行う試験（筆記試験，口述試験，実技試験またはレポート）によって評価されるが，科目によっては，それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や，平常点だけで評価する場合もある。

成績評価は，100点を満点とし，60点以上を合格とする。また，授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（ＧＰ）を付与し，ＧＰＡ（Grade Point Average）を算出する。

⑵　成績評価の区分

評　点	評　価	ＧＰ※	内容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A＋	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B＋	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C＋	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。
履修中止	W	－	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。

※ＧＰ＝グレードポイント

⑶　ＧＰＡ（Grade Point Average）制度について

ＧＰＡ制度は，国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので，授業科目ごとの成績評価（本学ではＳからＦの８段階）に対してグレードポイント（ＧＰ）を付与し，この単位当たりの平均を算出した値がＧＰＡである。具体的な算出方法は次のとおり。

$$\frac{(\text{Sの修得単位数}\times 4.0)+(\text{A＋の修得単位数}\times 3.5)+(\text{Aの修得単位数}\times 3.0)+(\text{B＋の修得単位数}\times 2.5)+(\text{Bの修得単位数}\times 2.0)+(\text{C＋の修得単位数}\times 1.5)+(\text{Cの修得単位数}\times 1.0)+(\text{Fの単位数}\times 0.0)}{\text{総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）}}$$

【ＧＰＡに関する各種要件】

・ＧＰＡの算出対象となる科目は，卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など，自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。

・留学等で単位認定された科目（Ｎ）は，ＧＰＡに算入されない。また，履修中止した科目についても，ＧＰＡに算入されない。

・不合格（Ｆ）の科目を再度履修した場合，成績の合否にかかわらず，ＧＰＡには最新の評価が反映される。

・ＧＰＡは，小数点第３位を四捨五入し，小数点第２位まで表示とする。

・一度単位を修得した科目を，次学期以降に再度履修することはできない。

⑷　履修中止について

「履修中止」とは，履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に，履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより，当該授業科目の履修を中止することができる制度である。履修中止申請期間は，前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定される。日程，手続方法，その他詳細については，お知らせを確認すること。

なお，履修中止申請をする際には，以下の点に注意すること。

①履修中止した授業科目については，当該授業への出席，定期試験の受験，単位の修得はできない。

②履修中止した授業科目の単位は，年間の履修上限単位に含まれる。また，履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。

③履修中止した授業科目は，ＧＰＡに算入されない。

④履修中止により，当該年度の履修登録科目がなくなる場合は，履修中止申請が認められない。

⑤履修中止申請した授業科目について，履修中止申請期間後に申請を取り下げることはできない。

⑸　成績通知について

学業成績の結果は点数で表し，９月（前期科目）および３月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は，大学のホームページを経由して閲覧することができる。

なお，就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には，修得した授業科目のみをＳからＣの評価で記載する。併せて，通算のＧＰＡを記載する（ＧＰＡには不合格科目も算入される）。

※資格試験，留学などの結果により単位を認定する科目もある。この場合，認定される科目の評価は，点数などで表さず，すべて「Ｎ」と記載する。

V　卒　　業

1．卒業見込証明書の発行

４年次は多くの学生にとって忙しい１年になる。卒業論文や卒業研究などで大学生活の総まとめをすると同時に，将来を考えて就職活動にも時間をさかなければならなくなるからである。就職活動に際し必要となる書類の１つに**卒業見込証明書**がある。これは，各自が３年次までに修得すべき最低限の単位をすでに修得し，４年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類である。企業は，採用の適否を判断する資料の１つとしてしばしば卒業見込証明書の提出を要求するので，３年次までにしかるべき卒業要件単位を修得し，大学からこの証明書を交付してもらい，それを企業などに提出しなければならない。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき，万全を期して履修計画を立て，勉学に精進してほしい。

卒業見込証明書の発行条件

発行年次	発行条件
４年次	３年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2．卒業発表

⑴　卒業が決定した学生については，２月下旬に第１次卒業決定者としてホームページで発表する。

⑵　２月下旬に行われる追試験の結果，卒業が決定した学生については，３月中旬に第２次卒業決定者として，ホームページで発表する。

⑶　卒業の可否は，ホームページおよび成績通知書を確認すること。電話での問い合せには一切応じない。

第２章

転換・導入科目と教養科目，外国語科目の学び方

Ⅰ　転換・導入科目

Ⅱ　教養科目

Ⅲ　外国語科目

Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目

Ⅰ　転換・導入科目

大学における学修では，高校までとは異なり，授業に出席して講義を聴くことや，教科書や参考文献などの基礎文献を読むことに加え，みなさんが，自らの問題関心や勉学の目的に沿って，自主的に勉強に取り組まなければなりません。そのためには，図書館を利用し，パソコンを駆使するなどして，勉学に必要な資料を収集すること，専攻によっては実態調査などのフィールドワークを行うこと，そして自ら学んだ内容をまとめて教員や他の学生に報告すること，その成果を論文やレポートにまとめることなど，みなさんの積極的な勉学が求められます。

転換・導入科目は，大学で学ぶための基本的な技法（アカデミックスキル）を身につける「専修大学入門科目」に加え，専門科目への導入としての役割を持つ「専門入門ゼミナール」を学ぶことで，アカデミックスキルを定着させます。さらに，大学，そして社会で求められる知識や技能・能力を伸ばし，教養科目，外国語科目，専門科目を学ぶための基本的な力を養う科目が置かれています。その力とは，情報を分析し活用する力（データリテラシー，情報リテラシー科目），自分の将来を切り開いていく力（キャリア基礎科目），複合的な視点で観察し思考する力（基礎自然科学），自分の健康を維持管理する力（保健体育基礎科目）です。これらは基礎となる科目ですから，１年次に履修することになります。

ここに設置されている科目を学ぶことで，みなさんはアカデミックスキルを修得しつつ，情報化・複雑化が進む社会で活躍するために必要とされるさまざまな力を伸ばすことができ，社会知性を身につけるのに役立つことでしょう。

（1）専修大学入門科目

「専修大学入門科目」には，**専修大学入門ゼミナール**が設置されています。この科目は，みなさんが，高校生活から大学生活への転換を図り，専修大学の学生としての自覚を持ち，大学での学修に求められる基本的なスキル（技法）を身につけることが目標であり，具体的な目的として，以下の点をあげることができます。

第１に，大学で学ぶことの意味を充分理解することです。大学の学修では，みなさんが，将来的な展望も踏まえ，積極的に学修を深めることが求められます。

第２に，専修大学の学生としての自覚を持つために，専修大学の歴史を学ぶことです。みなさんが，これから４年間勉学に励む「学びの庭」である専修大学の成り立ちと歴史を支えた先人たちの努力の歩みを知ることは，専修大学で学修することの意義を理解することでもあります。

第３に，アカデミックスキルを修得することです。すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集するか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について学ぶこと，より具体的には「講義でのノートのとり方」

「資料の収集方法」「報告の方法（レジュメの作成方法）」「討論の方法」「論文・レポートの書き方」など，大学における学修の方法を修得することです。

専修大学入門ゼミナールは，みなさんが，これらの目的を達成できるよう，おおよそ１クラス25名前後の少人数により実施されます。

また，**専修大学入門ゼミナール**は，学修のための入門科目ということだけにとどまらず，みなさんが，新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った友人や教員との交流を通じて，大いに語り，励まし合いながら，大学生活を満喫するための基礎作りの場ともなります。

（2）専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは２年次以降学ぶ専門科目への導入的な役割を担っています。それぞれの学科で専門的に学ぶ学問には特有の考え方や研究の仕方があります。どのように文献を読み，どのように分析し，どのように研究したことを形にするかという一連の研究方法の基礎を学んでいきます。

この科目は，英語英米文学科，哲学科，歴史学科，環境地理学科に設置されている必修科目です。

（3）データリテラシー

大学の講義では分野によらず，データを根拠として推論された結果が語られることが多くあります。そして，社会ではさまざまな意思決定にデータの分析結果が用いられます。みなさんも，新聞やテレビの報道などでさまざまな調査データについての分析結果を，見たり聞いたりすることがあるでしょう。犯罪の件数，内閣の支持率，ある病気による死亡率，企業の売上高，さらにそれらの経年変化など，多くの調査結果が報道で取り上げられます。データによって示される結果は，私たちと身近なところで関係があることから，一見すると関係がないとも思えることまであります。たとえば，読んで味わう文学作品でさえ，作品中の表現の頻度や表現の間の関係をもとに数量的に分析されることがあります。

発表されたデータに基づく指標や表・グラフを見聞きして驚くことがあるかもしれません。もし発表が自分の感覚とずれている場合，自分が持っている指標のイメージが実は間違っていたり，そもそも発表する側が間違った印象を与える指標や表・グラフを（時には故意に）用いていたりしている可能性があります。

したがって，データが示すことを正しく読み取る力を身につけておかなくてはなりません。他者が発表した分析結果を批判的に評価する力も重要です。さらに，自分がデータに基づいた報告を行う立場になったときに，相手にその内容を効果的に伝える表・グラフを作成することができれば，報告書やプレゼンテーションはより良いものになるでしょう。このようにデータを扱う基本的な力をデータリテラシーと呼びます。データリテラシーを身につけるために，**データ分析入門**が設置されています。

なお，ジャーナリズム学科は，**データ分析入門**は必修科目，その他の学科は１年次の選択科目で

す。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。

（4）キャリア基礎科目

「キャリア基礎科目」は，「大学生活において，さまざまな選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか，卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには，将来どのような働き方をしたいか，そのために大学４年間をいかに過ごすかなど，自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し，デザインすることが必要です。

そもそも，「キャリア（career）」の語源はラテン語で，「車道」や「車輪の跡（轍）」などを意味しています。ですから，ある人のキャリアとは，その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から，キャリアは「個人のさまざまな立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方，「デザイン」は，「設計」とか「構想」を指します。したがって，キャリアをデザインするとは，「自分の立場や役割を認識し，それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば，過去の人生を踏まえながら，未来の自分の生き方，働き方や学び方について深く考え，そのために現在自分は何をすべきかを認識すること，となります。

１年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで，将来に対する漠然とした不安感を取り除き，自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし，充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。

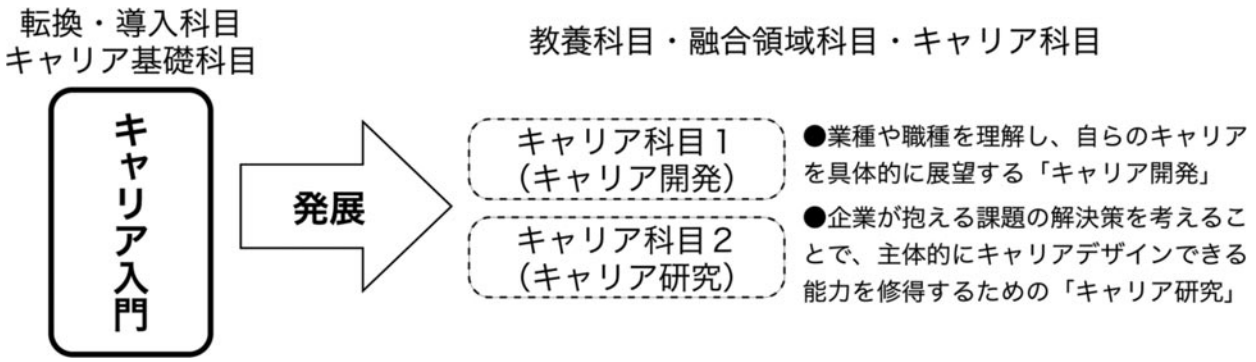
キャリア基礎科目に設置される**キャリア入門**は，自分の性格や価値観を知ることから始め，社会の成り立ちや具体的な仕事の内容，働くことにまつわる法律などを知ること，さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが，主な目的です。そして，その後の学生生活において，どのように専門知識を学んでいけばいいかといった「大学内での学習」と，ボランティアやインターンシップなど実際の経験を積み重ねる「大学外での学習」を総合的に組み立てることができるようになります。

授業では一方的に話を聴くのではなく，自分の言葉で語る機会を大切にしています。授業で学んだ知識をグループワークなどで表現し，先生や仲間，大学外からのゲストスピーカーから意見をもらうことで，自分の考えを客観的に見つめ，少しずつキャリアに関する視点を身につけていくことができます。さらに，授業で取り扱ったことについて発展的に学習できるよう，キャリアデザインセンターでは各種講座を授業の進捗に合わせて展開しています。これに加え，授業期間中にキャリアカウンセリングを受けると，よりいっそう自分に適したキャリアを見つけられるでしょう。

このように**キャリア入門**を受講すると，キャリアに関わる意識や能力がどの程度身についたか認識できるようになり，大学内外での学びを意識しながら，キャリアに対する知識を獲得し，職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。あるべき自分を早い段階で意識し，己の進

むべき道を主体的に選択できるよう，キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお，**キャリア入門**は，１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。



（５）情報リテラシー科目

大学での学修は，単に知識を覚えるのではなく，なぜそうなるのかを自分で考えることが必要です。そのためには，自分でデータを分析し，表現することが必要になります。そのため情報リテラシー科目では，PC 等の情報技術を使って科学的・論理的な思考をするのに必要な基礎的な事項を学修します。

「情報リテラシー科目」として設置される**情報入門１**，**情報入門２**では，専修大学から利用できるさまざまな知的資源の検索・収集方法を学修し，表計算ソフトウエア等を使って情報を加工・分析します。また，統計データを実際に PC を使って分析します。分析結果などをプレゼンテーションやWeb を通して表現する能力を身につけます。さらに，コンピュータ処理の特徴を理解し，どのようにコンピュータに指示を与えるのかを学修します。詳しくは，専修大学　情報入門で検索してください。テキストなどを参照できます。

なお，**情報入門１**，**情報入門２**は１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。

情報入門１の学修内容
●専修大学の情報システムの利用法 ●情報倫理についての理解 ●検索サイトや CiNii などのデータベースを使ったデータ検索 ●文書作成 ●表計算 ➢データ分析 ➢計算式によるデータ分析 ➢グラフによる可視化 ➢絶対参照・相対参照の概念 ➢統計資料を使った分析

情報入門２の学修内容
●プレゼンテーションソフトウエアによるスライド作成・表現法の学修 ●表計算ソフトウエアを使った高度な処理 ●HTML 文を記述することによるWeb（ホームページ）の作成 ●アンケート集計（クロス集計など） ●プログラミング（どのようにコンピュータへ処理方法の指示を与えるか） ●シミュレーション

（6）基礎自然科学

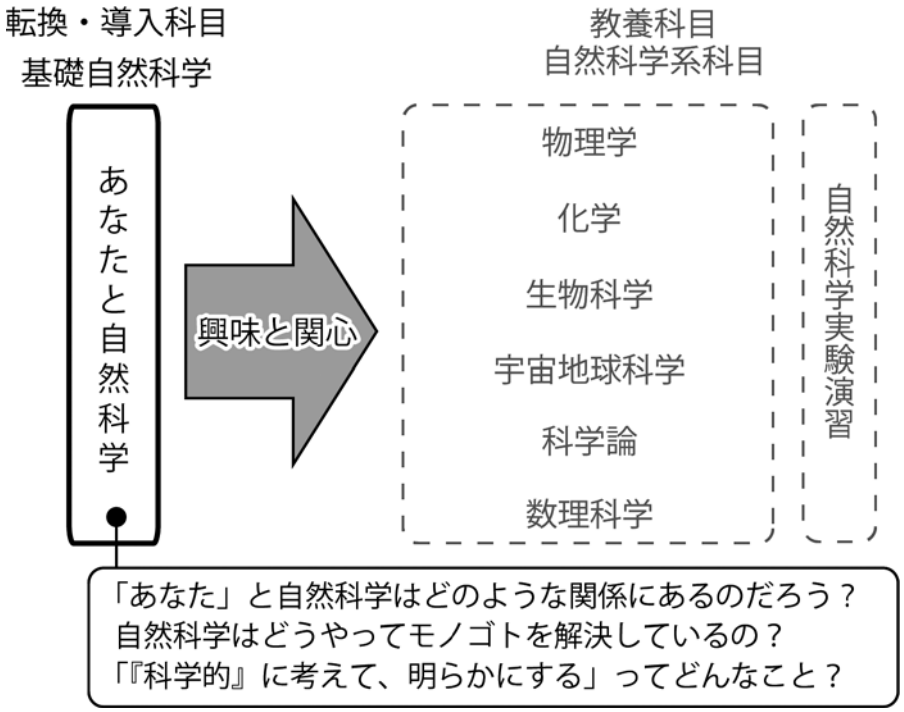
専修大学における自然科学系の講義は，みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むことができるようなること』を目的としています。なぜ文科系の学部を専攻するみなさんが，自然科学系科目を受講する必要があるのでしょう。

現在，私たちは，地球温暖化，エネルギー問題，安全性や倫理性に関する問題（遺伝子操作，放射能など）に直面しています。みなさんが，将来どのような職業に就いたとしても，自然科学的な考え方や知識，結論の根拠を自分で判断する力や科学的に論述する力は必要になるでしょう。

「基礎自然科学」に設置された科目である**あなたと自然科学**は，みなさんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め，みなさんと自然科学の関係を知るための導入として設置されます。ここで学んだことは，卒業までに学んでいく教養科目の自然科学系科目につながっていきます。この科目で興味・関心を深め，教養科目で学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

なお，ジャーナリズム学科ではあなたと自然科学は，単位の修得は義務づけられていませんが，１年次に必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも，次年度に履修することはできません。

その他の学科では１年次の選択科目です。１年次に履修しなかったり，履修して単位を修得できなかった場合でも，次年度以降に履修することはできません。



（7）保健体育基礎科目

スポーツリテラシーを学ぶ

スポーツリテラシーとは，「スポーツ実践を通じて，その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し，スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」

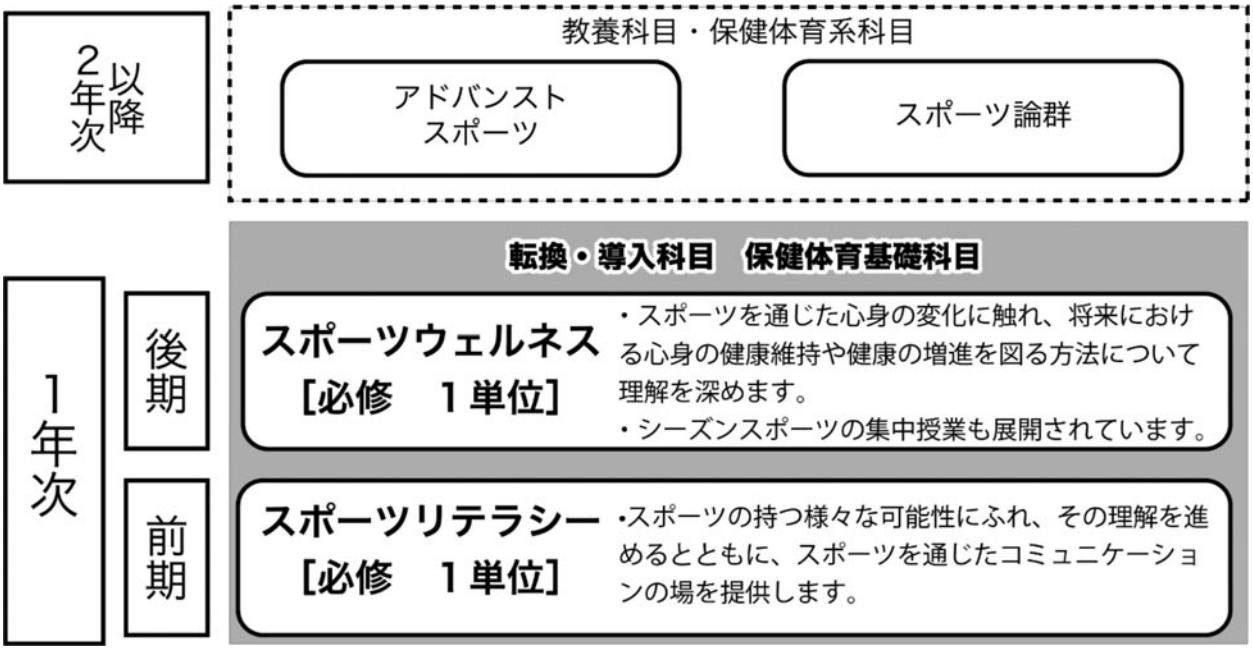
を言います。「保健体育基礎科目」のスポーツリテラシーでは，スポーツが有するさまざまな可能性に触れて身体知を養い，スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また，共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し，スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

スポーツリテラシーでの取り組みは，同じ保健体育基礎科目のスポーツウェルネスや教養科目・保健体育系科目のアドバンストスポーツでの実践的な身体活動やスポーツ論で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

スポーツウェルネスを学ぶ

スポーツウェルネスとは，「スポーツ実践を通じて，積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。「保健体育基礎科目」のスポーツウェルネスでは，スポーツを通じた身体活動が，健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し，「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに，将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

転換・導入科目の保健体育基礎科目スポーツリテラシー（１単位）とスポーツウェルネス（１単位）の計２単位の修得が卒業要件となっています。



注意事項

◎スポーツリテラシーとスポーツウェルネスを履修する際は，事前に健康診断を受ける必要があります。２年次以降に再履修する場合も同様です。

◎同一年度にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの同一種目を履修することはできません。

ただし，スポーツリテラシー（ゴルフ）とスポーツウェルネス（集中授業ゴルフ）の履修は可能です。

◎疾病，身体虚弱および肢体不自由など，運動を制限されている場合は，教務課教養・体育窓口もしくは第１回目の授業時に申し出てください。

◎個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。

◎転換・導入科目の必修科目として開講されていますので，１年次に単位を修得できなかった場合，２年次以降に再履修しなければなりません。

◎２年次以降から，教養科目・保健体育系科目のアドバンストスポーツとスポーツ論が履修できます。

◎２年次以降のアドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得した場合に履修できます。

◎再履修として履修する場合は，同一期間（前期または後期）の同じ曜日にスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの２科目を履修することはできません。

Ⅱ　教養科目

教養科目の位置づけと目的

教養科目は専門科目と併せて，転換・導入科目で身につけた基本的な力を用いて，さらに知識を広げ，それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また，専門科目で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。教養科目は専門科目とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ，ストレスも多くなっています。このような時代には，バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会，身体や自然への知識と理解，またそこから得られる国際的な広い視点は，複雑な社会で生きるための基礎となります。

教養科目の学び方

教養科目のうち，「人文科学基礎科目」と「社会科学基礎科目」は，１・２年次で履修します。科目ナンバリング，講義要項（シラバス）を参考にしながら，自分の学部・学科の専門性を考慮して，履修することが望まれます。「自然科学系科目」と「保健体育系科目」は，講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。「融合領域科目」は，２・３・４年次で履修します。

自然科学系科目と保健体育系科目については，転換・導入科目で展開されている科目において，入門的な内容や科目の大きな目標・目的を学んでいます。それらを基礎とし，さらなる学修によって，これらの分野をより深く理解することができます。

（1）人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように，大きい枠組みでは，文学・歴史学・哲学・芸術学・文化人類学・ジャーナリズム学・心理学に分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので，みなさんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では，これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられているのでしょうか。それは，これらの学問がいずれも，人間の行い，これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。人文科学は，具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし，そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする，そのような領域です。そして，人間の営みはさまざまですから，それに応じて多種多様な学問が生まれるのです。

人文科学の領域からは複数の科目を履修してみることを推奨します。そうすることによって，さ

まざまな人間観や世界観，歴史，多文化，異文化についての関心を広げること，そして，多面的なものの見方に立ち，日常生活での人間性に関わる諸問題の解決に取り組むことができるようになります。ここに人文科学領域の，単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり，これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学基礎科目の学び方

・人文科学基礎科目は，１・２年次に履修します。

・科目名が同じでも，担当する教員が異なる場合，扱う内容が異なることもあります。しかし，その場合でもその科目の目標は同じです。

・個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。

・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方，人間の営みのさまざまな側面を知り，自分とは違った観点をもつことができるようになるためには，一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは，学びを深める上での基本です。したがって，どの学科に所属していても，複数の学問領域から履修することが望まれます。

人文科学の学問領域と人文科学基礎科目の設置科目

人文科学の学問領域	人文科学基礎科目の設置科目
文　　学	日本の文化 日本の文学（日本文学文化学科以外） 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待（英語英米文学科以外）
歴　史　学	歴史の視点（歴史学科以外） 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化
哲　　学	哲学（哲学科以外） 倫理学（哲学科以外） 論理学入門（哲学科以外） ことばと論理（哲学科以外）
芸　術　学	芸術学入門
文化人類学	異文化理解の人類学
ジャーナリズム学	ジャーナリズムと現代（ジャーナリズム学科以外）
心　理　学	基礎心理学入門 応用心理学入門

（2）社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業，国家，家族，地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も，自分自身から一歩離れて観察すると，社会的な組織や集団，各種制度の影響をうけていることに気付きます。社会科学とは，社会を構成する組織や集団，制度の内容を知り，それぞれがどのような影響を与えあっているのかを理解することで知識を深めることができます。

自分が生きている社会ですから，理解できていると思い込んでしまったり，先入観にとらわれて誤認したりすることもあります。それを防ぐには，「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし，この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり，学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ，社会科学基礎科目では，学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう，そして，多面的なものの見方に立って，一市民として，社会生活上の諸課題の解決に取り組むことができるよう，表にあるような科目を設置しています。

社会科学基礎科目の学び方

・社会科学基礎科目は，１・２年次に履修します。
・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。
・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方，固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で，そのためには，一見すると関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは，学びを深める上での基本です。したがって，どの学科に所属していても，複数の学問領域から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎科目の設置科目

社会科学の学問領域	社会科学基礎科目の設置科目
社会科学全般	社会科学論 社会思想
経　済　学	経済と社会 現代の経済
法　　学	日本国憲法 法と社会
政　治　学	政治学入門 政治の世界
経　営　学	はじめての経営
商　　学	マーケティングベーシックス 企業と会計
教　育　学	教育学入門 子どもと社会の教育学
地　理　学	地理学への招待（環境地理学科以外）
社　会　学	社会学入門 現代の社会学
情　報　学	情報社会

（3）自然科学系科目

自然科学系科目を学ぶ意義と目的

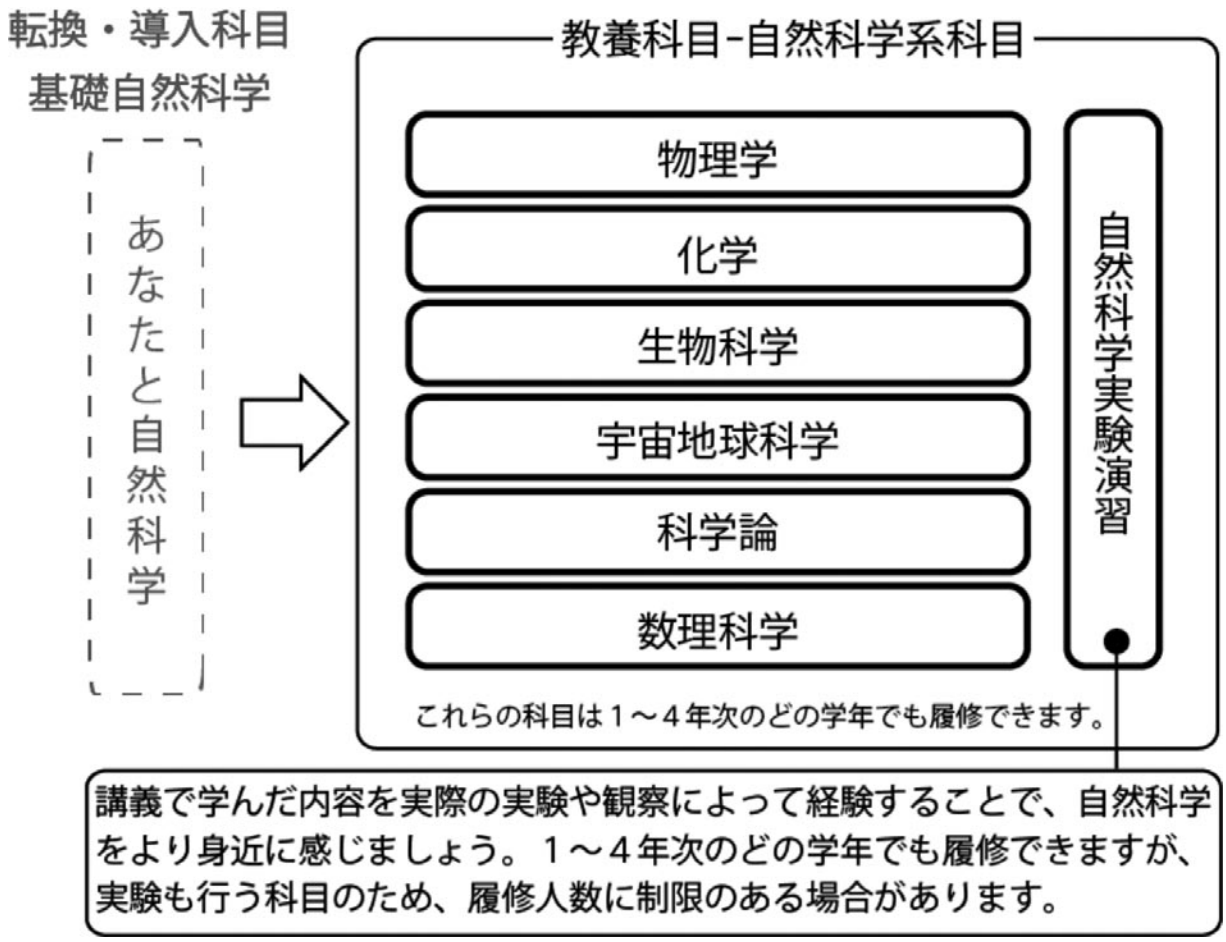
「自然科学系科目」として，**物理学**，**化学**，**生物科学**，**宇宙地球科学**，**科学論**，**数理科学**および**自然科学実験演習**が設置されています。転換・導入科目「基礎自然科学」の**あなたと自然科学**でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

そのために次のような目的で科目を設置しています。

①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では，宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。

②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる，実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ，客観的な思考力を養います。

③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は，人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。



自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは，次の表のとおりです。「物質」や「環境」,「宇宙」といった広いテーマに関連するキーワードは，複数の科目に含まれていることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。

科目名	それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード
生物科学１ａ・１ｂ	細胞，遺伝子，DNA
生物科学２ａ・２ｂ	生物と環境の科学，生態学，進化学
生物科学３ａ・３ｂ	ホメオスタシス，脳・神経，内分泌，感覚，細胞
宇宙地球科学１ａ・１ｂ	恒星，銀河，太陽系，天体の運動，天体の観測
宇宙地球科学２ａ・２ｂ	プレートテクトニクス，地震，火山，地球史，環境変動
化学１ａ・１ｂ	物質の理解，ものつくりの基本，元素と周期表，物質の多様性，生体関連物質
化学２ａ・２ｂ	エネルギー資源，自然環境，リサイクル，有機化合物，生体分子
物理学１ａ・１ｂ	力学，波動，量子論，電磁気学
物理学２ａ・２ｂ	現代物理，宇宙論，相対論，素粒子論，統計熱力学
数理科学１ａ・１ｂ	代数
数理科学２ａ・２ｂ	解析・幾何
数理科学３ａ・３ｂ	統計
科学論１ａ・１ｂ	進化論，大きすぎて見えないもの，小さすぎて見えないもの
科学論２ａ・２ｂ	科学と技術，科学史，人間と科学

・興味のあるキーワードを中心に関連する科目を履修するのも一つの方法です。

㊀「環境」に興味がある→宇宙地球科学２ａ・２ｂと生物科学２ａ・２ｂ，および化学２ａ・２ｂを履修する。

㊀「宇宙」に興味がある→宇宙地球科学１ａ・１ｂと物理学２ａ・２ｂを履修する。

㊀分野を超えて幅広く，そして深く履修する。→数理科学で「数学」を学び，この知識を生物科学２ａ・２ｂの「生態学」の学修に活かす。

・「○○１ａ」など番号＋アルファベットまでが科目名です。「○○１ａ」と「○○１ｂ」は別科目です。

・「○○１ａ」,「○○２ａ」,「○○３ａ」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり，難易度を意味するものではありません。「○○３ａ」から履修しても構いません。

・いずれの科目も，年次に関わらず自由に履修することができます。ただし，教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。

・科目名が同じでも，担当する教員が異なる場合，扱う内容が異なることもあります。

（４）融合領域科目

融合領域科目を学ぶ意義と目的

「融合領域科目」は，各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することをみなさんに示しながら，どんな社会現象や自然現象にも複数の側面（多面性）があり，それらの間に複雑な関係性があることを理解させ，みなさんの思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な目的としています。

融合領域科目に設置される科目	科目の目的や内容
学際科目	学際的なテーマを扱い，原則として複数の教員やゲストスピーカーが共同で講義を行います。広い視野からの多面的・学際的な検討により，総合的な判断力を育成します。
テーマ科目	新しく注目を集めている学問領域やテーマについて深く掘り下げて講義します。
新領域科目	学際科目やテーマ科目が扱うような特定の学問領域に属さない特殊領域の科目に対応し，講義します。
キャリア科目	業種や職種を理解し，自らのキャリアを具体的に展望することを目的とした**キャリア科目１（キャリア開発）**と，企業が抱える課題の解決策を考えることで，主体的にキャリアデザインできる能力を修得する**キャリア科目２（キャリア研究）**により構成されています。転換・導入科目の**キャリア入門**を基礎として，より進んだキャリア形成を目指します。
教養テーマゼミナール	少人数の相互コミュニケーションによるゼミナール形式の科目です。担当教員の専門分野に関連したテーマを設定し，発表・討論を中心に進め，深く研究を行います。
教養テーマゼミナール論文	同じ担当教員の**教養テーマゼミナール**を２年間以上履修する場合に履修することができます。設定したテーマについて深く研究し，論文を作成します。

融合領域科目の学び方

・融合領域科目は，２・３・４年次に履修します。

・開講されている科目で扱う具体的な内容については，講義要項（シラバス）で確認してください。

注意事項

◎**教養テーマゼミナール**は１・２・３に区分され，１は２年次，２は３年次，３は４年次配当の科目です。連続して同じ教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできますし，年度毎に別の教員が担当する**教養テーマゼミナール**を履修することもできます。

◎同一年度に**教養テーマゼミナール**と専門科目のゼミナールを履修できます。

◎同一教員の**教養テーマゼミナール**を２年間以上履修する場合，**教養テーマゼミナール論文**を履修することが可能です。

◎**教養テーマゼミナール**は，毎年１１月頃，次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配付します。

（5）保健体育系科目

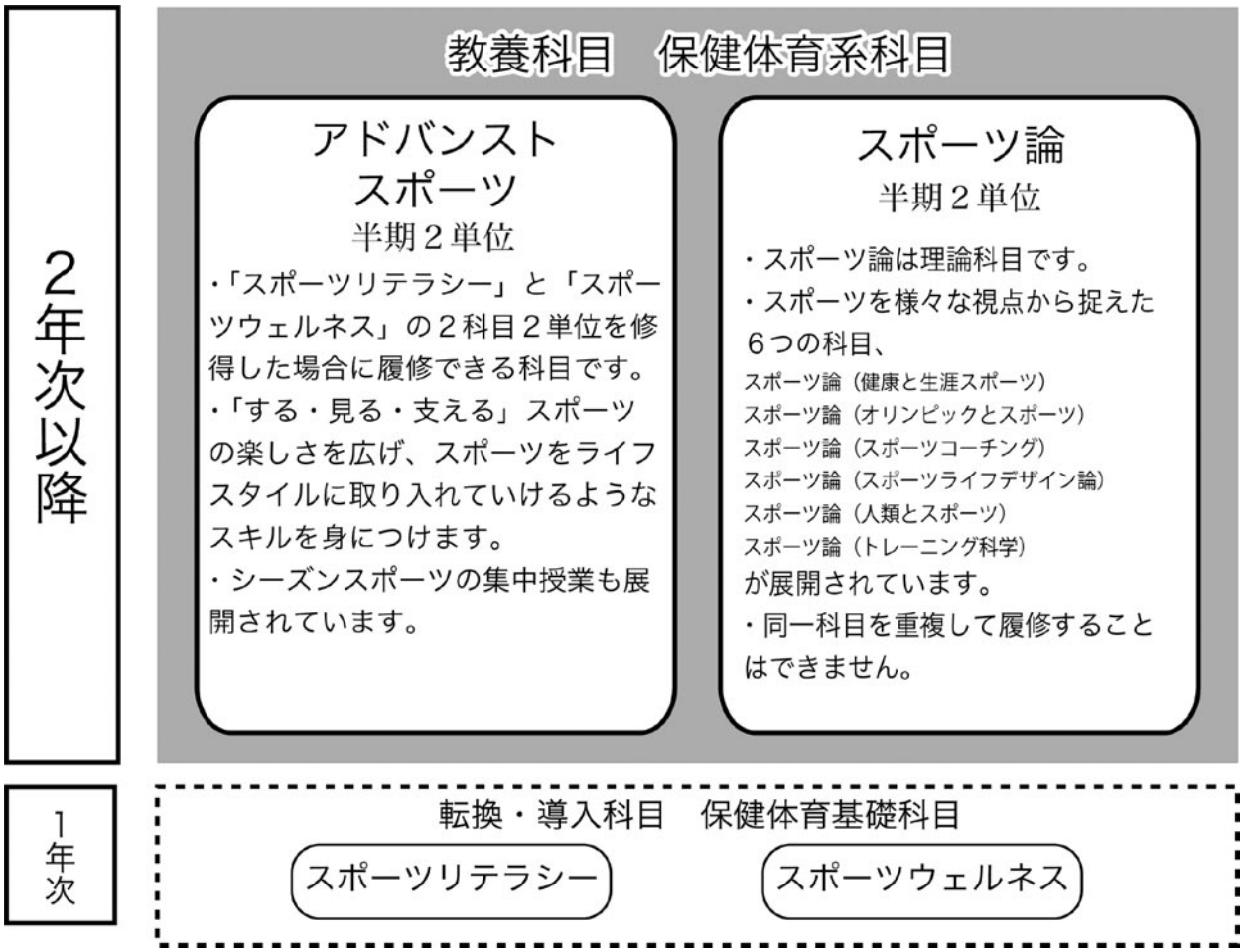
２年次以降，教養科目「保健体育系科目」のアドバンストスポーツとスポーツ論が履修できます。

アドバンストスポーツを学ぶ

アドバンストスポーツでは，スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに，トップアスリートとの交流，審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより，スポーツをライフスタイルの中に取り込み，生涯にわたり身体的，精神的，社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的にしています。

スポーツ論を学ぶ

スポーツ論は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について，社会科学，自然科学，人文科学などの視点から学び，世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに，在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ，スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達，明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。



注意事項

◎アドバンストスポーツは，転換・導入科目の「保健体育基礎科目」スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの両方の単位を修得した場合に履修できます。

◎アドバンストスポーツを履修する際は，事前に健康診断を受ける必要があります。

◎アドバンストスポーツは同一種目を重複履修，また複数種目を履修する事ができます。

◎スポーツ論は，「スポーツ論（健康と生涯スポーツ）」のように（　）までが科目名です。

◎個々の科目内容については，講義要項（シラバス）を参照してください。

Ⅲ　外国語科目

外国語科目には，「英語」と「英語以外の外国語」，「海外語学研修」があります。

外国語科目「英語」では，高校時代までで学んできた英語を土台としつつ，日本を含めた世界を意識した英語の学習に取り組みます。急速なグローバル化の時代，みなさんが将来どの分野に進もうとも，英語は不可欠です。ぜひ目的意識をもって英語の学修を続けていきましょう。

外国語科目「英語以外の外国語」では，ことばそのものを修得すると同時に，その背景にある社会の考え方や文化（Cultures）に触れます。そこから，未知の人たちとのコミュニケーション（Communication）が始まります。新しいことばは，英語だけでは知ることのできない世界とつながる（Connections），異文化への新鮮な窓口です。

外国語科目「海外語学研修」は，実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に，異文化圏での生活を肌で体験することによって，机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。

◎「CALL 自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス１号館地下にはCALL 自習室と CALL ライブラリーがあり，各種語学の視聴覚教材をはじめ，検定試験対策教材や雑誌等が視聴，閲覧できます。また，生田 10 号館１階情報コアゾーンにも CALL 自習スペースは設けられていて，こちらでは DVD を中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので，積極的に利用しましょう。

なお，インターネットブラウザ上で学習を行える e-learning 教材（ALC NetAcademy NEXT）もあります。専修大学の学生なら，手続きなしで活用することができ，英語資格試験対策などの学習を学内のみならず学外でも行うことができます。

（1）英語

英語を学ぶ意義

外国語科目の「英語」では，高等学校までで学んできた英語を土台としつつ，新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し，学修することを目指します。コミュニケーションの手段として，また情報収集，発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また，実用的な面のみならず，異文化への関心や理解を深め，人間としての視野を広げることも大変重要です。

必修の英語科目に加え，英語の４技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）をさらに高め，グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう，様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すとともに，異文化への理解を深めましょう。

①英語の履修方法

文学部では，１年次で，外国語科目の英語４科目（４単位）を履修することとなっています。

（A群）Basics of English（RL）1a，1b または Intermediate English（RL）1a，1b の２科目と，（B群）Basics of English（SW）1a，1b または Intermediate English（SW）1a，1b の２科目を履修します。

RL はリーディングとリスニングが中心，SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。Basics と Intermediate の違いについては，次の②を見てください。

科目名に a がつく科目は前期，b がつく科目は後期開講で，これらの科目は半期１単位で半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

これらの科目の単位を修得できなかった場合には，General English を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English は半期科目として実施されます。

②英語の特徴

習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト」によって，Basics of English と Intermediate English のどちらを履修するかが決定します。

基礎的な学修が必要な場合は Basics of English，基礎が修得されている場合は Intermediate English を履修します。

Intermediate English はさらに Mid と High にわかれています。特に希望すれば，英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより，１レベル上（Basics of English→Intermediate English（Mid），Intermediate English（Mid）→Intermediate English（High））のクラスの履修を許可されることもあります。

③選択科目について

外国語科目の英語では，みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎１年次から履修できる選択科目

１年次から選択できる英語の選択科目は次の３種類です。これらは２～４年次でも履修できます。選択科目で修得した単位は，自由選択修得要件単位として，卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a, English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと，会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は，a，bそれぞれ４単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a, Computer Aided Instruction b

e-learning教材を使用し，基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a, Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning教材を使用し，TOEIC®で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期１単位です。

◎２年次から履修できる選択科目

２～４年次は，１年次から選択できる上記の３種類の科目に加えて，さらに５種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a, Advanced English b

発展的な内容を学修し，英検，TOEFL®，TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は，a，bそれぞれ４単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a, English Language and Cultures b

英語圏の文化，言語，コミュニケーションのあり方を，様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は，a，bそれぞれ４単位まで履修することができます。

English Presentation a, English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ，聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

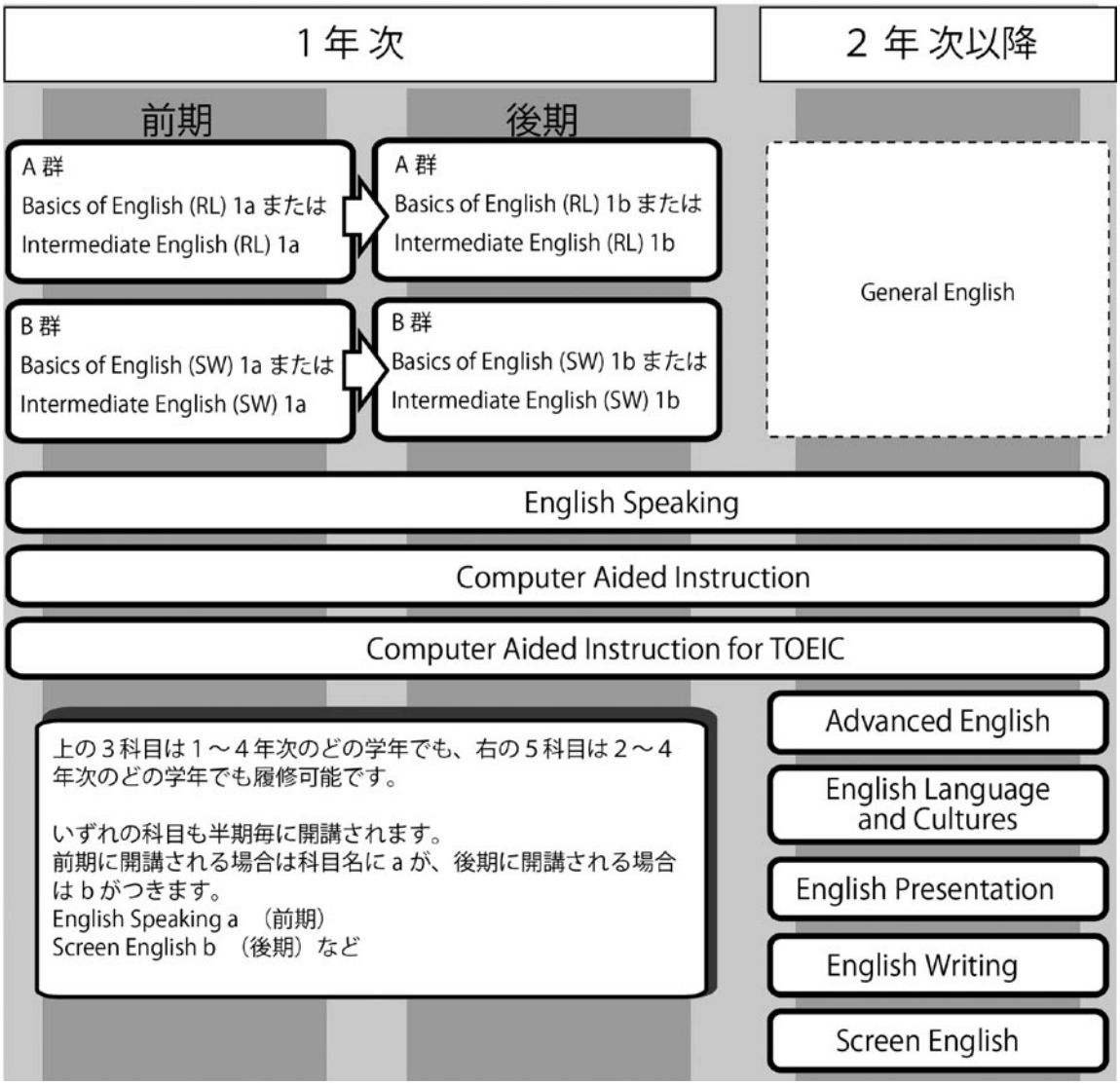
English Writing a, English Writing b

正しい文章を書き，正確に情報を伝達する能力を養います。

Screen English a, Screen English b

映画で使用される口語英語の文法・表現・音声について，基礎的な知識を学びます。

これらの科目は半期２単位です。



⑤資格試験による単位認定（英語）

英検，TOEFL®，TOEIC®において，一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし，下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	基準認定	認定単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
上位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	準1級 83点以上 730点以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
						Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

	検定試験の種類	基認定準	認定単位数	認定科目群		認定科目名（単位数）
下位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	— 61点以上 600点以上	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
						Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目		Advanced English a (2)
						Advanced English b (2)
						English Language and Cultures a (2)
						English Language and Cultures b (2)

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

◎認定単位数の上限は４単位です。下位基準による２単位の認定を受けたものが，その後に上位基準を満たした場合，翌年度以降に追加認定を申請できますが，その際の認定単位数は，上限単位数から既認定単位数を差し引いた２単位となります。

◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も，認定はいずれか一種類の検定試験によります。

◎TOEFL ITP®，TOEIC®-IP は認定対象には含まれません。

◎認定科目の成績評価は点数で表さず，「認定」とします。

◎認定された単位は，各年次の履修上限単位数には含めません。

◎認定科目（群）は原則として，未修得科目のうち必修科目とし，すべての必修科目を修得している場合には，Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

１）申請期間内に提出書類を教務課に提出し，「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。

２）申請期間は，当該年度の４月 20 日（休日の場合は前日）までとします。

３）提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験出願時に原本を提出した場合は，窓口で申し出てください。

４）合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり，２年以内とします。

（２）英語以外の外国語

英語以外の外国語を学ぶ意義

Communication ＋ Cultures ＋ Connection：３つの C をさらに充実させよう

Communication：未知の人たちとコミュニケーションしよう！

Cultures：さまざまな国，地域の社会と文化を理解しよう！

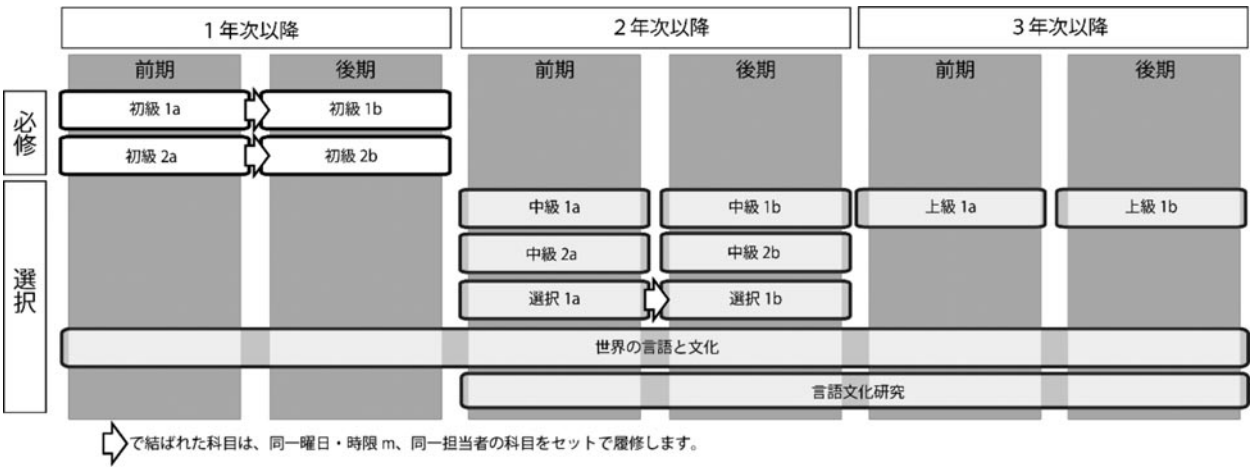
Connections：国を越えて，分野を越えて，人と，社会とつながろう！

英語以外の外国語には，**ドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語**が設置されており，第三の外国語として**アラビア語，イタリア語**も勉強することができます。また，あわせて日本語による講義科目である**世界の言語と文化**と**言語文化研究**を履修することで，さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

①英語以外の外国語の履修方法

文学部では，１年次において，外国語科目・英語以外の外国語の「導入」の科目（初級１ａ，１ｂ，２ａ，２ｂ）の４科目（４単位）を必修として履修することとなっています。科目名にａが

つく科目は前期，ｂがつく科目は後期開講で，これらの科目は半期１単位で，半期ごとにそれぞれ成績がつきます。



②選択科目について

英語以外の外国語では，みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。

◎１年次から履修できる選択科目

１年次から選択できる科目は**世界の言語と文化**です。各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

◎２年次以降に履修できる選択科目

中級１ａ，１ｂ：初級で学んだことの復習＋さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ２科目まで履修することができます。

中級２ａ，２ｂ：初級で学んだことの復習＋さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ２科目まで履修することができます。

上級１ａ，１ｂ：個別のテーマで，中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ２科目まで，年度を越えてさらに２科目，合計で４回履修することができます。

選択１ａ，１ｂ：第三の外国語として，入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

言語文化研究：世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

◎英語以外の外国語の「導入」科目（初級１ａ，１ｂ，２ａ，２ｂ）の４科目（４単位）を修得した場合は，同じ言語の選択１ａ・１ｂを履修することはできません。同様に，同じ言語の初級４科目（４単位）と選択１ａ・１ｂを同時に履修することはできません。

◎選択１ａ・１ｂは外国語科目の英語以外の外国語の「導入」の科目（初級１ａ，１ｂ，２ａ，２ｂ）の４科目（４単位）の単位を修得した後に履修できます。

◎必修の外国語として履修した科目の単位が未修得の場合は，再履修しなければなりません。

◎中級以上の科目については，開講されない外国語もあります。

◎英語以外の外国語に設定された卒業要件単位を超過して修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。

③資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

高校までに，すでに英語以外の外国語を学修し，指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合，入学年度当初に英語以外の外国語の初級１ａ・１ｂ および初級２ａ・２ｂ（４科目４単位）の認定を行い，中級の科目に進むことができます。

下表の資格試験の基準を満たしている学生は，初級１ａ・１ｂおよび初級２ａ・２ｂの単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認定単位数	認定科目（単位数）
ドイツ語技能検定試験	４級	4	ドイツ語初級１ａ(1) ドイツ語初級１ｂ(1) ドイツ語初級２ａ(1) ドイツ語初級２ｂ(1)
Goethe-Institut　ドイツ語検定試験	Ａ２	4	
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	Ａ２	4	
実用フランス語技能検定試験	４級	4	フランス語初級１ａ(1) フランス語初級１ｂ(1) フランス語初級２ａ(1) フランス語初級２ｂ(1)
DELF-DALF フランス語資格試験	Ａ２	4	
中国語検定試験	４級	4	中国語初級１ａ(1) 中国語初級１ｂ(1) 中国語初級２ａ(1) 中国語初級２ｂ(1)
HSK 漢語水平考試	HSK４級	4	
スペイン語技能検定	４級	4	スペイン語初級１ａ(1) スペイン語初級１ｂ(1) スペイン語初級２ａ(1) スペイン語初級２ｂ(1)
DELE スペイン語検定試験	Ａ２	4	
ロシア語能力検定試験	３級	4	ロシア語初級１ａ(1) ロシア語初級１ｂ(1) ロシア語初級２ａ(1) ロシア語初級２ｂ(1)

インドネシア語技能検定試験	D級	4	インドネシア語初級１ a(l) インドネシア語初級１ b(l) インドネシア語初級２ a(l) インドネシア語初級２ b(l)
ハングル能力検定試験	５級	4	コリア語初級１ a(l) コリア語初級１ b(l) コリア語初級２ a(l) コリア語初級２ b(l)
韓国語能力試験	TOPIK Ⅰ （１級）	4	

注意事項
単位認定の取り扱いについて
◎同一言語の４科目４単位をセットで認定します。
◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も，認定はいずれか一種類の検定試験によります。
◎認定科目の成績評価は点数で表さず，「認定」とします。
◎認定された単位は，各年次の履修上限単位数には含めません。
◎認定された場合は，所定の手続きを経ることで，１年次に同一言語中級科目の履修が認められます。
◎認定された場合は，初級１ａ・１ｂおよび初級２ａ・２ｂを履修することはできません。別の外国語を学修する場合，２年次以降に選択１ａ・１ｂを履修してください。

申請手続き
１）申請期間内に提出書類を教務課に提出し，「資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書類受領書」の交付を受けます。
２）申請期間は，入学年度の４月 20 日(休日の場合は前日)までとします。
３）提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。

（３）海外語学研修

海外語学研修および交換留学

本学の国際交流センターでは，海外の大学等と協定を結び様々な留学プログラムを設け，留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に，異文化圏での生活を肌で体験することによって，机上の学習では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。各プログラムの詳細については，国際交流事務課・グローバルカウンターまで問い合わせてください。

留学プログラムを修了することによって単位認定される科目を次に紹介します。

①海外語学短期研修

海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修１に，春季留学プログラムを修了した場合に海外語学短期研修２に認定されます。

「夏期・春期留学プログラム」は，夏期・春期休暇を利用して海外の協定校等で約１ヶ月にわたって集中的な語学研修を行うものです。留学プログラム開設コース及び内容については令和４年 12 月現在のものです。

海外語学短期研修１［２単位（１～３年次配当）］
夏期留学プログラム開設コース：社会知性開発　CIE オックスフォード（英国）
社会知性開発　ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間は約３～４週間で，１日４～５時間程度の初級レベルの語学研修と課外活動を行います。実践的な会話を学修し，ホームステイやフィールドトリップなどをとおして現地の文化・歴史・生活習慣を学べます。CIE オックスフォードでは，現地学生とプロジェクトワークを行います。ウーロンゴン大学では語学研修終了後，シドニーにて２週間のインターンシップを体験します。

海外語学短期研修２［２単位（１～３年次配当）］
春期留学プログラム開設コース：
英　　語　カルガリー大学（カナダ），ワイカト大学（ニュージーランド）
中 国 語　北京大学（中国）
コ リ ア 語　延世大学（韓国）
ド イ ツ 語　マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテン ベルク（ドイツ）
フランス語　トゥーレーヌ語学センター（フランス）
スペイン語　アリカンテ大学（スペイン）／イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

※スペイン語コースはスペインとメキシコにおいて隔年で実施しています。

研修期間は４～５週間で，１日４時間程度の 語学研修と課外活動を行います。英語コースの 応募には TOEFL®スコアが必要です。また，コースによっては文化施設見学やフィールドトリップ等，様々なプログラムが展開されています。

注意事項
◎詳細は年度により異なる可能性があります。各年度のパンフレットをよく読むようにしてください。
◎単位は希望者のみに与えられますので，希望者は研修参加が決定した後で定められた期日までに科目履修登録を行ってください。
◎評価は各プログラムの習熟度により本学の基準で行い，「認定」として単位を授与します。
◎それぞれの言語ごとに各１回を単位を自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし，４年次生の参加者及び同一留学プログラム同一言語コース２度目の参加者については対象となりません。

②海外語学中期研修
海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
「中期留学プログラム」は，本学協定校あるいは研修校に前期または後期の４～５ヶ月間留学し，外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。留学プログラム開設コース及び内容については令和４年 12 月現在のものです。

海外語学中期研修１～８［各２単位（２～４年次配当）］

中期留学プログラム開設コース：

英　　語（前期）：カルガリー大学（カナダ），オレゴン大学（米国），ウーロンゴン大学（オーストラリア），ワイカト大学（ニュージーランド）

英　　語（後期）：ネブラスカ大学リンカーン校（米国）

社会知性開発（後期）：ワイカト大学＋インターンシップ（ニュージーランド）

ド イ ツ 語（前期）：ライプツィヒ大学（ドイツ）

フ ラ ン ス 語（後期）：リュミエール・リヨン第２大学 CIEF（フランス）

中　国　語（後期）：上海大学（中国）

ス ペ イ ン 語（後期）：イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

コ リ ア 語（後期）：檀国大学（韓国）

実践的なコミュニケーション能力の習得に加え，大学の正規授業を受けるために必要なアカデミックスキル（プレゼンテーション，ノート・テイキング，リサーチ，論文の書き方等）や，異文化について学ぶことができます。

注意事項

◎詳細は年度により異なる可能性があります。各年度のパンフレットをよく読むようにしてください。

◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。

◎単位は希望者のみに与えられますので，希望者は中期留学プログラムへの参加決定後，所定の期間に教務課で面接の上，中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。

◎学修成果の評価は，当該科目担当教員が「事前授業」,「事後授業」,「留学先の成績表」等に基づいて行い,「認定」として単位を授与します。

◎単位は自由選択修得要件単位として，英語では海外語学中期研修１～８（英語）（各２単位），ドイツ語では海外語学中期研修１～８（ドイツ語）（各２単位），フランス語では海外語学中期研修１～８（フランス語）（各２単位），中国語では海外語学中期研修１～８（中国語）（各２単位），スペイン語では海外語学中期研修１～８（スペイン語）（各２単位），コリア語では海外語学中期研修１～８（コリア語）（各２単位）で，それぞれ最高 16 単位まで認定されます。

◎英語英米文学科，ジャーナリズム学科は学科の専門科目での単位認定も行われます。英語英米文学科での単位認定については p.100 を，ジャーナリズム学科の専門科目での単位認定については p.149 を参照してください。

◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

③交換留学

交換留学には，「長期交換留学プログラム」（８ヶ月～１年間）と「セメスター交換留学プログラム」（４～５ヶ月）の２種類があります。どちらも本学協定校にて，正規授業科目を履修するプログラムです。留学中に修得した単位は，審査のうえ 60 単位（日本文学文化学科は 30 単位）を上限に本学の単位に振り替えることができます。また，国際交流協定に基づいて留学先大学への学費の支払いが免除されます（集中語学研修授業料は除く）。

募集時期・出発時期の詳細については国際交流センターの「交換留学・中期ガイドブック」を確認してください。

長期交換留学プログラム第１期：
英　　語：ウーロンゴン大学（オーストラリア），ワイカト大学（ニュージーランド）
中　国　語：上海大学，西北大学（中国），国立中山大学（台湾）
モンゴル語：モンゴル国立大学（モンゴル）
コ リ ア 語：檀国大学（韓国）
ド イ ツ 語：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテン ベルク（ドイツ）
フランス語：リヨン政治学院（フランス）
スペイン語：バルセロナ大学（スペイン）

長期交換留学プログラム第２期：
英　　語：ネブラスカ大学リンカーン校，サスクェハナ大学，オレゴン大学（米国），カルガリー大学（カナダ），ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド），ブリストル大学（英国）

セメスター交換留学プログラム：
英　　語：ネブラスカ大学リンカーン校，サスクェハナ大学，オレゴン大学（米国），カルガリー大学（カナダ），ダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）

注意事項

◎プログラム及び内容については令和４年 12 月現在のものです。詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパンフレットをよく読むようにしてください。

◎交換留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。

◎交換留学プログラムにおける単位認定は，所属学部によって規定が異なります。国際交流事務課窓口・グローバルカウンター及び所属学部の教務課にて確認してください。

◎認定された科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

Ⅳ　外国人留学生の特例履修科目

外国人留学生のみなさんの学修がスムーズに行えるよう，本学では留学生のための科目を次の通り設置しています。

（１）教養科目・留学生専修科目

１年次（必修科目）

一般日本事情１　　一般日本事情２　　半期　２科目　４単位

（２）外国語科目・日本語科目

１年次（必修科目）

日本語文章理解１→日本語文章理解２　半期　２科目　２単位

日本語音声理解１→日本語音声理解２　半期　２科目　２単位

日本語口頭表現１→日本語口頭表現２　半期　２科目　２単位

日本語文章表現１→日本語文章表現２　半期　２科目　２単位

注意事項

◎矢印（→）で結ばれた科目（例えば，日本語文章理解１→日本語文章理解２）は，同一曜日・時限，同一担当者の科目をセットで履修します。ただし，前期に単位を修得できなかった場合は，後期の履修登録が削除されます。

２年次以上（選択科目）

応用日本語理解１　　応用日本語理解２　半期　２科目　２単位

応用日本語表現１　　応用日本語表現２　半期　２科目　２単位

注意事項

◎応用日本語理解１，２および応用日本語表現１，２を履修するためには，前年度までに日本語文章理解１，日本語文章理解２，日本語音声理解１，日本語音声理解２，日本語口頭表現１，日本語口頭表現２，日本語文章表現１，日本語文章表現２の単位を全て修得していなければなりません。

◎応用日本語理解１，２および応用日本語表現１，２は，同一年度に同じ科目を重複して履修することはできませんが，年度を変えれば，それぞれの１で３科目３単位，２で３科目３単位まで履修することができます。

◎母語の科目を，外国語科目（世界の言語と文化，言語文化研究を除く）として履修することはできません。

第３章

専門科目の学び方

専門科目では何を学ぶか

日本文学文化学科

英語英米文学科

哲学科

歴史学科

環境地理学科

ジャーナリズム学科

専門科目では何を学ぶか

第１章で記したように，本学における教育は，「転換・導入科目」，「教養科目」，「外国語科目」および「専門科目」に分かれている。「転換・導入科目」は大学や社会で求められる必要不可欠な基礎的知識や技能の修得のために，「教養科目」は豊かな教養を身につけて社会に巣立っていく基礎を築くために，設けられている。

これに対し，「専門科目」は，みなさんが所属する学部・学科の特色を最もよく示すものである。

文学部は，次のような６学科２コース制を採っている。

日本文学文化学科（ＬＢ）
英語英米文学科（ＬＡ）
- 英語コミュニケーションコース
- 英語文化コース

哲学科（ＬＴ）
歴史学科（ＬＲ）
環境地理学科（ＬＫ）
ジャーナリズム学科（ＬＭ）

文学部の各学科・コースが設けている専門科目の学び方は，以下の各学科・コースのガイドで説明することとして，ここでは専門科目の学び方にかかわる一般的な点について述べる。

文学部の専門科目は，「講義」「実習」「ゼミナール（演習）」のいずれかの授業形式（あるいはその組み合わせ形式）をとっている。それぞれの科目には独自のねらいがあるが，他の科目と深い関連をもつ場合も多く，その関連を考慮して，履修する学年が配当されている。特に，積み上げによる学修の効果が期待されている科目の履修にあたっては，配当年次のもつ意味に留意してほしい。

また，文学部の特色は，教員と学生のあいだ，学生と学生のあいだの言葉のやりとりを重視する少人数教育である。とりわけ「ゼミナール」は，学生が「調べる」―「発表する」―「討論する」ことを通じて研究対象への理解を深める，大学ならではの授業形式である。

以上の点を考慮に入れ，さらに卒業に必要な条件を視野に入れたうえで，自らの関心や目的にしたがった履修計画を立てることが重要である。一人ひとりが念入りにデザインした時間割――それは，個性あふれる自分だけの時間割となるだろう。

日本文学文化学科

Ⅰ　日本文学文化学科の特色

日本文学文化学科は日本文学，日本文化，創作の三つの軸より成り立つ学科である。更にこれに関する学問領域として，中国文学や各種メディア関係の授業もある。

個々の詳しい内容は，本学修ガイドブックの専門科目一覧や，各講義の要項を参照してほしいが，おおまかに説明すれば以下のようになる。

文学の分野では『万葉集』に始まり『源氏物語』，中世文学，江戸文学，更には明治から現代作家にいたるまで，幅広く扱っている。また日本文学と不可分の関係にある中国文学や，他国の文学と日本文学を比較研究する比較文学の講義もある。

文化の分野では，演劇，映画，マンガ，伝統文化研究，現代メディアの重要な要素である出版文化やアニメーションの授業などがある。

創作の分野では，文藝創作，書道の授業がある。

２・３・４年次のゼミナール１・２・３は必修科目である。学生は原則として３年間通して同じ教員の担当するゼミナールに属する。その指導のもと，専門知識を深め，卒業時には卒業論文，卒業作品を完成させる。

本学科の専門科目には，１年次より学べる基礎的な科目と，２年次以上で履修することができるより高度な内容の科目がある。

本学科は，多種多様な科目を用意しているが，各自の学問的関心によっては，他学部や他学科の科目を履修できる。これを卒業要件単位に含めることも可能である。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

以下では，卒業のために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み，それに沿って履修計画を立ててほしい。

1．卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件についてはp.36「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，日本文学文化学科の学生には，以下の表に示した要件を充たすことが要求される。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し，要求されるものが何であるかを確認してほしい。

文学部日本文学文化学科

<table>
<tr><th colspan="2">区　分</th><th colspan="2">卒業要件単位</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td rowspan="6">転換・導入科目</td><td>専修大学入門科目</td><td>2</td><td rowspan="6">4</td><td rowspan="15">自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。</td></tr>
<tr><td>データリテラシー</td><td></td></tr>
<tr><td>キャリア基礎科目</td><td></td></tr>
<tr><td>情報リテラシー科目</td><td></td></tr>
<tr><td>基礎自然科学</td><td></td></tr>
<tr><td>保健体育基礎科目</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="5">教養科目</td><td>人文科学基礎科目</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="5">8</td></tr>
<tr><td>社会科学基礎科目</td></tr>
<tr><td>自然科学系科目</td></tr>
<tr><td>融合領域科目</td></tr>
<tr><td>保健体育系科目</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td>英語</td><td>4</td><td rowspan="3">8</td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>4</td></tr>
<tr><td>海外語学研修</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>必修科目</td><td>20</td><td rowspan="2">76</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td>56</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択修得要件単位</td><td colspan="2">28</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業要件単位</td><td colspan="2">124</td></tr>
</table>

［日本文学文化学科］

【外国人留学生】 文学部日本文学文化学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	4	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	20	76	
	選択科目	56		
自由選択修得要件単位		28		
卒業要件単位		124		

［日本文学文化学科・外留］

２．科目の履修方法

日本文学文化学科の学生は，卒業までに転換・導入科目４単位，教養科目８単位，外国語科目８単位，専門科目76単位，自由選択修得要件単位となる科目28単位以上，合計124単位以上を修得しなければならない。また各年次に修得する単位の目安（１年次38単位，２年次38単位，３年次36単位，４年次12単位）が定められているので，この条件も充たすように毎年の履修計画を立てなければならない。

なお，履修にあたっては，上記の二点に加え，以下の二点にも注意を払ってもらいたい。

まず**第一**は，配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならないということである。また，指定された配当年次が複数の学年にわたる科目や，配当年次の指定がない科目でも，それが選択科目である場合には，過重負担にならない限り，なるべく低年次で履修することが望ましい。

第二は，同一名称の科目は原則としてひとつしか履修できないということである。一度に同一名称の科目を２つ以上履修登録することはできないし，一度単位を修得した科目をもう一度履修することもできない。

上記の点を考慮し，各人の興味と関心に従って自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。具体

的な履修方法については以下に詳説するが，まずpp.87～89の表を概観し，カリキュラムの大枠を頭に入れておいてほしい。

⑴　転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目はpp.49～55に，教養科目はpp.56～63に，外国語科目についてはpp.64～75に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1）転換・導入科目

①　専修大学入門科目，保健体育基礎科目

専修大学入門科目は1年次の半期2単位，保健体育基礎科目は，1年次にそれぞれ半期1単位，合計4単位を必ず修得しなければならない。

②　上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2）教養科目

①　人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は2年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。

②　8単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

①　英語

1年次で英語4科目を履修し，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English（RL）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の2科目と，B群のBasics of English（SW）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の2科目を履

修する。

② 英語以外の外国語

1年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級1a（前期），初級1b（後期）の2科目と，初級2a（前期），初級2b（後期）の2科目を履修する。

③ 上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵ 専門科目の履修方法

日本文学文化学科では，日本の文学と文化に関する講義を中心に多彩な専門科目が展開されている。読解（「よみとく」），発信（「つたえる」），創造（「つくる」）といった様々な経験をとおし，ものごとの本質を多角的に探究し，自在に表現できる力を培ってほしい。

専門科目として開講される科目名称等についてはpp.155～160の「文学部専門科目一覧」を見てもらいたい。科目の中には，必ず修得しなければならない必修科目と多くの科目の中から自分の選びたいものを自由に選べる選択科目の2通りがある。ほとんどの科目は半年で完了する半期科目であるが，ゼミナールおよび書道科目の一部は一年を通じて行われる通年科目なので，注意してほしい。

【選択科目】

① 1年次から履修できる選択科目

日本文学概論1・2，日本文学講義1～6，中国文学講義1・2，出版文化論1・2，日本文学通史1・2，ビジュアル文化論，児童文学研究，日本文学講読，書道1～6がある。各領域の基本的な能力を身につけることを目的としている。取り扱う内容（時代・地域・分野等）についてシラバスで確認すること。日本文学講義1～6は上代文学，平安文学，近現代文学などを取り扱う。書道1～6は書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書・かな及び実用の書）を学ぶ。書道1・2・3は書写の内容を含む。

なお，選択科目は同一名称の科目が存在するが，科目名称末尾の数字によって講義内容は異なるので必ずシラバスで講義目標・内容を確認して履修すること。一例として書道1～6の科目概要を示すと以下の通りである。

書道1・・・身の周りの多様な表現に関心を持ち，古典などを通し楷書の表現を学修する。書写の内容含む。

書道2・・・書の歴史にも関心を持ち，古典などを通し行書の表現を学修する。書写の内容含む。

書道3・・・日本の文字文化に関心を持ち，毛筆の基礎的技法を学修する。書写の内容含む。

書道4・・・書体の変遷などにも関心を持ち，古典などを通し草書の表現や鑑賞について学修する。

書道５・・・日本古来の「かな」に関心を持ち，古筆の美に通じる基礎的技法を学修する。
書道６・・・漢字の成り立ちや歴史背景などにも興味を持ち，基本的な用筆法や結構法について学修する。

② ２年次から履修できる選択科目

日本文学研究１～8，現代文学研究１・2，中国文学研究１・2，比較文学研究１・2，文藝創作１・2，中国文学史１・2，日本文化研究１～8，アジア文化研究１・2，マンガ研究１・2，比較文化研究１・2，伝統文化研究１・2，演劇研究１・2，現代文化研究１・2，映画研究１・2，書道史，書道美学論がある。各領域の固有のテーマについて深く研究することを目的としている。取り扱う内容（時代・地域・分野等）についてシラバスで確認すること。日本文化研究１～８の概要としては日本の歴史・社会・環境と文化との関係を多角的に取り扱う。

※資格取得（教職課程，司書・司書教諭・学校司書課程，学芸員）については『教職，司書・司書教諭・学校司書，学芸員課程ガイドブック』を参照し，専門科目の履修要件を確認の上，計画的に履修すること。

③ ゼミナール

ゼミナールは教員と学生同士が特定のテーマのもとにディスカッションしながら学ぶ少人数制の専門的な授業である。そのテーマや内容は年度ごとに示される。自らが関心を寄せる研究領域をよく考えた上で，複数展開されるゼミナールの中から，自分にもっともふさわしいものを選んでほしい。ゼミナールは１年次の後期に開かれるゼミナールガイダンスに出席した上で提出した希望届によって決定する。

④ 卒業論文

卒業論文は，４年次生が大学生活の総決算として作成する論文である。４年次生は卒業論文のために特に指導教員の指導を受けるが，早い者は１年次の終り頃から題目の選定にかかり，念入りに準備してとりかかる一大事業である。レポートとは異なり，学問のレベルを突破しようとする野心作でなければならない。多くの労力を費やすことになるため，４年次はほとんどこれに専心できるような態勢をととのえておく必要がある。

所定の単位を修得し，この卒業論文を提出し，論文についての口述試験に合格して，はじめて学士（文学）の学位が与えられることになる。なお，ゼミナール１・２の単位が未修得の場合でも，４年次の卒業論文の提出は認められる。

⑶ 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは，上記の教養科目および専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で，さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の７つである。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
d．選択科目の卒業要件単位を超えて修得した日本文学文化学科開講の専門科目の単位。

e．日本文学文化学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。

f．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）

g．日本文学文化学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし28単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は，学生各自の裁量に委ねられる。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。ただし，卒業までに自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

日本文学文化学科の学生に課されている専門科目の必修単位数は4科目20単位である。何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合，必ず次の年次で同一名称の科目を再履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。ただし，ゼミナールは，２年次でゼミナール１，３年次でゼミナール２，４年次でゼミナール３がそれぞれ必修科目となっており，同一年次に複数のゼミナールを履修することは原則として認められていないことから，例えば２年次でゼミナール１の単位が修得できなかった場合，その単位は５年次に再履修することになる。この点は注意を要する。

②　選択科目の再履修

選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

文学部日本文学文化学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	4	・卒業要件単位４単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学 論理学入門 ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済 地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門 子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計						・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。
	自然科学系科目	自然科学実験演習１ 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１ａ 生物科学１ｂ 生物科学２ａ 生物科学２ｂ 生物科学３ａ 生物科学３ｂ 宇宙地球科学１ａ 宇宙地球科学１ｂ 宇宙地球科学２ａ 宇宙地球科学２ｂ 化学１ａ 化学１ｂ 化学２ａ 化学２ｂ 物理学１ａ 物理学１ｂ 物理学２ａ 物理学２ｂ 数理科学１ａ 数理科学１ｂ 数理科学２ａ 数理科学２ｂ 数理科学３ａ 数理科学３ｂ 科学論１ａ 科学論１ｂ 科学論２ａ 科学論２ｂ				8		・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。
	融合領域科目		学際科目１ 学際科目２ 学際科目３ 学際科目４ 学際科目５ 学際科目６ 学際科目７ 学際科目８ 学際科目９ 学際科目10 学際科目11　(4) 学際科目12　(4)					
			テーマ科目					・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。
			新領域科目１ 新領域科目２ 新領域科目３ 新領域科目４ 新領域科目５					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ スポーツ論（健康と生涯スポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ） スポーツ論（スポーツコーチング） スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（トレーニング科学）					・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
外国語科目	英語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1) English Speaking b　(1) Computer Aided Instruction a　(1) Computer Aided Instruction b　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b Screen English a Screen English b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
	英語以外の外国語	導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)				4		・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1) 中国語中級１ａ　(1) 中国語中級１ｂ　(1) 中国語中級２ａ　(1) 中国語中級２ｂ　(1) スペイン語中級１ａ　(1) スペイン語中級１ｂ　(1) スペイン語中級２ａ　(1) スペイン語中級２ｂ　(1) ロシア語中級１ａ　(1) ロシア語中級１ｂ　(1) ロシア語中級２ａ　(1) ロシア語中級２ｂ　(1) コリア語中級１ａ　(1) コリア語中級１ｂ　(1) コリア語中級２ａ　(1) コリア語中級２ｂ　(1) インドネシア語中級１ａ　(1) インドネシア語中級１ｂ　(1) インドネシア語中級２ａ　(1) インドネシア語中級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
			応用：ドイツ語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1) ロシア語上級１ａ　(1) ロシア語上級１ｂ　(1) インドネシア語上級１ａ　(1) インドネシア語上級１ｂ　(1) コリア語上級１ａ　(1) コリア語上級１ｂ　(1)						・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1) 選択スペイン語１ａ　(1) 選択スペイン語１ｂ　(1) 選択コリア語１ａ　(1) 選択コリア語１ｂ　(1) 選択アラビア語１ａ　(1) 選択アラビア語１ｂ　(1) 選択イタリア語１ａ　(1) 選択イタリア語１ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ，ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ，ｂと初級２ａ，ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ，ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語）	世界の言語と文化（中国語） 世界の言語と文化（スペイン語）	世界の言語と文化（ロシア語） 世界の言語と文化（インドネシア語）	世界の言語と文化（コリア語）			・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１ 言語文化研究（ヨーロッパ）２	言語文化研究（アジア）１ 言語文化研究（アジア）２	言語文化研究（アメリカ）			
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）	海外語学短期研修２（外国語）					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語） 海外語学中期研修２（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）	海外語学中期研修４（外国語） 海外語学中期研修５（外国語） 海外語学中期研修６（外国語）	海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修８（外国語）			・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

【外国人留学生】文学部日本文学文化学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	4	・卒業要件単位４単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 世界の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 文学と現代世界　基礎心理学入門　芸術学入門 英語圏文学への招待　応用心理学入門　異文化理解の人類学 歴史の視点　哲学　ジャーナリズムと現代 倫理学			4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4) 教養テーマゼミナール論文	教養テーマゼミナール３　(4)			
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入 日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
		導入 ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)						
			基礎 ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
			応用 ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

文学部日本文学文化学科専門科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は配当年次を示す。

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位	備考
転換・導入科目													4	
教養科目													8	
外国語科目													8	
専門科目				ゼミナール１	4	○	ゼミナール２	4	○	ゼミナール３ 卒業論文	4 8	○ ○	20	4科目20単位必修
	日本文学概論１ 日本文学概論２ 日本文学講義１ 日本文学講義２ 日本文学講義３ 日本文学講義４ 日本文学講義５ 日本文学講義６ 日本文化講義１ 日本文化講義２ 日本文化講義３ 日本文化講義４ 日本文化講義５ 日本文化講義６ 日本文化講義７ 日本文化講義８ 中国文学講義１ 中国文学講義２ 出版文化論１ 出版文化論２ ビジュアル文化論 児童文学研究 日本文学講読 日本文学通史１ 日本文学通史２										2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	△ △	56	56単位選択
				日本文学研究１ 日本文学研究２ 日本文学研究３ 日本文学研究４ 日本文学研究５ 日本文学研究６ 日本文学研究７ 日本文学研究８ 現代文学研究１ 現代文学研究２ 中国文学研究１ 中国文学研究２ 比較文学研究１ 比較文学研究２ 文藝創作１ 文藝創作２ 中国文学史１ 中国文学史２ 日本文化研究１ 日本文化研究２ 日本文化研究３ 日本文化研究４ 日本文化研究５ 日本文化研究６ 日本文化研究７ 日本文化研究８ アジア文化研究１ アジア文化研究２ マンガ研究１ マンガ研究２ 比較文化研究１ 比較文化研究２ 伝統文化研究１ 伝統文化研究２ 演劇研究１ 演劇研究２ 現代文化研究１ 現代文化研究２ 映画研究１ 映画研究２								2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

英語英米文学科

Ⅰ　英語英米文学科の学生のために

１．英語英米文学科の特色

インターネット，SNSやe-mail等の情報通信テクノロジーの発達により，今や私たちは，場所や時間に制約されることなく，ほんのわずかな時間で，世界の出来事を知り，また自らのメッセージを世界に向けて発信することができるようになった。英語はこのような高度情報化社会を生きる現代人をグローバルに結びつける国際語である。英語を通して世界を知り，英語を通して自らの意思を伝える私たちにとって，英語の役割はさらに重要なものになると思われる。英語英米文学科は，このような国際化の進む社会の中で活躍できる人材を育てることを目標としている。

本学科のカリキュラムの特徴は，「きめ細やかな指導」，「参加型・発信型の授業の展開」，および「英語力と教養の充実」の３点に集約される。これら３つの特色が顕著に見られるのは１年次教育においてである。１年生を対象に全学部で導入されている半期科目「専修大学入門ゼミナール」は，専修大学の歴史を学び，大学で学ぶことの意義について考える少人数制のクラスである。このゼミナールを通して学生は，自分自身や自分が置かれている環境について知り，大学卒業後の姿が思い描けるようになる。また，大学での学修の基礎となるアカデミック・スキルを身につけるための導入となるこの科目を履修することによって，学生は，図書館の利用法，情報検索の方法，文献の読み方，レポートの書き方，グループ・ディスカッションの進め方，プレゼンテーションの仕方などの作業に主体的に取り組み，情報を「受信」するだけではなく，自らの視点で分析した内容を「発信」する訓練を積むことになる。

この専修大学入門ゼミナールは，後期には，listening，speaking，reading，writingという英語の４技能を総合的に学ぶ「専門入門ゼミナール」にそのまま移行し，20人程度という少人数クラスで，学生のレベルにあった「きめ細やかな指導」を行うことにより学生の基礎的な「英語力」の向上を目指す。

また，２年次より英米文学，英米研究，英語学，および応用言語学の４つの専門分野に関する講義科目を展開しているが，１年次開講の「英語英米文学概論１，２」はこれら４つの分野の概要を紹介し，専門的な講義科目を理解するために必要な基礎的な知識・教養を提供する入門授業としての役割を担っている。

１年次では，学科の専任教員が担任としてクラスの指導に当たり，各学生の長所・短所を考慮に入れながら今後の大学での学修等について適切なアドバイスをすることになっている。こうしたきめ細やかな指導は２年次の「英語総合演習１，２」に引きつがれる。

２年次以降は「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」のいずれかのコースに所属して，英米文学，英米研究，英語学，および応用言語学の４つの専門分野に関する「専門知識や教養」を身につけていくことになる。専門講義はすべて２年次から受講することができ，学生は早い段階から専門性を培うことができるように工夫されている。「英語文化コース」は，「英語」とい

うことばのしくみや歴史，英語で表現された文学，そして英語の文化的背景などについて学び教養を深めることを目指している。伝統的な専門領域だけではなく，「英米映画論１，２」，「英米ポップカルチャー論」など現代的なテーマを扱う講義も開講されている。「英語コミュニケーションコース」は，１年次で養った英語力をさらに向上させ，さまざまなコミュニケーションの場面に対応できる運用力を身につけることを目的としたコースである。「英語コミュニケーションコース」では，「通訳入門１，２」，「翻訳入門１，２」が必修科目として位置づけられており，通訳および翻訳の実践的トレーニング手法を英語学習に応用した少人数の演習科目を通して，英語力の実践的な応用の可能性を探る。さらに，アメリカ，カナダ，ニュージーランド等にある専修大学の協定校に留学することを積極的に奨励しており，留学で学んだ成果は「中期留学」という科目名で単位認定することができる。

本学では中期留学だけでなく，短期，セメスター，長期とさまざまな形態の留学プログラムを用意しているので，コースを問わず在学中に是非一度は留学をし，英語力を高めると共に，異文化に触れることにより考え方や視野を広げることに挑戦してほしい。また本学科のカリキュラムは，「教員養成課程コアカリキュラム」「外国語（英語）コアカリキュラム」にも対応しており，教員を志望する学生は教職科目を履修することで教員を目指すことができる。

３年次以降は，各学生はゼミナールに所属し，英語の運用力を高めるとともに専門的な知識をさらに深めていくことになる。英語英米文学科では15名から20名程度からなる小規模編成によるゼミナールを展開しており，学生と教員および学生同士の関係も緊密で，「大学時代のよき思い出」を創ることのできる貴重な場となりうる。４年次には大学での学修の最終的な成果として卒業研究に取り組むことになる。英語英米文学科では学生の創造性に応えることができるよう，従来の「論文形式」だけでなく，通訳コンテスト，プレゼンテーション，ホームページ作成，翻訳などの斬新で多様な形態を取り入れている。

このように４年間で，「きめ細やかな指導」により「英語力と教養」を磨き，専門知識を深め，自らの意見や見解を「発信」する力を身につけた後は，さまざまなキャリアを目指して社会に巣立ち羽ばたいてほしいと願っている。

２．１年次の履修に当たって

１年次で，英語英米文学科での学修の基礎と英語力を高めることが重要課題である。そのため，listening，speaking，reading，writingの４技能に関する多様な科目を履修することになっている。後期から始まる「専門入門ゼミナール」では自分の英語のレベルに応じて，足りない部分を補強し得意な部分をより一層伸ばすことを目指している。「英語英米文学概論１，２」は２年次以降の専門科目への橋渡し的な役割を担っている入門講義であり，かつ大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ授業でもある。また，「専修大学入門ゼミナール」では，専修大学の歴史を学び，大学で学ぶことの意義について考える。これらの科目はすべて必修科目であり，英語英米文学科の１年生は必ずこれらの科目の単位を修得しなければならない。１年次でこれらの科目の単位を履修できない場合，２年次以降希望のコースに進むことができなくなったり，２年次での時間割編成が困難になることがあるので，十分注意してほしい。

３．コース分けについて

英語英米文学科の学生は，１年次から２年次に進級する時に，「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」の２コースのいずれかに所属することになる。コース志望調査は１年次の秋に行い，英語コミュニケーションコースへの志望者が当該学年在籍数の４分の１を超えた時には選抜が行われる。英語コミュニケーションコースへの選抜は，原則として１年次の秋に実施される２回目のプレイスメント・テストの成績を基準とし，１年次の専門必修科目の単位をすべて修得することを条件にして行われる。詳しくは当該年度のコースガイダンスで説明する。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

以下に大学を卒業するために必要な要件と，科目の具体的な履修方法について概説する。説明をよく読み，それに沿って履修計画を立ててほしい。

１．卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件があるが（一般的な要件については，p.36「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，英語英米文学科の学生には，以下の表に示した要件を充たすことが要求されている。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し，何が必要か確認してほしい。

文学部英語英米文学科　英語コミュニケーションコース

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語		4	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	40	84	
	選択必修科目	44		
	選択科目			
自由選択修得要件単位		22		
卒業要件単位		124		

［英語英米文学科・英語コミュニケーションコース］

【外国人留学生】 文学部英語英米文学科　英語コミュニケーションコース

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	40	84	
	選択必修科目	44		
	選択科目			
自由選択修得要件単位		18		
卒業要件単位		124		

［英語英米文学科・英語コミュニケーションコース・外留］

文学部英語英米文学科　英語文化コース

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語		4	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	72	
	選択必修科目	40		
	選択科目			
自由選択修得要件単位		34		
卒業要件単位		124		

［英語英米文学科・英語文化コース］

【外国人留学生】 文学部英語英米文学科　英語文化コース

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	32	72	
	選択必修科目	40		
	選択科目			
自由選択修得要件単位		30		
卒業要件単位		124		

［英語英米文学科・英語文化コース・外留］

２．科目の履修方法

英語英米文学科の学生は，上表にある通り，英語コミュニケーションコースを専攻する場合は，転換・導入科目６単位，教養科目８単位，外国語科目４単位（外国人留学生は８単位），専門科目84単位，自由選択修得要件単位となる科目22単位（外国人留学生は18単位）以上，英語文化コースを専攻する場合，それぞれ６単位，８単位，４単位（８単位），72単位，34単位（30単位）以上，合計124単位以上を修得しなければならない。また，各年次に修得する単位の目安（１年次36単位，２年次38単位，３年次38単位，４年次12単位）が定められているので，この条件をも充たすよう毎年の履修計画を立てなければならない。

履修にあたっては，さらに以下の２点にも注意を払ってもらいたい。

① 配当年次が指定されている科目は，その年次に履修しなければならない。配当年次が複数の学年にわたって指定されている科目や，指定がない科目については，前記修得単位の目安も考慮しながら，各自が自分に合った履修計画を充分練って，年次配分を考えてほしい。その場合に必ず必修科目を優先的に修得するよう配慮しなければならない。

② 同一名称の科目は原則として１つしか履修できない（一部の教養科目を除く）。また，一度単位を修得した科目をもう一度履修することもできない。

ただし，同一名称であっても内容が異なれば「Special Seminar」，「特別総合講義」は，４科目８単位まで履修することができる。

上記の点を考慮し，各自の興味と関心に従って自由に独創的なカリキュラムを組んでほしい。

⑴　転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目は pp. 49 ～ 55 に，教養科目は pp.56 ～ 63 に，外国語科目については pp.64 ～ 75 に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1）転換・導入科目

①　専修大学入門科目，専門入門ゼミナール，保健体育基礎科目

専修大学入門科目，専門入門ゼミナールは，１年次にそれぞれ半期２単位，保健体育基礎科目は，それぞれ半期１単位，合計６単位を必ず修得しなければならない。

②　上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2）教養科目

①　人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から８単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は１，２年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は３，４年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は２年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は１年次から４年次まで開講されている。

②　８単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

①　英語以外の外国語

１年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

②　上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵　専門科目の履修方法

専門科目は，演習科目，特殊演習科目，講義科目，ゼミナールおよび卒業研究の４つの科目群から構成されている。それぞれの科目群に開講される科目名称等についてはpp.155～160の「文学部専門科目一覧」を参照してほしい。各科目は，必修科目（○のついた科目），選択必修科目（◎のついた科目），選択科目（△のついた科目）のいずれかに指定されている。必修科目と選択必修科目はコースによって異なるので，２年次以降は自分の属するコースで指定されている科目を履修するよう注意しなければならない。

⑵　演習科目

演習科目は高校までに修得した英語をもとに，英語の４技能（聴く，話す，読む，書く）の基礎的な運用力を養うための科目である。そのうち，「Composition１，２」，「Speaking１，２」，「Integrated English１，２」は通常のクラスを二分して，少人数クラスで受講するよう配慮されている。１年次に開講される演習科目は各コースともすべて必修科目となっている。２年次以降はコースによって開講科目，修得方法が異なるので，後述のコース別の履修方法を参照してほしい。

⑵　特殊演習科目

特殊演習科目は主として翻訳，通訳等の実務英語に関わる科目と，高度な講読，作文，会話等の訓練を行う演習科目からなっている。このうち「通訳入門１，２」，「翻訳入門１，２」は英語コミュニケーションコースの学生には必修科目となっている。詳しい履修方法については後述のコース別の履修方法を参照してほしい。

⑵　講義科目

講義科目は英語学，英米文学，英米研究，応用言語学のさまざまなテーマに関する講義を行う科目である。これらの中には隔年に開講される科目が多数あるので，履修計画を立てる際には注意が必要である。

英語学領域としては，「英文法のしくみ」，「英語のしくみ」，「英語の音声」，「英語の変遷史」「ことばの獲得１，２」等の講義科目がある。

英米文学領域としては，「イギリス文学の世界」，「アメリカ文学の世界」，「文学作品と英語表現」，「英米の小説・詩・演劇」，「英米映画論」，「英米ポップカルチャー論」等の講義科目がある。

英米研究領域としては，「イギリスの歴史と文化」，「アメリカの歴史と文化」，「英米研究特殊講義」等の講義科目がある。

応用言語学領域としては，「外国語学習の科学」，「異文化コミュニケーション」，「ことばと社会・文化」，「英語教育の研究と実践」等の講義科目がある。

ほか，「国際理解」，「異文化交流」，「Japan & the World１,２」等，国際的な視野で日本を含む世界の文化・社会を展望する講義科目もある。

「特別総合講義」は，毎回，テーマを設定し，学科の専任教員および外部講師の講義を織り交ぜたオムニバス講義科目である。

いずれも，所属するコース，ゼミナールにかかわらず，履修できる選択必修科目である。

⑵　ゼミナールおよび卒業研究

英語英米文学科では１年次に「英語英米文学概論１，２」を必修科目として開講している。ここでは，英語学・応用言語学および英米文学・英米研究の２つの領域について，各クラスに２名の教員が半期毎に担当し，専門科目への導入を図る。なお，１年次で「英語英米文学概論１，２」を修得できなかった学生は２年次のコース分けに際して支障をきたす場合があるので注意してほしい。さらに３，４年次にはゼミナール１～４が必修科目として開講され，学生はいずれかのゼミナールに所属しなければならない。そして，４年次には卒業研究が必修科目として課されている。４年間学んできたことの中で特に関心のある分野やテーマについて，自分なりにまとめることが求められる。卒業研究の形式は論文形式のほか，Power Point を利用した英語によるプレゼンテーション・ホームページ作成，日英通訳のコンテストと日⇔英の翻訳も認められている。詳細については，『文学部時間割』巻末の「卒業研究の手びき」を参照の上，それぞれの「卒業研究」の指導教員の指導に従う必要がある。ゼミナールの履修に当たっては，以下の申合せ事項があるので，注意してもらいたい。

① 「ゼミナール１，２」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めない。
② 「ゼミナール３，４」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めない。
③ 「ゼミナール１，２」が未取得の場合，その再履修は４年次で認める。また，卒業研究の履修も認める。同じ教員のゼミナールが原則だが，ただし，「ゼミナール３，４」が「ゼミナール１，２」と合併で展開している場合は別の「ゼミナール１，２」を履修しなくてはならない。
④ 「ゼミナール１，２」と「ゼミナール３，４」は積み上げを原則とするが，異なる専門領域で卒業研究を行いたい意志がはっきりした学生については，もとのゼミナールの教員と移行するゼミナールの教員の了承を得た上で，学科会議に諮って認められる。
⑤ 「英語英米文学概論１，２」を修得していることを「ゼミナール１，２，３，４」，「卒業研究」の履修要件とはしない。
⑥ 「ゼミナール１」のみ，または「ゼミナール２」のみが未取得の場合も上記③に準ずる。

次に，各コースの履修方法を年次を追って概略説明する。

１年次はコースに分かれていないため，英語英米文学科の全学生共通に，演習科目が10科目10単位，および「英語英米文学概論１，２」（４単位）が必修科目として指定されている。これらの科目はすべてクラス単位の授業となるので，学生は必ず自分が属するクラスの授業を受講しなければならない。

① 英語コミュニケーションコース

２年次には，演習科目として「英語総合演習１」など４科目，特殊演習科目として「通訳入門１」など４科目が必修科目に指定されている。

選択必修科目に関しては，演習科目として２年次に開講される「Advanced Reading １」など６科目，２，３，４年次に開講されている「中期留学１～４」の４科目，および演習科目として３，４年次に開講される「Advanced Reading ３」など８科目，これら合計18科目の中から４科目履修しなければならない。更に，特殊演習科目として２年次に開講される「国際理解１」な

どの６科目，２，３，４年次に開講されている「中期留学５～８」の４科目，および特殊演習科目として３，４年次に開講される「通訳演習１」など12科目，これら合計22科目の中から８科目履修しなければならない。

３，４年次には，「ゼミナール１～４」，および「卒業研究」が必修科目に指定されている。その他，２，３，４年次に開講されている選択必修科目からいずれか10科目20単位を修得しなければならない。ただし３分割された各専門分野から，それぞれ２科目４単位以上を履修しなければならない。

なお，３，４年次に開講されている「通訳演習１，２」と「翻訳演習１～４」は，２年次に開講されている「通訳入門１，２」及び「翻訳入門１，２」の単位をそれぞれ修得していなければ履修することができない。

残り22単位は，英語英米文学科が開講する選択科目，および，英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修することができる。

② 英語文化コース

２年次には演習科目である「英語総合演習１，２」および「Speaking ３，４」の４科目が必修科目に指定されている。これらの演習科目もクラスが指定されているので，自分の属するクラスの授業を受講しなければならない。

また，２年次に開講される「Advanced Reading １」など６科目，および３，４年時に開講される「Advanced Reading ３」など10科目，これら合計16科目の中から４科目履修しなければならない。更に，２年次に開講される国際理解１など４科目，および３，４年時に開講される「Business & English １」など６科目，これら合計10科目の中から２科目履修しなければならない。

３，４年次にはゼミナール１～４，および卒業研究が必修科目に指定されている。

講義科目については，２，３，４年次に開講される講義科目の中から14科目28単位を履修しなければならない。ただし３分割された各専門分野から，それぞれ２科目４単位以上を履修しなければならない。講義科目の中には隔年開講の科目が多数あるので開講年次に注意して履修してほしい。

残り34単位は，英語英米文学科が開講する選択科目，および英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修することができる。

⑶ 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは，上記の教養科目および専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で，さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるのは以下の８つである。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

d．英語英米文学科の各コースで指定された選択必修科目の卒業要件単位を超えて修得した英語英米文学科開講の専門科目の単位。

e．英語英米文学科の各コースで指定された専門選択科目の修得単位。

f．英語英米文学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。

g．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし８単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）

h．英語英米文学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし16単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は，原則として学生の裁量に任せられている。それぞれの興味と関心に応じ，自由にカリキュラムを組んでほしい。いずれにしても，卒業までに各コースに必要な自由選択修得要件単位数に達するよう注意を払わなければならない。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

何らかの理由で必修科目の単位が修得できなかった学生は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。必修科目の再履修はすべての科目に優先して履修しなければならない。なお，前述したように，一度単位を修得した科目の再履修はできない。

②　選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

⑸　中期留学をした場合の単位認定について

英語英米文学科においては，本学協定校等で所定の中期留学プログラム（英語）の単位を取得した場合，単位認定は次のように行うものとする。

１．中期留学の単位認定は，16単位をまとめて行うものとし，一部での単位認定は認めない。

２．中期留学の単位認定においては，英語英米文学科の専門科目（中期留学１～８）のみを読み替えの対象とする。ただし，２回目の中期留学については，教養科目（海外語学中期研修Ⅰ～Ⅷ）の単位に充当することができる。

３．中期留学に２回参加する場合，同一国に留学した場合でも単位認定の対象とする。ただし同一の大学に留学した場合は単位認定の対象とはしない。

⑹　セメスター，長期留学した場合の単位認定について

英語英米文学科においては，本学協定校等にセメスター，長期留学した場合には，協定校における履修状況（履修した科目及び成績）を検討した上で，英語英米文学科の卒業要件に含まれる単位に読み替えることとする。

文学部英語英米文学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学 論理学入門 ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済 地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門 子どもと社会の教育学 情報社会 はじめての経営 マーケティングベーシックス 企業と会計						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１ 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１ａ 生物科学１ｂ 生物科学２ａ 生物科学２ｂ 生物科学３ａ 生物科学３ｂ 宇宙地球科学１ａ 宇宙地球科学１ｂ 宇宙地球科学２ａ 宇宙地球科学２ｂ 化学１ａ 化学１ｂ 化学２ａ 化学２ｂ 物理学１ａ 物理学１ｂ 物理学２ａ 物理学２ｂ 数理科学１ａ 数理科学１ｂ 数理科学２ａ 数理科学２ｂ 数理科学３ａ 数理科学３ｂ 科学論１ａ 科学論１ｂ 科学論２ａ 科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１ 学際科目２ 学際科目３ 学際科目４ 学際科目５ 学際科目６ 学際科目７ 学際科目８ 学際科目９ 学際科目10 学際科目11　(4) 学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１ 新領域科目２ 新領域科目３ 新領域科目４ 新領域科目５					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ スポーツ論（健康と生涯スポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ） スポーツ論（スポーツコーチング） スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（トレーニング科学）					
外国語科目	英語	Computer Aided Instruction a　(1) Computer Aided Instruction b　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)					4	・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b Screen English a Screen English b					
	英語以外の外国語	導入 ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)				4	4	・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
				基礎 ドイツ語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ(1) フランス語中級１ｂ(1) フランス語中級２ａ(1) フランス語中級２ｂ(1) 中国語中級１ａ　(1) 中国語中級１ｂ　(1) 中国語中級２ａ　(1) 中国語中級２ｂ　(1) スペイン語中級１ａ(1) スペイン語中級１ｂ(1) スペイン語中級２ａ(1) スペイン語中級２ｂ(1) ロシア語中級１ａ　(1) ロシア語中級１ｂ　(1) ロシア語中級２ａ　(1) ロシア語中級２ｂ　(1) インドネシア語中級１ａ(1) インドネシア語中級１ｂ(1) インドネシア語中級２ａ(1) インドネシア語中級２ｂ(1) コリア語中級１ａ(1) コリア語中級１ｂ(1) コリア語中級２ａ(1) コリア語中級２ｂ(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
					応用 ドイツ語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1) ロシア語上級１ａ　(1) ロシア語上級１ｂ　(1) インドネシア語上級１ａ　(1) インドネシア語上級１ｂ　(1) コリア語上級１ａ　(1) コリア語上級１ｂ　(1)					
			選択ドイツ語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1) 選択スペイン語１ａ　(1) 選択スペイン語１ｂ　(1) 選択コリア語１ａ　(1) 選択コリア語１ｂ　(1) 選択アラビア語１ａ　(1) 選択アラビア語１ｂ　(1) 選択イタリア語１ａ　(1) 選択イタリア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語） 世界の言語と文化（中国語） 世界の言語と文化（スペイン語） 世界の言語と文化（ロシア語） 世界の言語と文化（インドネシア語） 世界の言語と文化（コリア語）						・修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１ 言語文化研究（ヨーロッパ）２ 言語文化研究（アジア）１ 言語文化研究（アジア）２ 言語文化研究（アメリカ）					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語） 海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語） 海外語学中期研修２（外国語） 海外語学中期研修３（外国語） 海外語学中期研修４（外国語） 海外語学中期研修５（外国語） 海外語学中期研修６（外国語） 海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修８（外国語）					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

【外国人留学生】文学部英語英米文学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 歴史の視点　哲学　ジャーナリズムと現代 倫理学				4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入：日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
		導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			応用：ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

文学部英語英米文学科（英語コミュニケーションコース）専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考	
転換・導入科目													6			
教養科目													8			
外国語科目													4 (外国入留学生は8)			
専門科目	Reading 1 Reading 2 Composition 1 Composition 2 Speaking 1 Speaking 2 Integrated Engliish 1 Integrated Engliish 2 Listening 1 Listening 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	英語総合演習 1 英語総合演習 2 Speaking 3 Speaking 4	2 2 1 1	○ ○ ○ ○							40		25科目40単位必修	
	英語英米文学概論 1 英語英米文学概論 2	2 2	○ ○	通訳入門 1 通訳入門 2 翻訳入門 1 翻訳入門 2	2 2 2 2	○ ○ ○ ○	ゼミナール 1 ゼミナール 2	2 2	○ ○	ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	2 2 4	○ ○ ○				
				Advanced Reading 1 Advanced Reading 2 Advanced Composition 1 Advanced Composition 2 Advanced Listening 1 Advanced Listening 2	2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							8	44	4科目8単位選択必修	
				中期留学 1 中期留学 2 中期留学 3 中期留学 4							2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎					
							Advanced Reading 3 Advanced Reading 4 Advanced Composition 3 Advanced Composition 4 Advanced Speaking 1 Advanced Speaking 2 Advanced Listening 3 Advanced Listening 4				2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎					
				国際理解 1 国際理解 2 英語プレゼンテーション 1 英語プレゼンテーション 2 英語圏の歴史・社会・文化 異文化交流							2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	16		8科目16単位選択必修	
				中期留学 5 中期留学 6 中期留学 7 中期留学 8							2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎				
							通訳演習 1 通訳演習 2 翻訳演習 1 翻訳演習 2 翻訳演習 3 翻訳演習 4 Business & English 1 Business & English 2 Media English 1 Media English 2 Japan & the World 1 Japan & the World 2				2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎					
				英文法のしくみ 英語のしくみ 英語の音声 英語の変遷史 英語学の諸問題 1 英語学の諸問題 2 ことばの獲得 1 ことばの獲得 2 ことばと社会・文化 異文化コミュニケーション 英語教育の研究と実践 1 英語教育の研究と実践 2 外国語学習の科学 1 外国語学習の科学 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	20		2科目4単位以上選択必修	10科目20単位選択必修
				英国・英語圏の文学と文化 イギリス文学の世界 米国・英語圏の文学と文化 アメリカ文学の世界 文学作品と英語表現 英米の小説・詩・演劇 英米文学文化特殊講義 1 英米文学文化特殊講義 2 英米文学文化特殊講義 3 英米文学文化特殊講義 4 英米文学文化特殊講義 5 英米文学文化特殊講義 6 英米映画論 1 英米映画論 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎			2科目4単位以上選択必修	
				イギリスの歴史と文化 1 イギリスの歴史と文化 2 アメリカの歴史と文化 1 アメリカの歴史と文化 2 英米研究特殊講義 1 英米研究特殊講義 2 英米研究特殊講義 3 英米研究特殊講義 4 英米ポップカルチャー論 1 英米ポップカルチャー論 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎			2科目4単位以上選択必修	
	特別総合講義										2	△			特別総合講義は，同一名称であっても内容が異なれば4科目8単位まで履修することができます。	
				Special Seminar							2	△				
自由選択修得要件単位となる科目	英語英米文学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，文学部開講の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												22 (外国入留学生は18)		転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。	
年次修得単位の目安	36			40			40			8			124			

文学部英語英米文学科（英語文化コース）専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考	
転換・導入科目													6			
教養科目													8			
外国語科目													4 (外国人留学生は8)			
専門科目	Reading 1 Reading 2 Composition 1 Composition 2 Speaking 1 Speaking 2 Integrated Engliish 1 Integrated Engliish 2 Listening 1 Listening 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	英語総合演習 1 英語総合演習 2 Speaking 3 Speaking 4	2 2 1 1	○ ○ ○ ○							32		21科目32単位必修	
	英語英米文学概論 1 英語英米文学概論 2	2 2	○ ○				ゼミナール 1 ゼミナール 2	2 2	○ ○	ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	2 2 4	○ ○ ○				
				Advanced Reading 1 Advanced Reading 2 Advanced Composition 1 Advanced Composition 2 Advanced Listening 1 Advanced Listening 2	2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							8	40	4科目8単位選択必修	
							Advanced Reading 3 Advanced Reading 4 Advanced Composition 3 Advanced Composition 4 Advanced Speaking 1 Advanced Speaking 2 Advanced Listening 3 Advanced Listening 4 上級英語総合演習 1 上級英語総合演習 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							
				国際理解 1 国際理解 2 英語圏の歴史・社会・文化 異文化交流							2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎	4		2科目4単位選択必修	
							Business & English 1 Business & English 2 Media English 1 Media English 2 Japan & the World 1 Japan & the World 2	2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							
				英文法のしくみ 英語のしくみ 英語の音声 英語の変遷史 英語学の諸問題 1 英語学の諸問題 2 ことばの獲得 1 ことばの獲得 2 ことばと社会・文化 異文化コミュニケーション 英語教育の研究と実践 1 英語教育の研究と実践 2 外国語学習の科学 1 外国語学習の科学 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	28		2科目4単位以上選択必修	14科目28単位選択必修
				英国・英語圏の文学と文化 イギリス文学の世界 米国・英語圏の文学と文化 アメリカ文学の世界 文学作品と英語表現 英米の小説・詩・演劇 英米文学文化特殊講義 1 英米文学文化特殊講義 2 英米文学文化特殊講義 3 英米文学文化特殊講義 4 英米文学文化特殊講義 5 英米文学文化特殊講義 6 英米映画論 1 英米映画論 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎			2科目4単位以上選択必修	
				イギリスの歴史と文化 1 イギリスの歴史と文化 2 アメリカの歴史と文化 1 アメリカの歴史と文化 2 英米研究特殊講義 1 英米研究特殊講義 2 英米研究特殊講義 3 英米研究特殊講義 4 英米ポップカルチャー論 1 英米ポップカルチャー論 2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎			2科目4単位以上選択必修	
	特別総合講義										2	△			特別総合講義は，同一名称であっても内容が異なれば4科目8単位まで履修することができます。	
				通訳入門 1 通訳入門 2 翻訳入門 1 翻訳入門 2	2 2 2 2	△ △ △ △										
				中期留学 1 中期留学 2 中期留学 3 中期留学 4 中期留学 5 中期留学 6 中期留学 7 中期留学 8 Special Seminar							2 2 2 2 2 2 2 2 2	△ △ △ △ △ △ △ △ △				
							翻訳演習 1 翻訳演習 2 翻訳演習 3 翻訳演習 4	2 2 2 2	△ △ △ △							
自由選択修得単位要件となる科目	英語英米文学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，文学部開講の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												34 (外国人留学生は30)		転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。	
年次修得単位の目安	36			40			40			8			124			

哲　学　科

Ⅰ　哲学科の特色

「美術や音楽をなぜ美しい，快いと感じるのか」「うれしい，悲しい，腹立たしい，ねたましいなどの感情はなぜ生まれるのか」「なぜ人を殺してはいけないのか」「死とはなにか」「人はなぜ生きるのか」「科学はなぜ客観的と言われるのか」「なぜ時間は流れるのか」などの問題は，古来，多くのひとびとの頭を悩ませてた。こうした問題について徹底的に考えるのが哲学である。

哲学と一口にいっても，西洋やインド，中国，日本など地域によって相違があり，古代や中世，近世，近代，現代など時期ごとにもさまざまな哲学がある。また，自然や芸術の美しさを問題にする「美学」「芸術学」，善悪や正義を問う「倫理学」など，主題によっても哲学は区別される。「生死」について考えるためには「神話」「宗教」も参考になり，芸術やアートについて考えるためには，具体的にどのような美術や音楽，芸能，舞踊，映画，写真などがあったのか，おさえておかなければならない。

文学部哲学科の特色の第一は，各地の哲学を広く，深く学ぶための講義群，ならびに，芸術やアート，宗教など文化一般について広く学ぶための講義群が多数，用意されていることである。

そのほか，文学部哲学科における授業や指導の特色として次の２点が挙げられる。

第一に，哲学科学生は全員，「ゼミナール」に所属することができ，また，最低１つは所属しなければならない。ひとびとと議論を深め，先生から直接，個人的指導を受ける場である「ゼミナール」は，哲学や倫理学，芸術学を広く，深く学ぶためにもっとも重要な授業である。２年次からはじまり，たいていの場合，ゼミナールの先生がそのまま「卒業論文」指導教員となる【詳細は，Ⅱ－２⑵①「必修科目」の項を参照】。

第二に，哲学科学生は，全員，卒業論文を書かなければ卒業することができない。大学生生活とは，卒業論文作成を目標とする４年間であり，そのために，広くさまざまな講義を聴講し，自分の興味や関心がどこにあるのか，なにを主に深く学ぶのか，できるだけ早いうちに決めなければならない【詳細は，Ⅱ－１「卒業要件」の項を参照】。

なお，卒業するためには，卒業論文作成のほか，卒業に必要な124単位を取得しなければならない。履修しなければならない科目としては，大学全体で開講される「転換・導入科目」，「教養科目」，「外国語科目」【詳細は，Ⅱ－２⑴「転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法」の項を参照】と，文学部哲学科で開講される「専門科目」がある。「専門科目」については，「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」というカテゴリーが区別されている【詳細は，Ⅱ－２⑵「専門科目の履修方法」の項を参照】。それぞれのカテゴリーについて卒業に必要な単位数が決まっているので，注意が必要である。

講義やゼミナール，また自分なりの読書や研究会などによって疑問を深め，新たに広く関心，興味を見出し，考えを深め，卒業論文を執筆するのが大学生活である。そのためには４年間をどのように過ごすか，あらかじめ見通しを立てておく必要がある。各年次で履修しなければならない科目，

履修した方がいい科目など，卒業までの標準的な工程表を以下に記しておく。なお，それぞれの科目が具体的にどのような内容をあつかうかは，年度ごと，担当教員ごとに異なる。科目を選択する前に，かならず，その年度の「講義要項（シラバス）」を読む必要がある。

１年次：哲学科１年生がかならず履修しなければならないのは「哲学の手ほどき」だが，そのほか転換・導入科目および教養科目，外国語科目，また一部の「専門科目」も１年次で履修する。

「哲学の手ほどき」は，哲学科に所属する９名の先生全員がリレー方式でおこなう講義で，名前のとおり，哲学の基本的な考え方を解説する。その他，哲学各分野の全体像を初歩から解説する入門講義である「概論」科目（「哲学概論」「倫理学概論」「論理学概論」「芸術学概論」），各地域時期の重要な哲学，思想を，その流れに沿って詳しく解説する思想史科目（「西洋哲学史」「日本思想史」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」）も，哲学の勉強研究の基礎をはじめに知っておくために，１年次での履修が推奨される。「音楽論」「美術論」「宗教学」「ポップカルチャー論」「映像文化論」「パフォーマンス論」など，文化一般について広く知識を深める講義，「ギリシア語入門」「ラテン語入門」など，哲学の書物を読むために必要な語学のための授業も，１年次で履修することができる。

２年次：「ゼミナール」に所属する。ゼミナールは最低１つ所属しなければならないが，２つまで重複受講も可能である。講義としては，１年次で履修しきれなかった講義のほか，あらたに，「日本の思想（近現代以前）」「近現代の日本の思想」「日本の伝統芸能」「精神分析学」「心の哲学」「社会哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「フェミニズム思想」「論理の哲学」「文化の哲学」「現代思想」「生命の哲学」「言語論」など，特定のテーマについて深く掘り下げる概説科目や，各先生の最先端の研究成果をいち早く知るための「特殊講義」が受講可能になる。「ギリシア語文献講読」「ラテン語文献講読」などの古典語講読も２年次から履修が可能になる。ドイツ語やフランス語などの，哲学の書物を読むために必要となる語学も継続することが望ましい。また，「概論」科目は２年次までしか履修はできない（３年次以降は履修不可。ただし再履修を除く）。

３年次：「ゼミナール」の中心学年になる。講義としては，１年次，２年次で履修しきれなかった講義を修得する必要がある。３年次になると，そろそろ就職活動もしなければならないが，同時に，卒業論文のテーマや手法，材料，文献などを固めにかからなければならない。また，「思想史」科目は３年次までしか履修できない（４年次では履修不可。ただし再履修を除く）。

４年次：「ゼミナール」の先生を指導教員として，「卒業論文」を作成する。そのほか，３年次までにとりきれなかった講義などを取得して，卒業必要単位を満たす必要がある。

なお，一般的な注意として，⑴　同一科目名の講義は，年度によって担当教員が代わっても重複履修はできない。⑵　とくに「特殊講義」は，番号を同じくする場合，年度によって担当教員が代わっても重複履修はできない。⑶　「ゼミナール」は，２年次で「ゼミナール１」，３年次で「ゼミナール２」，４年次で「ゼミナール３」をそれぞれ最低１つ履修しなければならない。履修しなかった場合には「再履修」が必要である【詳細は，Ⅱ－２⑵①「必修科目」の項を参照】。

そのほか「自由選択修得要件単位となる科目」，必修単位の「再履修」については，それぞれ当該箇所を参考にしてほしい。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

以下では，みなさんが大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み，それに沿って履修計画を立ててほしい。

1．卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については，p．36「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，哲学科学生には，以下の表に示した要件を充たすことが要求される。

文学部哲学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	72	
	選択必修科目	20		
	選択科目	28		
自由選択修得要件単位		30		
卒業要件単位		124		

［哲学科］

【外国人留学生】 文学部哲学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	72	
	選択必修科目	20		
	選択科目	28		
自由選択修得要件単位		30		
卒業要件単位		124		

［哲学科・外留］

2．科目の履修方法

履修にあたっては，以下の４点に注意を払う必要がある。

① 転換・導入科目６単位，教養科目８単位，外国語科目８単位，専門科目72単位以上，自由選択修得要件単位30単位以上，合計124単位以上を修得しなければならない。

② 各年次に修得する単位の目安（１年次38単位，２年次38単位，３年次36単位，４年次12単位）があるので，この条件も充たすように毎年の履修計画を立てる必要がある。

③ 配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならない。

また，指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は，それが「選択必修科目」である場合には，なるべく低年次で履修するようにしてほしい。

④ 同一名称の科目は，原則として１つしか履修できない。同一名称の科目が複数あることは珍しくないが，一度に同一名称の科目を２つ以上履修することはできないし，一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

⑴　転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目は pp. 49 ～ 55 に，教養科目は pp.56 ～ 63 に，外国語科目については pp.64 ～ 75 に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1）転換・導入科目

①　専修大学入門科目，専門入門ゼミナール，保健体育基礎科目

専修大学入門科目，専門入門ゼミナールは，1 年次にそれぞれ半期 2 単位，保健体育基礎科目は，それぞれ半期 1 単位，合計 6 単位を必ず修得しなければならない。

②　上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2）教養科目

①　人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から 8 単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 1，2 年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 3，4 年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は 2 年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は 1 年次から 4 年次まで開講されている。

②　8 単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

①　英語

1 年次で英語 4 科目を履修し，前期 2 単位・後期 2 単位の計 4 単位を必ず修得しなければならない。A 群の Basics of English（RL）1a（前期），1b（後期）または Intermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の 2 科目と，B 群の Basics of English（SW）1a（前期），1b（後期）または Intermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の 2 科目を履修する。

②　英語以外の外国語

1 年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コ

リア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

③　上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵　専門科目の履修方法

専門科目の中には，必ず修得しなければならない必修科目（pp.155～160「文学部専門科目一覧」で○印のついた科目），開講された科目中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の３通りがある。なお，科目の中には，年間を通して授業を行う通年科目と，半年で完了する半期科目とがある。また，毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがあるます。履修計画を立てる上で，注意する必要がある。

①　必修科目

「哲学の手ほどき」　１年次の必修科目である。「ゼミナール」を担当する９人の教員がリレー式に入門的な授業を行う。

「ゼミナール１～３」　本学科での勉学の中心となる，少人数での討論形式の授業である。「ゼミナール１」は２年生，「ゼミナール２」は３年生，「ゼミナール３」は４年生でそれぞれ必修となる。また，「ゼミナール」は各年次において２つまで履修できる。したがって，継続して２つのゼミを履修し続けることもできる。しかし，ゼミナールは必ず予習を求められるなど相応の負担があるので，３つ以上履修することはできない。もし，２年次においてゼミナール１を修得できなかった場合は，３年次において「ゼミナール１」と「ゼミナール２」を，３年次にゼミナール２を修得できなかった場合は４年次において「ゼミナール２」と「ゼミナール３」を同時に履修することになる。しかし，３年次までにゼミナールを１つも修得できなかった場合，４年次に「ゼミナール１」「ゼミナール２」「ゼミナール３」の３つを同時に履修することはできない。ゼミは１年に２つまでしか履修できないからである。（４年次に「ゼミナール１」と「ゼミナール２」を履修し，５年次に「ゼミナール３」を履修することになる）。

「卒業論文」　大学での学修の集大成（書かねば卒業できない）で，４年次の必修科目である。テーマは，人間のあり方に関することなら，なんでもかまわない。通常４年次のゼミの先生が，論文の指導教員を兼ねる（しかし，その先生の専門と大きく異なるテーマの場合には，実質的な指導は別の先生にお願いすることもできる）。

先生によって違いはあるが，３年の後期または期末に，ゼミの場（もしくはゼミ合宿）で卒論のテーマと構想について発表を行ない，それから先生の助言を受けながら文献を読み，自分の考えをまとめていく。

また，卒業論文は，上に述べたとおり，ゼミナールを中心とする本学科での勉学の集大成となるものなので，「ゼミナール３」と同時（または「ゼミナール３」を修得した以降）でなければ

履修登録することはできない。

②　選択必修科目

哲学科の選択必修科目には次の２種類がある。

概論　その学問のもっとも包括的な入門科目で，「哲学概論１」「哲学概論２」「倫理学概論１」「倫理学概論２」「論理学概論１」「論理学概論２」「芸術学概論１」「芸術学概論２」の中から４科目８単位以上修得しなければならない。配当年次は１～２年である。

思想史　それぞれの哲学・思想の流れを学ぶ科目で，「西洋哲学史（古代）」「西洋哲学史（中世）」「西洋哲学史（近代）１」「西洋哲学史（近代）２」「西洋哲学史（現代）１」「西洋哲学史（現代）２」「日本思想史１」「日本思想史２」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」の中から，６科目12単位以上修得しなければならない。配当年次は１～３年である。

③　選択科目

哲学科の選択科目として，以下の科目群がある。

概説　哲学・思想の特定の分野に関する講義である。具体的な事象をあつかう概説は１年次から履修できるが，やや理論的な科目は２年次以降になって履修する。哲学系の概説科目として「日本の思想」「心の哲学」「社会の哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「文化の哲学」「フェミニズム思想」「生命の哲学」等，狭義の哲学をこえて広く思想・文化・芸術を扱う概説科目として「精神分析学」「言語論」「宗教学」「音楽論」「美術論」「映像文化論」「パフォーマンス論」等がある。これらの科目が充実していることも本学科の特色なので，多彩な科目のなかから自分独自のカリキュラムを計画的に組み，やがて卒業論文へと結実される栄養を吸収し，自身の考えを構築していってほしい。これらのうち，名前だけからは内容がわかかりにくい科目についてだけ簡単に説明する。

【日本の伝統芸能】　古典芸能の特徴と，それが担っている民俗・宗教的意味およびその表現方法について，その特徴や思想的な意味について考えていく。

【社会の哲学】　現代社会の諸問題について，例えば，生命科学技術を使って人体に介入しその能力を高めるエンハンスメントの是非などについて，哲学的に考察する。

【科学哲学】　科学とは何か，本物の科学と疑似科学の違いは何か，科学的な知識と他の知識とはどのように異なるのか，などについて哲学的な観点から考える。

【美術論】　出来事や思想・宗教的背景に留意しながら，美術について，例えば「抽象絵画」などの「わかりにくい」絵画の誕生と需要について考察する。

【現代思想】　「自由で平等な個人」から「群れ」社会へという変容を解明し，混迷する人類文明の行く末と，これからの生き方について講義する。

【ポップカルチャー論】　アニメ・マンガ・ゲームなどなど，高尚な意味での「文化」とみなされていない文化現象を扱う。

【映像文化論】　映画・演劇のみならず，ＣＧやＴＶゲームあるいは写真なども含めた映像文化全般について考える。

【パフォーマンス論】　ダンス，バレエ，舞踏，ストリート・パフォーマンスなどを，多角的に分析し，身体アートについて考える。

古典語　「ギリシア語入門１」「ギリシア語入門２」および「ラテン語入門１」「ラテン語入門２」という入門科目を学修したあとは，「ギリシア語文献講読１～６」，「ラテン語文献講読１～６」という，古典哲学の文献を講読する授業を，最大３年間継続して履修することができる。

なお，哲学科では，文学部の他学科の専門科目も自由選択修得要件単位となる科目として学生に受講を認めている。それらの科目についても，可能な範囲で履修し，幅広い学修を通して，総合的な視野を持つようにしてほしい。

⑶　自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは，みなさんが上記の卒業要件単位を修得した上で，さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の７つとなる。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
d．選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した哲学科開講の専門科目の単位。
e．哲学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
f．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし８単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
g．哲学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし30単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目は，科目区分にとらわれずに，みなさんが自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的なカリキュラムを組んでほしい。ただし，卒業までに，哲学科の学生は自由選択修得要件単位数が30単位に達していなければならない。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

哲学科のみなさんに課されている必修科目は，何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない。なお，一度単位を修得した科目の再履修はできない。

②　選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

文学部哲学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史の視点　芸術学入門 日本の文学　歴史と地域・民衆　異文化理解の人類学 世界の文学　歴史と社会・文化　ジャーナリズムと現代 文学と現代世界　基礎心理学入門 英語圏文学への招待　応用心理学入門				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	英語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1) English Speaking b　(1) Computer Aided Instruction a　(1) Computer Aided Instruction b　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b Screen English a Screen English b					
	英語以外の外国語	導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)				4		・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
				応用：ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語） 世界の言語と文化（中国語） 世界の言語と文化（スペイン語） 世界の言語と文化（ロシア語） 世界の言語と文化（インドネシア語） 世界の言語と文化（コリア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

哲学科

【外国人留学生】文学部哲学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史の視点　芸術学入門 日本の文学　歴史と地域・民衆　異文化理解の人類学 世界の文学　歴史と社会・文化　ジャーナリズムと現代 文学と現代世界　基礎心理学入門 英語圏文学への招待　応用心理学入門				4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１ 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１a　生物科学３a　化学１a　物理学２a　数理科学３a 生物科学１b　生物科学３b　化学１b　物理学２b　数理科学３b 生物科学２a　宇宙地球科学１a　化学２a　数理科学１a　科学論１a 生物科学２b　宇宙地球科学１b　化学２b　数理科学１b　科学論１b 宇宙地球科学２a　物理学１a　数理科学２a　科学論２a 宇宙地球科学２b　物理学１b　数理科学２b　科学論２b						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入 日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a (1)　Computer Aided Instruction a (1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) English Speaking b (1)　Computer Aided Instruction b (1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
		導入 ドイツ語初級１a (1) ドイツ語初級１b (1) ドイツ語初級２a (1) ドイツ語初級２b (1) フランス語初級１a (1) フランス語初級１b (1) フランス語初級２a (1) フランス語初級２b (1) 中国語初級１a (1) 中国語初級１b (1) 中国語初級２a (1) 中国語初級２b (1) スペイン語初級１a (1) スペイン語初級１b (1) スペイン語初級２a (1) スペイン語初級２b (1) ロシア語初級１a (1) ロシア語初級１b (1) ロシア語初級２a (1) ロシア語初級２b (1) インドネシア語初級１a (1) インドネシア語初級１b (1) インドネシア語初級２a (1) インドネシア語初級２b (1) コリア語初級１a (1) コリア語初級１b (1) コリア語初級２a (1) コリア語初級２b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１a・bと初級２a・bの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎 ドイツ語中級１a (1)　中国語中級１a (1)　ロシア語中級１a (1)　コリア語中級１a (1) ドイツ語中級１b (1)　中国語中級１b (1)　ロシア語中級１b (1)　コリア語中級１b (1) ドイツ語中級２a (1)　中国語中級２a (1)　ロシア語中級２a (1)　コリア語中級２a (1) ドイツ語中級２b (1)　中国語中級２b (1)　ロシア語中級２b (1)　コリア語中級２b (1) フランス語中級１a (1)　スペイン語中級１a (1)　インドネシア語中級１a (1) フランス語中級１b (1)　スペイン語中級１b (1)　インドネシア語中級１b (1) フランス語中級２a (1)　スペイン語中級２a (1)　インドネシア語中級２a (1) フランス語中級２b (1)　スペイン語中級２b (1)　インドネシア語中級２b (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用 ドイツ語上級１a (1)　ロシア語上級１a (1) ドイツ語上級１b (1)　ロシア語上級１b (1) フランス語上級１a (1)　インドネシア語上級１a (1) フランス語上級１b (1)　インドネシア語上級１b (1) 中国語上級１a (1)　コリア語上級１a (1) 中国語上級１b (1)　コリア語上級１b (1) スペイン語上級１a (1) スペイン語上級１b (1)				・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１a (1)　選択スペイン語１a (1)　選択イタリア語１a (1) 選択ドイツ語１b (1)　選択スペイン語１b (1)　選択イタリア語１b (1) 選択フランス語１a (1)　選択コリア語１a (1) 選択フランス語１b (1)　選択コリア語１b (1) 選択中国語１a (1)　選択アラビア語１a (1) 選択中国語１b (1)　選択アラビア語１b (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１a・bを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１a・bを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１a・bをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

文学部哲学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考
転換・導入科目													6		
教養科目													8		
外国語科目													8		
専門科目	哲学の手ほどき	4	○	ゼミナール1	4	○	ゼミナール2	4	○	ゼミナール3 卒業論文	4 8	○ ○	24		5科目24単位必修
	哲学概論1 哲学概論2 倫理学概論1 倫理学概論2 論理学概論1 論理学概論2 芸術学概論1 芸術学概論2				2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							8	20	4科目8単位選択必修
	西洋哲学史（古代） 西洋哲学史（中世） 西洋哲学史（近代）1 西洋哲学史（近代）2 西洋哲学史（現代）1 西洋哲学史（現代）2 日本思想史1 日本思想史2 中国思想史 インド思想史 イスラム思想史							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎				12		6科目12単位選択必修
	音楽論 美術論1 美術論2 宗教学1 宗教学2 映像文化論 ポップカルチャー論 パフォーマンス論 ギリシア語入門1 ギリシア語入門2 ラテン語入門1 ラテン語入門2										2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △	28		28単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。
				ギリシア語文献講読1 ギリシア語文献講読2 ラテン語文献講読1 ラテン語文献講読2	2 2 2 2	△ △ △ △	ギリシア語文献講読3 ギリシア語文献講読4 ラテン語文献講読3 ラテン語文献講読4	2 2 2 2	△ △ △ △	ギリシア語文献講読5 ギリシア語文献講読6 ラテン語文献講読5 ラテン語文献講読6	2 2 2 2	△ △ △ △			
				日本の思想（近現代以前） 近現代の日本の思想 心の哲学 科学哲学 倫理の哲学 社会の哲学 論理の哲学 ことばの哲学 文化の哲学1 文化の哲学2 言語論 フェミニズム思想 日本の伝統芸能 現代思想 生命の哲学 精神分析学 アジア思想特殊講義1 アジア思想特殊講義2 アジア思想特殊講義3 哲学特殊講義1 哲学特殊講義2 哲学特殊講義3 哲学特殊講義4 哲学特殊講義5							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	△ △			
	社会学原論1 社会学原論2				2 2	△ △									
				憲法1 憲法2				2 2	△ △						
				現代社会論1 現代社会論2 現代文化論1 現代文化論2 家族の社会学1 家族の社会学2							2 2 2 2 2 2	△ △ △ △ △ △			
自由選択修得要件単位となる科目	哲学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，文学部開講の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												30		転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得単位の目安	38			38			36			12			124		

哲学科

歴　史　学　科

Ⅰ　歴史学科の特色

国際化・情報化の進む現代にあって，大学教育にはこれまで以上に高度で専門的な，また学際的知識を持った人材の養成が求められている。それには基礎となるべき確かな専門性に裏付けられた論理的思考方法が必要である。専修大学文学部歴史学科のカリキュラムは，こうした観点から深い専門性と同時に，幅広い分野が学べるよう「専門」相互の関連性に留意した編成をこころがけて作成されている。

歴史学科は，日本史・アジア史・欧米史および考古学の諸専門を自由に選択して学ぶことができる。各々の研究を深めるために，それに関連した専門的知識を提供する講義や，実践的演習科目（「ゼミナール」）を配置している。単なる知識の獲得に終わらず，現代社会の様々な問題に自らが考えて対処できる能力獲得のためにも，思考法の修得とトレーニングが必要である。そのために，文献史料・考古資料の解読やそれらの使用法を学ぶ「古文書学実習」や「考古学実習」，そして様々な言語の文献講読・分析を主とした「歴史資料研究法」が開講されている。

しかし，専門の名のもとにいわゆる蛸壷的研究におちいる弊害を避けるため，各専門を超えた相互比較研究が必要である。各専門に縛られない相互比較研究のための科目として設置されているのは，「総合世界史」である。これはまず①特定のテーマを設定し，それに対して複数の教員がそれぞれの立場からの分析に基づいた講義を行うものや，②文献史学の立場であっても，絵図や考古資料を多く使用してビジュアルな講義を行うことに留意した科目（もちろんその逆＝考古学側からのアプローチもある），③時代や地域を限定せず，特定の現象について（例えば「平和と戦争」など），通時的・汎世界的なアプローチをオムニバス方式で実施するものである。これらによって，各専門における深い知識の学修を前提としながら，それに縛られない柔軟な思考法の修得をも目指す。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

以下では，みなさんが大学を卒業するために必要な諸要件と，科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み，それに沿って履修計画を立ててほしい。

1．卒業要件

大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件については，p.36「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），歴史学科の学生には，単位に関して，以下の表に示した要件を充たすことが要求される。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し，要求されるものが何であるかを確認してほしい。

文学部歴史学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	20	74	
	選択必修科目	12		
	選択科目	42		
自由選択修得要件単位		28		
卒業要件単位		124		

［歴史学科］

【外国人留学生】 文学部歴史学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	20	74	
	選択必修科目	12		
	選択科目	42		
自由選択修得要件単位		28		
卒業要件単位		124		

［歴史学科・外留］

2．科目の履修方法

履修にあたっては，以下の３点に注意する必要がある。

① 卒業までに，「転換・導入科目」を６単位，「教養科目」を８単位以上，「外国語科目」を８単位，「専門科目」74 単位以上，「自由選択修得要件単位」28 単位以上，合計 124 単位を修得しなければならない。これに関し，各年次において修得する単位の目安（１年次 38 単位，２年次 38 単位，３年次 36 単位，４年次 12 単位）があるので，この条件も充たすように毎年の履修計画を立てることが望ましい。

② 配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならない。

また，指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は，それが「選択必修科目」である場合には，なるべく低年次で履修しておくことが望ましい。

③ 転換・導入科目の，専修大学入門ゼミナール２単位と専門入門ゼミナール２単位は，必修科目であり，かつ大学生としての学修方法の基礎を学ぶと同時に，専門科目への橋渡しともなる重要な課目であるので，１年次で必ず修得しなければならない。

⑴　転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目は pp. 49 ～ 55 に，教養科目は pp. 56 ～ 63 に，外国語科目については pp. 64 ～ 75 に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1）転換・導入科目

①　専修大学入門科目，専門入門ゼミナール，保健体育基礎科目

専修大学入門科目，専門入門ゼミナールは，1 年次にそれぞれ半期 2 単位，保健体育基礎科目は，それぞれ半期 1 単位，合計 6 単位を必ず修得しなければならない。

②　上記以外の転換・導入科目

上記以外の転換・導入科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

2）教養科目

①　人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から 8 単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので，履修する際には注意しなければならない。

人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 1，2 年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は 3，4 年次で再履修することはできない。また，融合領域科目は 2 年次以降にしか開講されていない。自然科学系科目は 1 年次から 4 年次まで開講されている。

②　8 単位を超えて修得した教養科目の単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3）外国語科目

①　英語

1 年次で英語 4 科目を履修し，前期 2 単位・後期 2 単位の計 4 単位を必ず修得しなければならない。A 群の Basics of English（RL）1a（前期），1b（後期）または Intermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の 2 科目と，B 群の Basics of English（SW）1a（前期），1b（後期）または Intermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の 2 科目を履修する。

②　英語以外の外国語

1 年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コ

リア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

③　上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

⑵　専門科目の履修方法

卒業までに「専門科目」から74単位以上を修得しなければならない。専門科目については，p.127の「文学部歴史学科専門科目一覧」に記載されているので，それを参照しつつ，説明を読んでもらいたい。

専門科目は，「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の３通りの科目群からなっている。「必修科目」（「歴史学科専門科目一覧」で○印のついた科目）は必ず単位を修得しなければならない科目，「選択必修科目」（◎印のついた科目）は開講された科目中から指定された数だけ必ず単位を修得しなければならない科目，「選択科目」（△印のついた科目）は多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる科目である。歴史学科では，みなさんが幅広く科目の選択ができるように，必修科目および選択必修科目の数を少なくしてある。

なお，科目の中には，半年で完了する半期科目（２単位科目）のほかに，年間を通して授業を行う通年科目（４単位科目）があるので，履修計画を立てる上で注意して欲しい。

①　必修科目

必修科目として，以下の科目を履修し，20単位を修得しなければならない。

「ゼミナール１」・「ゼミナール２」・「ゼミナール３」は，２年次以上の学生を対象にした少人数形式の授業で，それぞれ通年４単位。歴史学科の教員がそれぞれの専門領域（考古学・日本史・アジア史・欧米史）に即したテーマを取り上げる，専門性の高い授業である。「ゼミナール１」は２年次，「ゼミナール２」は３年次，「ゼミナール３」は４年次で履修する（ゼミナール１・２は，合併して行われる）。

２年次においては，各自が選択したゼミナールの対象地域・時代についての基礎的知識・研究能力を，史資料や論文の解読を通じて修得する。３年次においては，各ゼミナールのテーマを推進させる主力としての活動が期待される。同時に３年次は，基礎的な研究能力を発展させ，自らの研究課題を発見し，課題解明のために必要な「もの」（史資料・関連論文）を探す一年でもある。４年次は，各ゼミナールのテーマの推進の主力としての役割を果たしつつ，自ら設定した研究課題を卒業論文としてまとめあげる一年となる。

「卒業論文」（８単位）は，大学で学んだ４年間の集大成ともいえるもので，４年次において，自らの立てた研究課題について，史資料・関連論文を収集し，その批判的検討を経て，「論文」として完成させる。

なお，履修できるゼミナールは，一つの学年において一つのみである（再履修の場合のみ特例あり。「⑷再履修について」を参照）。また２年次の「ゼミナール１」から４年次の「ゼミナール

３」まで，同じ教員のゼミナールを履修し，その教員が「卒業論文」の指導教員になる。したがって，ゼミナールの選択にあたっては十分な考慮が必要となる。

また「卒業論文」は，ゼミナールを通じて修得された研究能力をもとに作成されるものである。これにより，「卒業論文」を提出する時点で，ゼミナールの単位についてはすべて修得済みか修得見込みであることが求められる。このため「卒業論文」の履修登録は，「ゼミナール３」の履修登録と同時（または「ゼミナール３」の単位修得後）でなければならないものとする。

②　選択必修科目

選択必修科目としては，概説と歴史資料研究法の２つの科目グループから，それぞれ８単位と４単位，あわせて12単位を修得しなければならない。

「日本史概説１・２」・「アジア史概説１・２」・「欧米史概説１・２」は，１・２年次を対象とした講義形式の授業で，各領域の基本的な問題を学び考えていく授業である。これらの授業の中から，少なくとも４科目（８単位）を選択し，履修しなければならない。

「歴史資料研究法１～20」は，２年次を対象とした少人数の実習形式の授業である。これらの授業は，歴史研究のもととなる史資料を収集するための技術や，資料を読みこなす力など，歴史研究に必要な基本的能力を身につけることを目的としている。考古学を学ぶための発掘調査報告書の解読，日本史を学ぶための日本漢文・古文書の解読，アジア史・欧米史を学ぶためのコリア語・中国語・ヒンディー語・英語・フランス語・ドイツ語などの一次文献の解読など，史資料の多様性にあわせて，20科目が開講されている。これらの授業の中から，少なくとも２科目（４単位）を選択し，履修しなければならない。

③　選択科目

上記の必修科目，選択必修科目のほかに，選択科目として，42単位を修得しなければならない（なお，12単位をこえて選択必修科目の単位を修得した場合，12単位をこえた分は，選択科目に算入される）。

「日本文化史１・２」・「アジア文化史１・２」・「欧米文化史１・２」は，それぞれの地域が生んだ文化の特色について，テーマを絞って講義するものである。

p.127の「文学部歴史学専門科目一覧」に記載された科目のうち，**「古墳からみた国家形成１・２」**から**「日本の宗教と社会」**までの授業は，歴史学科の教員が，それぞれの専門とする分野について講義する授業である。考古学の分野や，インド・中国・朝鮮・日本・アメリカ・ドイツ・フランスなどの地域の歴史など，さまざまな分野の最先端の研究の現状とその課題を講義する。

「世界史講義１～８」，「イスラーム史１・２」，「ジェンダー史１・２」は，地域や時代を超えた，また最新の歴史学のテーマについて講義するものである。

上記の科目は，いずれも２・３・４年次を対象とした講義形式の授業である。

「総合世界史１～４」は，１・２年次を対象とした授業である。複数の教員が共通の題材（テーマ）に沿って，時代や地域，学問の固有の性格をこえて，広く研究を紹介し，世界史的視野から歴史研究の多様性・共通性を考えさせることを目的としている。特に総合世界史１・２は，専任教員全員がオムニバス形式で講義を担当し，各自が専門とする分野の最先端の研究状況と歴史

研究のための資料について解説するので，選択科目であるが，１年次での修得が強く望まれる。

「古文書学概論１・２」・**「考古学概論１・２」**は，１・２年次を対象とした講義形式の授業で，それぞれの学問の基本を学ぶ。

「考古学実習１」は，２・３年次，**「古文書学実習」「考古学実習２」**は，３・４年次を対象とした実習形式の授業（通年４単位）で，古文書の取り扱い方法・解読や考古学的調査に必要な基本的技術を学ぶ。「考古学実習１・２」の場合は，実際の発掘調査に参加して，考古学を学ぶことになる。「古文書学実習」を履修するためには，２年次において選択必修科目の「歴史資料研究法」のうち，対応する科目（日本漢文・古文書）の単位を修得しておくことが望ましい。また，「考古学実習２」を履修するためには，「考古学実習１」の単位を修得しておくことが望ましい。

なお，歴史学科では文学部の他学科開講の多数の専門科目を，自由選択修得要件単位となる科目として受講を認めている。それらの科目についても，可能な範囲で出来るだけ多く履修し，幅広い学修を通して，総合的な視野を持つようにして欲しい（pp.155～160「文学部専門科目一覧」参照）。

⑶　自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

卒業までに自由選択修得要件単位となる科目から28単位以上を修得しなければならない。自由選択単位となる科目とは，「転換・導入科目」中の科目から6単位，「教養科目」8単位，「外国語科目」8単位および歴史学科の専門科目修得要件単位（74単位）を修得した上で，さらに履修する科目の総称である。この自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の７つである。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
d．選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した歴史学科開講の専門科目の単位。
e．歴史学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
f．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
g．歴史学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし28単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目は，科目区分にとらわれずに，自由に履修する科目である。みなさんには，それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。ただし，卒業までに，自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければならないことを忘れないで欲しい。

⑷　再履修について

①　必修科目の再履修

何らかの理由で，必修科目の単位を修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない。

② ゼミナールの再履修

「ゼミナール」の再履修についても，前項「①必修科目の再履修」と同様の原則が適用される。ただし，例外的に以下の方法での再履修も認められる場合がある。

２年次において「ゼミナール１」の単位を修得できなかった場合，歴史学科の教員の会議での調整のうえ，３年次に，指導教員の「ゼミナール１」の再履修に並行して近接分野を担当する教員の「ゼミナール２」を履修することを認める。

３年次末までに，「ゼミナール１」または「ゼミナール２」のいずれかの単位が修得できなかった場合，歴史学科の教員の会議で調整のうえ，４年次で再履修を認める。この場合，「ゼミナール３」の履修および卒業論文の提出も４年次で認めることとする。

３年次末までに，「ゼミナール１」と「ゼミナール２」の両方の単位を取得できなかった場合は，歴史学科の教員の会議で調整のうえ，４年次において，それぞれの再履修を認める。ただし，「ゼミナール１」については指導教員のゼミナールを，「ゼミナール２」については近接分野を担当する教員のゼミナールを履修する。この場合，「ゼミナール３」の履修および卒業論文の提出は次の年度とする。

なお，３年次で協定校に留学した場合には，４年次での「ゼミナール２」「ゼミナール３」の履修および卒業論文の提出を認める。

上記の例外的方法でのゼミナール再履修を希望する場合は，前年度の２月末までに指導教員に申し出，その了承を得る必要がある。

③ 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

文学部歴史学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 倫理学				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３a　化学１a　物理学２a　数理科学３a 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３b　化学１b　物理学２b　数理科学３b 生物科学１a　宇宙地球科学１a　化学２a　数理科学１a　科学論１a 生物科学１b　宇宙地球科学１b　化学２b　数理科学１b　科学論１b 生物科学２a　宇宙地球科学２a　物理学１a　数理科学２a　科学論２a 生物科学２b　宇宙地球科学２b　物理学１b　数理科学２b　科学論２b						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	英語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
	英語以外の外国語	導入 ドイツ語初級１a　(1) ドイツ語初級１b　(1) ドイツ語初級２a　(1) ドイツ語初級２b　(1) フランス語初級１a　(1) フランス語初級１b　(1) フランス語初級２a　(1) フランス語初級２b　(1) 中国語初級１a　(1) 中国語初級１b　(1) 中国語初級２a　(1) 中国語初級２b　(1) スペイン語初級１a　(1) スペイン語初級１b　(1) スペイン語初級２a　(1) スペイン語初級２b　(1) ロシア語初級１a　(1) ロシア語初級１b　(1) ロシア語初級２a　(1) ロシア語初級２b　(1) インドネシア語初級１a　(1) インドネシア語初級１b　(1) インドネシア語初級２a　(1) インドネシア語初級２b　(1) コリア語初級１a　(1) コリア語初級１b　(1) コリア語初級２a　(1) コリア語初級２b　(1)				4	8	・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎 ドイツ語中級１a　(1)　中国語中級１a　(1)　ロシア語中級１a　(1)　コリア語中級１a　(1) ドイツ語中級１b　(1)　中国語中級１b　(1)　ロシア語中級１b　(1)　コリア語中級１b　(1) ドイツ語中級２a　(1)　中国語中級２a　(1)　ロシア語中級２a　(1)　コリア語中級２a　(1) ドイツ語中級２b　(1)　中国語中級２b　(1)　ロシア語中級２b　(1)　コリア語中級２b　(1) フランス語中級１a　(1)　スペイン語中級１a　(1)　インドネシア語中級１a　(1) フランス語中級１b　(1)　スペイン語中級１b　(1)　インドネシア語中級１b　(1) フランス語中級２a　(1)　スペイン語中級２a　(1)　インドネシア語中級２a　(1) フランス語中級２b　(1)　スペイン語中級２b　(1)　インドネシア語中級２b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
				応用 ドイツ語上級１a　(1)　ロシア語上級１a　(1) ドイツ語上級１b　(1)　ロシア語上級１b　(1) フランス語上級１a　(1)　インドネシア語上級１a　(1) フランス語上級１b　(1)　インドネシア語上級１b　(1) 中国語上級１a　(1)　コリア語上級１a　(1) 中国語上級１b　(1)　コリア語上級１b　(1) スペイン語上級１a　(1) スペイン語上級１b　(1)					
			選択ドイツ語１a　(1)　選択スペイン語１a　(1)　選択イタリア語１a　(1) 選択ドイツ語１b　(1)　選択スペイン語１b　(1)　選択イタリア語１b　(1) 選択フランス語１a　(1)　選択コリア語１a　(1) 選択フランス語１b　(1)　選択コリア語１b　(1) 選択中国語１a　(1)　選択アラビア語１a　(1) 選択中国語１b　(1)　選択アラビア語１b　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１a・bを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１a・bと初級２a・bをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１a・bを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１a・bをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

歴史学科

【外国人留学生】文学部歴史学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 倫理学				4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入 日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
		導入 ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) ココリア語初級１ａ　(1) ココリア語初級１ｂ　(1) ココリア語初級２ａ　(1) ココリア語初級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎 ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ (1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ (1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ (1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ (1) フランス語中級１ａ (1)　スペイン語中級１ａ (1)　インドネシア語中級１ａ (1) フランス語中級１ｂ (1)　スペイン語中級１ｂ (1)　インドネシア語中級１ｂ (1) フランス語中級２ａ (1)　スペイン語中級２ａ (1)　インドネシア語中級２ａ (1) フランス語中級２ｂ (1)　スペイン語中級２ｂ (1)　インドネシア語中級２ｂ (1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
				応用 ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)				
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

文学部歴史学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考
転換・導入科目													6		
教養科目													8		
外国語科目													8		
専門科目				ゼミナール1	4	○	ゼミナール2	4	○	ゼミナール3 卒業論文	4 8	○ ○	20		4科目20単位必修
	日本史概説1 日本史概説2 アジア史概説1 アジア史概説2 欧米史概説1 欧米史概説2				2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎							8	12	4科目8単位選択必修
				歴史資料研究法1 歴史資料研究法2 歴史資料研究法3 歴史資料研究法4 歴史資料研究法5 歴史資料研究法6 歴史資料研究法7 歴史資料研究法8 歴史資料研究法9 歴史資料研究法10 歴史資料研究法11 歴史資料研究法12 歴史資料研究法13 歴史資料研究法14 歴史資料研究法15 歴史資料研究法16 歴史資料研究法17 歴史資料研究法18 歴史資料研究法19 歴史資料研究法20	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎						4		2科目4単位選択必修
	古文書学概論1 古文書学概論2 考古学概論1 考古学概論2 総合世界史1 総合世界史2 総合世界史3 総合世界史4				2 2 2 2 2 2 2 2	△ △ △ △ △ △ △ △							42		42単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。
				日本文化史1 日本文化史2 アジア文化史1 アジア文化史2 欧米文化史1 欧米文化史2 古墳からみた国家形成1 古墳からみた国家形成2 日本古代の国家と社会1 日本古代の国家と社会2 日本古代の国家と宗教1 日本古代の国家と宗教2 日本の宗教と社会 日本中世の法と政治1 日本中世の法と政治2 日本近世の政治と社会1 日本近世の政治と社会2 生きることの日本近代史1 生きることの日本近代史2 日本近代の政治と社会1 日本近代の政治と社会2 東アジア考古学1 東アジア考古学2 中国古代の国家と家族1 中国古代の国家と家族2 東アジア関係論1 東アジア関係論2 南アジア関係論1 南アジア関係論2 ヨーロッパの国家と民衆1 ヨーロッパの国家と民衆2 近代ヨーロッパの社会と政治1 近代ヨーロッパの社会と政治2 アメリカの人種と政治1 アメリカの人種と政治2 世界史講義1 世界史講義2 世界史講義3 世界史講義4 世界史講義5 世界史講義6 世界史講義7 世界史講義8 イスラーム史1 イスラーム史2 ジェンダー史1 ジェンダー史2							2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

環境地理学科

Ⅰ　学科の目的・課題・方法

近代以降，地理学は，地圏と大気圏・水圏の自然環境および自然と人間との関係の法則性の追求，世界各地の地域・景観がもつ地域的差異の分析と諸要因が形成する地域の理解，地表で展開する諸現象・諸活動の空間法則の分析の３大関心領域をゆるやかに統合した研究分野として成立し，今日に至っている。

その土台のもと，環境地理学科は，フィールドワークおよび空間情報分析の双方に重点を置いた地理学の体系的な学修を通じて，地域や環境をめぐる現代の諸課題を的確に理解してその解決法を探求するための分析力・思考力を養い，地域・環境分析に携わる専門職業人，環境地理学の研究者・教員，環境地理学の修得内容を広く社会に還元できる人材の育成を目的とする。

我々の生存を脅かす環境問題，地域間相互作用の加速化を前にして，環境現象のメカニズム・構造の追究，資源や社会集団の存在形態の解明，地域知の体系的・操作的な理解，地域・地球情報の空間分析と地図化による発信などを主たる研究課題とする。換言すれば，有限地球が有する“one earth with many worlds”としての特性を正しく理解して発信することによって，地域・地球の持続可能性に貢献する。

上記のことから明らかなように，環境地理学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる複合的分野である。そのすべてに精通することが望ましいが，包括的な方法論と分析手法の修得は大変高いハードルの到達目標である。しかし，その目標を放棄することなく学科全体で協力し，上記の目的と課題に対して意味のある貢献ができる能力を学生に身につけさせることが学科としての責務である。そのため，次の教育方法を採用している。

・広範な学問領域の根幹をできる限りカバーできるように，１学年定員55名の学生に対して９名の専任教員を配置している。

・専任教員の専門分野について，講義科目と実験実習科目を対にして設けている。まず９名全員が分担する科目で各教員の専門分野が占める位相を明らかにし，ついで各専任教員の講義科目で各分野の基本知識と具体的研究課題を明示し，同じく実験実習科目でその領域の研究に要する基本的分析方法を習得させる。

・地理学に共通の分析ツールである，地図・景観分析，測量・地理（空間）情報処理について，１年次から３年次まで時間をかけて教授し，かつこれらを修得・活用することによって，卒業時に手続きをすれば，資格を取得できるようにしている。具体的には国家資格（国土交通省所管）である「測量士補」，公益社団法人日本地理学会の認定資格である「GIS学術士」や「地域調査士」がある。

・現地調査を実践して，生きた地域や現実の環境現象などを対象にして，観測・観察などのフィールドワーク，定量的・定性的分析，変化や構造の把握方法を学修する。関係機関への調査協力依頼，調査報告のとりまとめ，プレゼンテーションなどを通じて文章作成とコミュニケーションの能力も涵養する。これらを２年次（必修），３・４年次（選択必修），４年次（卒業論文：

必修）と，対象地域を変えて３度現地調査を実践することで，観測・観察手法と分析手法，論理的組み立てなどを，徐々に深く確実に修得させる。

・４年間の学修の集大成といえる卒業論文の作成に対して，各ゼミの授業とは別に，学科全体で中間発表会２回，本発表会（口頭試問）１回を開催する。全専任教員と４年生の参加はもちろん，３年生以下の学部生にも，この機会を活かして多様な研究テーマへの取り組みを学修させる。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

１．卒業要件

卒業に必要な単位は124単位である。その内訳は，転換・導入科目６単位，教養科目８単位以上，外国語科目８単位，専門科目78単位以上，自由選択修得要件単位となる科目24単位以上である（表１）。専門科目の科目群は，必修科目，選択必修科目，選択科目に三分される。

２．科目の履修方法

表１

文学部環境地理学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目	8	8	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	78	
	選択必修科目	24		
	選択科目	30		
自由選択修得要件単位		24		
卒業要件単位		124		

［環境地理学科］

【外国人留学生】 文学部環境地理学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	専門入門ゼミナール	2		
	データリテラシー			
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	8	
	人文科学基礎科目	4		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	78	
	選択必修科目	24		
	選択科目	30		
自由選択修得要件単位		24		
卒業要件単位		124		

［環境地理学科・外留］

履修全般について，まず，次の諸点に注意を払ってほしい。

① 1年次に40単位，2年次に40単位，3年次に32単位，4年次に12単位を修得することを目安にして毎年の履修計画をたててもらいたい。4年次ではゼミナール2と卒業論文の作成にできるだけ時間を割いて取り組んでもらいたい。

② 配当年次指定科目は，その年次に履修しなければならない。必修科目および卒業要件単位を満たしていない科目について未修得の場合のみ，上位の年次で履修することが許される。

③ 同一名称の科目は原則として1つしか履修できない。（一部の教養科目を除く）

(1) 転換・導入科目，教養科目，外国語科目

転換・導入科目の単位は，1年次に確実に修得することが望ましい。

転換・導入科目として，専修大学入門ゼミナール（2単位），専門入門ゼミナール（2単位）が開講される。これは環境地理学科の教員が担当する科目であり，1年次に必ず履修し，3クラスに分けて演習形式の授業を行う。専修大学入門ゼミナール（2単位）では，文献の入手方法，文献の読み方，レポートの書き方，発表の仕方など，基本的な学修方法を身につけてもらう。

専門入門ゼミナール（２単位）では，基礎的な地図情報の扱いやフィールドワークに関する入門的な学修を含めたかたちで，演習形式の授業を行う。

転換・導入科目は，上記の他に，保健体育基礎科目がそれぞれ半期１単位で必修となる。データリテラシーや情報リテラシー科目は必修ではないが，環境地理学科では数量的な分析能力や情報処理能力を育成する観点から，これらの科目の履修を推奨している。

教養科目は，人文科学基礎科目，社会科学基礎科目，自然科学系科目，融合領域科目，保健体育系科目からなる。これらのうち，人文科学基礎科目，社会科学基礎科目，自然科学系科目，融合領域科目に該当する科目を合計８単位以上を修得しなければならない。この８単位には人文，社会，自然，融合の各分野のしばりはなく任意に修得できるが，特定の分野に偏らず幅広く科目を選択して，教養を広げてほしい。

なお，教養科目には１・２年次向けのみに開講される科目が含まれるので，計画的な履修と単位修得を心がけること。

外国語科目の英語は１年次で英語４科目を履修し，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English（RL）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の２科目と，B群のBasics of English（SW）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の２科目を履修する。

英語以外の外国語は１年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の７ヶ国語の中から１ヶ国語を選択して，前期２単位・後期２単位の計４単位を必ず修得しなければならない。初級１a（前期），初級１b（後期）の２科目と，初級２a（前期），初級２b（後期）の２科目を履修する。

上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

環境地理学科では卒業論文で海外研究に取り組むことも期待しているので，積極的に履修して継続的な学修に努めてほしい。

⑵　専門科目

専門科目は後掲の表２に示すように，必修科目（表中○で示した科目），選択必修科目（表中◎で示した科目）は学年進行形式で開講しているので，必ず配当年次に履修して単位を修得してもらいたい。

履修に関して，特に次の２点に注意してもらいたい。まず，１年次の通年必修科目「環境地理学概論及び調査法」を１年次で必ず修得し，１年次から規則正しく学修する習慣をつけることが重要である。

第二に，環境地理学科では卒業論文が必修であり，ほぼ全員がフィールドワークを積み重ねて卒業論文を作成する。そのための実践的な調査の訓練を行うのが，２年次の通年必修科目「野外調査法１」と３・４年次の通年選択必修科目「野外調査法２」である。両方の科目を履修して，調査テーマの設定，研究史の整理，現地調査（聞き取り調査など），収集データの整理分析，論理的考察，文章作成，プレゼンテーション，討議にわたる総合的な能力を涵養してもらいたい。

カリキュラム編成全般に関しては，次の教育方針を重視している。

⑴　学年進行に合わせて基礎的内容から専門深化した内容・応用的な内容へと科目群を配列する。

(b) 分野別の系統的学修・研究と総合的な地誌的学修・研究とを科目群として併置する。

(c) 講義科目と実験・実習科目を併置して，分析技術を用いてデータを取得・分析し，データに基づいて考察することを可能にする。また演習科目としてゼミナールを３・４年次に配し，研究テーマの設定とそのための研究史の整理（文献の読解と整理），論理的考察，文章作成とコミュニケーション，パワーポイント等での発表やレジュメ作成などの訓練を行う。

開講科目群を，教育方針に沿って模式的に示せば，表２のようになる。じっくり時間をかけて学ぶべき科目は通年科目とする一方で，多くの講義科目と実験・実習科目は半期科目とし，履修モデルや関心に沿った弾力的な科目選択が可能なように心がけ，機動的に実験･実習の成果を活用できるように配慮した。必修科目と選択必修科目は大半を専任教員が担当する。

以下に，必修科目，選択必修科目，および選択科目のそれぞれについて履修に際しての注意点等を挙げておく。

① 必修科目

「環境地理学概論及び調査法」：１年次生を対象にした，環境地理学に関する入門的内容の科目である。全教員が分担して地理学の基礎概念や環境地理学科における各教員の専門テーマをわかりやすく解説し，研究上の話題提供も行う。また，読図・空中写真判読・統計資料の利用法などの基礎的実習を行う科目である。

「野外調査法１」：２泊３日程度の野外調査を核に，その前後の準備と取りまとめの作業を通じて実態把握に基づく環境地理学の調査方法の基礎を身につけることが目的の科目である。なお，各自現地調査を行うための交通費・宿泊費等の負担が必要である。

「ゼミナール１・２」：ゼミナール１は３年次生を対象とする。９人の専任教員がそれぞれ開くゼミナールのいずれかに学生個々人が選択して分属し，関心を持つ領域・分野を専門的に研究していく。ゼミナール２は４年次生を対象とし，卒業論文作成を主な目的とする。ゼミナール１・２は合同で行われ，原則として学生は３年次から４年次にかけて同一教員のゼミナールを選択する。ゼミナール１の選択のためのガイダンスは２年次の10～11月頃に行われる。

ゼミナール１とゼミナール２はいずれも必修科目である。環境地理学科では，その履修と単位修得について，次のルールを設けている。卒業要件に関わる重要な点なので，注意すること。

・「ゼミナール１・２」の各配当年次では，複数履修を認めない。すなわち，３年次生がゼミナール１を履修する場合，および４年次生がゼミナール２を履修する場合，いずれの場合も，ひとつのゼミナールしか履修することができない。

・ゼミナールは積み上げ方式のため，３年次でゼミナール１の単位が未修得の場合には，４年次でゼミナール１を再履修し，５年次以上でゼミナール２を履修する。

・特例として，協定校に留学した場合，４年次でのゼミナール１と２の複数履修を認める。すなわち，異なる教員が異なる時間帯に開講しているゼミナール１とゼミナール２とをそれぞれひとつずつ履修することを認める。ゼミナール２の担当者が卒業論文の指導を担当する。

・卒業論文の作成にあたっては，学科として開催する２回の中間発表会と１回の本発表会（口頭試問）において，資料を配布して口答発表することを該当する全学生に義務づけている。これら３回の発表を行い，かつ提出論文が形式・内容両面で妥当な場合に卒業論文の単位が修得できる。卒業論文の内容については，学科で示す評価の観点を満たすことが求められる。

表２

履修年次	基礎的内容の科目			区分	基礎・専門深化の両方にまたがる内容			区分	専門深化・応用的内容の科目			区分
1	講		環境地理学概論及び調査法	○通								
1・2	講	系人	人文地理学概論1	◎								
1・2	講	系人	人文地理学概論2	◎								
1・2	講	系自	自然地理学概論1	◎								
1・2	講	系自	自然地理学概論2	◎								
1・2	講	地	地誌学概論	◎								
2					演		野外調査法１	○通				
2・3					講	系人	都市環境学１	◎				
2・3					講	系人	農村環境学１	◎				
2・3					講	系人	歴史環境学１	◎				
2・3					講	系人	社会環境学１	◎				
2・3					講	地	地誌学１	◎				
2・3					講	系自	地形環境学１	◎				
2・3					講	系自	気候環境学１	◎				
2・3					講	系自	地域生態学１	◎				
2・3					講	系	環境地図学１	◎				
2・3					講	系	空間情報学１	◎				
2・3					実	系人	人文環境学調査法1	◎				
2・3					実	系人	人文環境学調査法2	◎				
2・3					実	系人	人文環境学調査法3	◎				
2・3					実	系人	人文環境学調査法4	◎				
2・3					実	地	人文環境学調査法5	◎				
2・3					実	系自	自然環境学調査法1	◎				
2・3					実	系自	自然環境学調査法2	◎				
2・3					実	系	自然環境学調査法3	◎				
2・3・4					実		地理情報システム実習１	△	講	系人	都市環境学２	△
2・3・4					実		リモートセンシング実習１	△	講	系人	農村環境学２	△
2・3・4									講	系人	歴史環境学２	△
2・3・4									講	系人	社会環境学２	△
2・3・4									講	地	地誌学２	△
2・3・4									講	系自	地形環境学２	△
2・3・4									講	系自	気候環境学２	△
2・3・4									講	系自	地域生態学２	△
2・3・4									講	系	環境地図学２	△
2・3・4									講	系	空間情報学２	△
2・3・4									講	地	地域研究１	△
2・3・4									講	地	地域研究２	△
2・3・4									講	地	地域研究３	△
2・3・4									講	地	地域研究４	△
2・3・4									講	地	地域研究５	△
2・3・4									講	系人	文化地理学	△
2・3・4									講	系自	陸水学	△
2・3・4									講		経済地理学	△
2・3・4									講		測量学	△
2・3・4									講		応用測量学	△
2・3・4									実		測量学実習	△半連
2・3・4									実		地理情報システム実習２	△
2・3・4									実		リモートセンシング実習２	△
2・3・4									講	系	環境地理学特殊講義A	△
2・3・4									講	系	環境地理学特殊講義B	△
2・3・4									講	系	環境地理学特殊講義C	△
3					演		ゼミナール１	○通				
3・4									演		野外調査法２	◎通
4									演		ゼミナール２	○通
4									演		卒業論文	○通

注）「講」「演」「実」は，それぞれ「講義を主とする科目」「演習を主とする科目」「実験実習を主とする科目」を指す。
「系人」「系自」「地」は，それぞれ「系統的人文地理」「系統的自然地理」「地誌地域研究」を指す。
○は必修科目，◎は選択必修科目，△は選択科目を指す。付記されている「通」は通年科目を，「半連」は半期２時限連続の科目を表し，その他は半期科目である。

② 選択必修科目

ここに含まれる科目は，環境地理学の中のさまざまな分野の専門的知識を身につけるための大切な科目である。表２中の「都市環境学１」「同２」から「空間情報学１」「同２」までの履修科目の中では，１でより基礎的な内容，２でより専門的・応用的な内容にしている場合もある。その場合，その分野の専門的な知識の修得のためには，１を履修したのち，または１の履修と同時に，

２を履修することが望ましい。

野外調査法２は，ぜひとも履修してもらいたい。教室で修得した知識や技術を現実世界の中で確認し，考察するための絶好の機会であり，卒業論文の研究を進める上でも大きな力・訓練となる。学生の多様な履修を保障するために本科目を必修科目にしていないが，できる限り多くの学生に積極的に履修してもらいたい。

③　選択科目

選択科目は大きく次の３種類からなる。第一は「都市環境学２」から「空間情報学２」までの10科目で，これらは選択必修科目である「都市環境学１」～「空間情報学１」の科目とペアをなし，多くがより専門的に，あるいは応用的に学ぶ科目である。第二は，世界各地の地誌学・地域研究をめざす学生，地理学的環境の応用的研究の諸相を知りたい学生，環境地理学の全分野をカバーした上で卒論テーマ選択を行う学生のために設けられた科目で，「地域研究１」～「同５」，「環境地理学特殊講義Ａ」～「同Ｃ」，「経済地理学」，「文化地理学」「陸水学」がこれにあたる。計画的に主に３年次に履修することが望ましい。第三は「測量学」「応用測量学」「測量学実習」「地理情報システム実習１」「同２」「リモートセンシング実習１」「同２」といった地理空間の情報を扱う技術的な科目であり，これらの技術を卒業論文作成に利用しようとする場合は，３年次までに履修しておくことが望ましい。

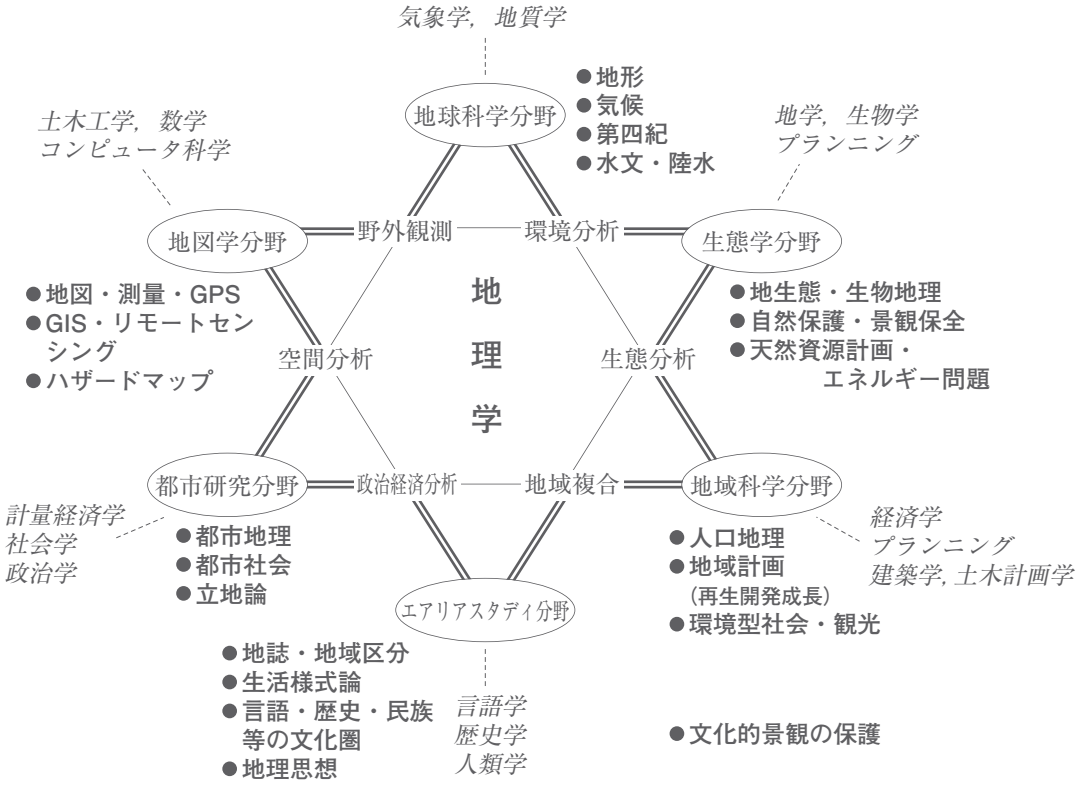


図１

国家資格「測量士補」は本学科を卒業し，各自が申請手続きして取得することができる。その際「測量学」「測量学実習」を含め，選択必修科目および選択科目の中から測量関連科目28単位以上取得していることが望ましい。さらに，卒業後1年間測量の実務経験を加えると，上級の「測量士」資格も取得可能となる。（公社）日本地理学会の認定資格「GIS学術士」は，空間情報学・GIS等に関する所定の科目の単位を一定以上の成績で取得し，卒業論文でもGISを用いるなどの条件を満たした場合に取得することができる。GISの学修に各自が取り組めるよう，2号館2階に「地理学空間情報処理室」を設けている。テクニカルスタッフにも必要最小限教えを願い出て，ひとりひとり努力してもらいたい。これらの資格は，測量・地図，各種の調査コンサルタントなどの分野で働くうえで活かされると考えられる。

⑷　自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位とは，転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目で定められた卒業要件単位以外に，卒業までに修得しなければならない単位の総称である。

自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の7つである。

a．転換・導入科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

b．教養科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

c．外国語科目に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

d．選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した環境地理学科開講の専門科目の単位。

e．環境地理学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。

f．教職・司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）

g．環境地理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし24単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は，原則として完全に学生各自の裁量に委ねられる。本学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる非常に多くの学問分野と関連を有しており，P．ハゲットの『地理学：今日的な総合』等を参考にその内包と外延を示すと図1のようになる。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。ただし，卒業までに自由選択修得要件単位数が24単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

⑸　再履修について

①　必修科目の再履修

必修科目の単位取得ができなかった場合は，必ず次の年次に，同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目は，原則として，すべてに優先して履修しなければいけない。一度単位を修得した科目は，成績の如何にかかわらず再履修できない。

②　選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を取得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はない。他の科目の単位を取得して卒業要件を満たすことが可能である。

Ⅲ　履修モデルと資格認定手続き

１．履修モデル

環境地理学科を構成する諸分野を踏まえて，次の４つの履修モデルを提示した。カリキュラムを組む際に参考にしてもらいたい。

①　人文・社会環境地理領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法２」を履修するとともに，表２で「系統的人文地理」の講義・実習科目を主とし，それ以外の講義・実習科目を従として，選択して履修する。自分の関心テーマに対応した科目群やゼミを選択して，専門的知識・技能を高め，研究能力を育成してほしい。

②　自然環境地理領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法２」を履修するとともに，表２で「系統的自然地理」の講義・実習科目を主とし，それ以外は上記に準じて，専門的知識・技能を高め，研究能力を育成してほしい。

③　地誌・地域研究領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法２」を履修するとともに，「地誌・地域研究」の講義・実習科目を主とし，それ以外の講義・実習科目を従として，選択して履修する。自然・人文を総合する専門的知識・技能を高め，研究能力を育成してほしい。

④　空間情報領域をさらに学ぼうとする場合

①～③のいずれかの学修に努めるとともに，空間情報領域をさらに学ぼうとする場合は，次の履修を心がけてほしい。必修科目群と選択必修科目の「野外調査法２」を履修するとともに，「環境地図学１」「同２」「空間情報学１」「同２」「測量学」「応用測量学」「測量学実習」「地理情報システム実習１」「同２」「リモートセンシング実習１」「同２」を履修する。これらを通じて，卒業要件単位を満たす選択必修科目の講義や実習科目を選択して履修する。その上で，GIS を活用して卒業論文を作成する。

なお，上に述べた履修モデルの如何にかかわらず，卒業要件は学科全体で同一である。

２．資格の取得のための条件と手続き

以下に，国家資格である測量士補と，（公社）日本地理学会が認定する GIS 学術士や地域調査士の資格を取得するのに必要な条件と手続き方法について，2019 年 12 月現在の状況を示す。手続き方法や申請に必要な費用については今後変更される可能性もあるので，これらの資格を取得しようとするときは，改めて確認してもらいたい。

⑴　測量士補

環境地理学科を卒業すれば，卒業とともに測量士補の登録申請を行うことができる。その際「測量学」「測量学実習」を含め，選択必修科目および選択科目の中から測量関連科目を 28 単位以上取得していることが望ましい。

「測量学」「測量学実習」以外の測量関連科目は次の通り。

「概論」および「調査法」の科目，歴史環境学，地誌学，地形環境学，気候環境学，環境地図学，空間情報学，地理情報システム実習，リモートセンシング実習（いずれも１および２），応用測量学，陸水学。

測量士補の資格登録は，各自が卒業後に申請する必要がある。登録申請書用紙を国土地理院ホームページからダウンロードし，必要事項を記入の上，大学の卒業証明書，成績証明書，登録通知書送付用封筒（宛先を記入し所要の切手を添付したもの）とともに国土地理院に簡易書留で郵送するか持参して提出する。登録には登録免許税15,000円が課せられており，その金額の収入印紙または国税収納金整理資金納付書の領収証書（原本）を登録申請書の所定欄に添付することが必要である。申請後，登録までに通常50日程度を要する。国土地理院の住所等は次のとおり。

国土地理院

〒305-0811　茨城県つくば市北郷１番　国土交通省国土地理院　総務部総務課　試験登録係

https://www.gsi.go.jp/

⑵　GIS 学術士

GIS学術士認定規程に基づいて認定された科目（認定科目）の単位を取得して卒業し，かつ卒業論文がGISを利用して複数の主題図を作成するとともに１つ以上の空間分析を実行したものであることが，資格の取得に必要である。認定科目は（公社）日本地理学会の資格専門委員会のホームページに掲載されている。申請を行おうとする者は，上記のホームページから申請書をダウンロードし，（公社）日本地理学会資格専門委員会に提出する。GIS学術士の認定には手数料（6,000円＋税）が必要となる。申請の審査は年３回に限定されており，その日程は上記のホームページに掲載されている。なお，３年次を終了して一定の条件を満たす場合には，「GIS学術士（見込み）証明書」の発行を受けることができる（手数料1,200円＋税が必要）。

⑶　地域調査士

地域調査士の標準カリキュラムに認定された科目（認定科目）を履修して卒業し，かつ「地域調査士講習」を受講することが，資格の取得に必要である。認定科目の一覧は（公社）日本地理学会の資格専門委員会のホームページに掲載されている。申請を行おうとする者は，上記のホームページから申請書をダウンロードし，（公社）日本地理学会資格専門委員会へ提出する。地域調査士の認定には手数料（6,000円+税）が必要となる。資格の取得を希望する者は，３年次か４年次に地域調査士講習を受講しておくとよい（受講料12,000円+税）。申請の方法や講習会の日時・会場などの情報は上記のホームページに掲載されている。なお，一定の条件で単位を取得し，地域調査士講習を受講済みの場合は，在学中に「地域調査士取得見込み証明書」の発行を受けることができる（手数料1,200円＋税が必要）。

文学部環境地理学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 歴史の視点　倫理学				8	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　社会学入門　子どもと社会の教育学 法と社会　現代の社会学　情報社会 政治学入門　社会科学論　はじめての経営 政治の世界　社会思想　マーケティングベーシックス 経済と社会　教育学入門　企業と会計 現代の経済						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	英語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
	英語以外の外国語	導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)				4	8	・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
				応用：ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

【外国人留学生】文学部環境地理学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール				2		
	データリテラシー	データ分析入門						
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	8	・卒業要件単位８単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学　ジャーナリズムと現代 歴史の視点　倫理学				4		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　社会学入門　子どもと社会の教育学 法と社会　現代の社会学　情報社会 政治学入門　社会科学論　はじめての経営 政治の世界　社会思想　マーケティングベーシックス 経済と社会　教育学入門　企業と会計 現代の経済						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	日本語	導入 日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群 Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群 Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
		導入 ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
				基礎 ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ (1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ (1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ (1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ (1) フランス語中級１ａ (1)　スペイン語中級１ａ (1)　インドネシア語中級１ａ (1) フランス語中級１ｂ (1)　スペイン語中級１ｂ (1)　インドネシア語中級１ｂ (1) フランス語中級２ａ (1)　スペイン語中級２ａ (1)　インドネシア語中級２ａ (1) フランス語中級２ｂ (1)　スペイン語中級２ｂ (1)　インドネシア語中級２ｂ (1)				・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
					応用 ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)			・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)				・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語）	世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。

環境地理学科

文学部環境地理学科専門科目一覧

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考
転換・導入科目													6		
教養科目													8		
外国語科目													8		
専門科目	環境地理学概論及び調査法	4	○	野外調査法１	4	○	ゼミナール１	4	○	ゼミナール２ 卒業論文	4 8	○ ○	24		5科目24単位必修
	人文地理学概論１ 人文地理学概論２ 自然地理学概論１ 自然地理学概論２ 地誌学概論				2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎							6	24	3科目6単位選択必修
				人文環境学調査法１ 人文環境学調査法２ 人文環境学調査法３ 人文環境学調査法４ 人文環境学調査法５ 自然環境学調査法１ 自然環境学調査法２ 自然環境学調査法３				2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎				8		8単位選択必修 野外調査法２は卒業までに8単位修得することができます。ただし、同一年度内での重複履修はできません。次年度以降、担当教員が異なる場合に限り、4単位まで追加履修が可能となります。追加修得分は選択科目の単位に算入され、選択必修科目としての修得単位は4単位に限ります。
							野外調査法２				4	◎			
				都市環境学１ 農村環境学１ 歴史環境学１ 社会環境学１ 地誌学１ 地形環境学１ 気候環境学１ 地域生態学１ 環境地図学１ 空間情報学１				2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎				10		5科目10単位選択必修
				都市環境学２ 農村環境学２ 歴史環境学２ 社会環境学２ 地誌学２ 地形環境学２ 気候環境学２ 地域生態学２ 環境地図学２ 空間情報学２ 地域研究１ 地域研究２ 地域研究３ 地域研究４ 地域研究５ 文化地理学 経済地理学 陸水学 地理情報システム実習１ 地理情報システム実習２ リモートセンシング実習１ リモートセンシング実習２ 測量学 応用測量学 測量学実習 環境地理学特殊講義A 環境地理学特殊講義B 環境地理学特殊講義C								2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2 2	△ △	30		30単位選択 専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入されます。 測量学実習は半期ペア科目です。
自由選択修得要件単位となる科目	環境地理学科の学生に受講が認められている転換・導入科目，教養科目，外国語科目，文学部開講の専門科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												24		転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得単位の目安	40			40			32			12			124		

環境地理学科

ジャーナリズム学科

Ⅰ　ジャーナリズム学科の特色

日本で初めて「ジャーナリズム」を学科名に冠した本学科は，ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって，社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。なお，本学は「マスコミ・ジャーナリズム講座」以来，約 50 年のメディア教育の歴史を有し，これまでの人文・ジャーナリズム学科を発展的に改組し 2019 年 4 月に発足した。ジャーナリズム学科では，学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について，次の通り定めている。

(1) ジャーナリズム学（ジャーナリズム・情報文化アーカイブ・メディアプロデュース・スポーツインテリジェンス）の基本的な知識・理論を理解するとともに，文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身に付け，説明することができる。（知識・理解）
(2) 社会事象に関する情報・データを収集・処理し，それを活用して自らの考えや判断を明確に他者に伝えることができる。（汎用的技能）
(3) ジャーナリズム学の専門的知識と幅広い一般的知識を統合させ，氾濫する情報を複眼的，批判的，論理的に分析し，現代社会における諸問題や実践的な課題を解決することができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）
(4) 広い視野から他者の多様な考え方や立場を理解し，良心や社会の規範をふまえて主体的に行動することができる。（態度・志向性）

国際化・情報化が高度に進んだ現在，周囲には虚実様々な情報が溢れている。ジャーナリズム学科の学生には，世界の国々や地域社会，あるいはメディアの世界で起きている現実を，深い問題意識をもって理解し，“自分の言葉で他者と対話する力”を身につけ，情報スペシャリストをめざしてほしい。

ジャーナリズム学科では，カリキュラムを編成するにあたり，「ジャーナリズム」，「情報文化アーカイブ」，「メディアプロデュース」，「スポーツインテリジェンス」の４つの学びの柱を設けている。

・**ジャーナリズム**：社会を見る眼を養い，表現力を高める能力を身につける，本学科の基幹科目群である。プロ・ジャーナリストをめざす者のための，情報の収集と分析，発信のあり方を学ぶ。
・**情報文化アーカイブ**：日々生み出される情報を文化資源と捉え，的確に収集・整理・管理・活用する専門的知識を学ぶ。資格課程と合わせて履修することで，図書館司書，博物館学芸員の資格を取得することも可能である（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。従来の司書，学芸員を超えたアーキビストの養成をめざす。
・**メディアプロデュース**：具体的なメディア製作，とりわけデジタルメディア上の表現手法を学び，紙・映像・ネット上の情報加工・発信力を身につけることができ，デザイナーやエンジニアと呼ばれる，表現クリエーター・ディレクターの養成をめざす。
・**スポーツインテリジェンス**：劇的に進展するスポーツ分野での情報活用に着目し，データの収

集・分析や活用，コーチング等について学ぶことができる。所定の科目を修得することで日本スポーツ協会のコーチングアシスタント（スポーツ指導者基礎資格）を申請することができる（p.161「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について」を参照）。

4年間の学びは，上記の4つの科目群から自由に科目を選択し，自分の将来設計にあった学びを実現してもらうことになる。ただしその前段として，別項目で説明する外国語・教養と，転換・導入と呼ばれる体育などの科目を，定められた方法により履修することが必要だ。それと並行して1年次において，専門導入科目として，本学科で学ぶにあたって必ず学ぶべき科目（必修科目）と，できる限り学ぶことを強く勧めるいくつかの専門科目を用意している。

こうした学びを通じて，4つの科目群から特に中心的に学ぶ科目群（主たる学びの柱）と，更にもう1つか2つの自分の興味・関心にあった科目群（従たる学びの柱）を定め，それらの科目群を中心にカリキュラムを組み立てることで，4年間の体系的な科目履修を通して知識と能力を身につけることができる仕組みになっている。

また，いずれの科目群を選択した場合でも，2年次から3年次に進級する時に，大学における学びの華である「ゼミナール」の所属を決定する。ゼミナールは少人数で専門的なテーマに関する学生の発表と，それをめぐる議論を中心に運営される授業であることから，定員を設けている。これらは2年次秋に行なわれるガイダンスを受けた後に，「希望届」を提出してもらい決定していく。

また，沖縄ジャーナリズム論などの現地集中講義を実施する「実習」や，テーマ別の自発的双方的な学習を実施する「プロジェクト」，日本を代表するメディア企業等における職業体験である「インターンシップ」などの実践的な科目や，外部のメディア系企業・組織との「協力講座」科目が多彩であることも，他学部他学科にはない本学科のカリキュラムの大きな特色である。それぞれの科目には履修の条件があるため，事前に講義シラバスを熟読し，自身のカリキュラムを作成してほしい。

Ⅱ　卒業要件と科目の履修方法

ジャーナリズム学科の学生として，大学を卒業するために必要な諸要件と，科目の具体的な履修法について概説する。以下の説明をよく読み，それによって履修計画を立ててほしい。科目の履修は，「単位」によって計算する。講義名である「科目」によって単位数は異なり，専門科目の場合は原則，1科目＝2単位（半期）である。

1．卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については，p.36「大学卒業の要件と科目の履修」を参照），それに加えて，ジャーナリズム学科の学生には，次頁の表に示した要件を充たすことが要求される。すなわち，大学においては半年の講義・演習を履修し終えると，所定の単位が修得できる。その積み重ねで，4年間で少なくとも「124単位」を修得しないと卒業はできない。また，修得すべき単位は，決められたルールを守っている限り，自分の興味がある科目を自由に選択することが可能である。まさに自分色の「マイ・カリキュラム」を作ることができるのである。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解したうえでこの表を改めて見直し，確認してほしい。

文学部ジャーナリズム学科

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	データリテラシー	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	人文科学基礎科目		6	
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	英語	4	8	
	英語以外の外国語	4		
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	82	
	選択科目	58		
自由選択修得要件単位		22		
卒業要件単位		124		

［ジャーナリズム学科］

【外国人留学生】 **文学部ジャーナリズム学科**

区分		卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	2	6	自由選択修得要件単位には，所定の卒業要件単位数を超えて修得した転換・導入科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した教養科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した外国語科目，所定の卒業要件単位数を超えて修得した専門科目，資格課程の一部の科目，全学公開科目の単位が算入されます。
	データリテラシー	2		
	キャリア基礎科目			
	情報リテラシー科目			
	基礎自然科学【必履修】			
	保健体育基礎科目	2		
教養科目	留学生専修科目	4	6	
	人文科学基礎科目	2		
	社会科学基礎科目			
	自然科学系科目			
	融合領域科目			
	保健体育系科目			
外国語科目	日本語	8	8	
	母語以外の外国語			
	海外語学研修			
専門科目	必修科目	24	82	
	選択科目	58		
自由選択修得要件単位		22		
卒業要件単位		124		

［ジャーナリズム学科・外留］

２．科目の履修方法

履修にあたっては，以下の４点に注意を払ってほしい。

① 「転換・導入科目」,「教養科目」,「外国語科目」20 単位以上,「専門科目」82 単位以上,「自由選択単位となる科目」22 単位以上，合計 124 単位以上を修得しなければならない。

② 各年次に修得する単位の目安（１年次 34 単位，２年次 38 単位，３年次 38 単位，４年次 14 単位）があるので，この条件も充たすように毎年の履修計画を立ててほしい（１年間で修得できる単位数には 48 単位と定められている）。

③ 配当年次が指定されている科目については，その年次に履修しなければならない。また，指定された配当年次が複数年次にわたる科目は，なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。

④ 同一名称の科目は，原則として１つしか履修できない。同一名称の科目が複数あることは珍しくない。しかし，一度に同一名称の科目を２つ以上履修することはできないし，一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

⑴ 転換・導入科目，教養科目，外国語科目の履修方法

転換・導入科目，教養科目，外国語科目には，それぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換・導入科目は pp.49～55 に，教養科目は pp.56 ～ 63 に，外国語科目については pp.64 ～ 75 に詳しい説明があるので，それを参考にして，以下を確認してほしい。

１）転換・導入科目

① 専修大学入門科目

転換・導入科目に配置されている「専修大学入門ゼミナール」を，１年次前期２単位（１科目）必ず修得しなければならない。クラスは学籍番号によって，あらかじめ指定される。

② データリテラシー

転換・導入科目に配置されている「データ分析入門」を，１年次前期２単位（１科目）必ず修得しなければならない。クラスは学籍番号によって，あらかじめ指定される。

③ 保健体育基礎科目

転換・導入科目に配置されている「スポーツリテラシー」を１年次前期１単位,「スポーツウェルネス」を１年次後期１単位，合計で２単位（２科目）必ず修得しなければならない。

④ 基礎自然科学

転換・導入科目に配置されている「あなたと自然科学」を，１年次前期２単位（１科目）必ず履修しなければならない。なお，この科目は「必履修」と呼ばれ，必ず受講しなければならないが，万が一，単位の取得ができなかった場合も，翌年に再履修をする必要はない。修得した単位は自由選択修得単位として算入することができる。

⑤ キャリア基礎科目

上記以外の導入科目に配置された科目である「キャリア入門」は，選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得単位として算入することができる。

2）教養科目

① 人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目・保健体育系科目
人文科学基礎科目・社会科学基礎科目・自然科学系科目・融合領域科目・保健体育系科目の中から6単位（3科目）を履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれことなるので，履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎科目と社会科学基礎科目は3，4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目と保健体育系科目は2年次以降に開講される。

3）外国語科目

① 英語
1年次で英語4科目を履修し，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English（RL）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（RL）1a（前期），1b（後期）の2科目と，B群のBasics of English（SW）1a（前期），1b（後期）またはIntermediate English（SW）1a（前期），1b（後期）の2科目を履修する。

② 英語以外の外国語
1年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の7ヶ国の中から1ヶ国語を選択して，前期2単位・後期2単位の計4単位（4科目）を必ず修得しなければならない。初級1a（前期），初級1b（後期）の2科目と初級2a（前期），2b（後期）の2科目を履修する。

③ 上記以外の科目
上記以外の外国語科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得単位として算入することができる。

⑵ 専門科目の履修方法

専門科目の中には必ず修得しなければならない必修科目（p.153「文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧」で○印のついた科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の2通りがある。

必修科目は，1年次配当の「情報表現実習(基礎)」，「ジャーナリズム論」，2年次配当の「情報表現実習（応用）」，「言論法」，「応用実習」，3年次配当の「ゼミナール1・2」，4年次配当の「ゼミナール3・4」，「卒業論文・制作」の10科目であり，いずれの単位が欠けても卒業できない。「ゼミナール1・2・3・4」は，少人数で専門的なテーマに関する学生の発表とそれをめぐる議論を中心に運営される授業，卒業論文・制作は自らが選んだテーマについての深い研究の結果をまとめるもので，いずれも文学部での学びの中核であるので，積極的に取り組んでほしい。

「プロジェクト」は必修科目ではないが，後述のゼミナールの入門編として位置づけられており，特段の理由がない限り履修しなければならない。「プロジェクトA」，「プロジェクトB」のう

ち，いずれか１つもしくは２つを，２年次で履修することが必要である。この履修状況は，ゼミナールの選考にも使用される。

ゼミナール及び卒業論文・制作の履修については，次のような制約があるので気をつけてほしい。

① ゼミナール１・２は複数（並列）履修を認めない。

② ゼミナール３・４は複数（並列）履修を認めない。

③ ゼミナール１・２・３・４及び卒業論文・制作は積み上げ方式のため，原則として同一教員のゼミナールを履修し，そこで指導を受ける。（ゼミナール４履修者もしくは修得後のみ卒業論文・制作の履修登録を認める。）

④ ３年次にゼミナール１・２が未取得の場合（協定校留学含む），学科会議承認の下に，４年次でのゼミナール１・２と３・４との複数（直列）履修と卒業論文・制作の提出を認める。同じ教員のゼミナールが原則だが，ゼミナール３・４がゼミナール１・２と合併で展開している場合は，別のゼミナールを履修しなくてはならない。

履修の仕方の基本は，第１に年次別の必修科目，第２に自分が主たる学びの中心とする専門科目の順である。具体的には，以下の流れに沿って履修をすることを求める（詳細は，ガイダンスで説明する）。

１年次の場合，必修科目（必履修科目・選択必修科目を含む）である転換・導入科目４科目，外国語科目（英語と英語以外の外国語）８科目，教養科目３科目の合計22単位と，専門科目の必修科目である「情報表現実習（基礎）」「ジャーナリズム論」の計４単位以外は，可能な限り専門科目を履修することを勧める。

ただし上記の必修科目だけで26単位となり，１年間で履修できる単位数の上限は48単位と決まっているので，実際に履修可能な科目数はそれほど多くない。具体的には，最大で22単位（11科目）の履修が可能であるので，それらを，１年次に配当された専門科目である「ウエブ・ジャーナリズム論」，「メディア・コミュニケーション史」，「ジャーナリズムの思想史」，「現代社会とジャーナリズム」の４つの科目群に共通する４科目と，「放送学」にはじまる各科目群ごとに配置された計11科目の，合計15科目から選択することになる。

２年次以降は，専門必修科目の履修のほか，最初に述べたとおり，自分の関心・将来設計に合わせた科目群の科目を中心に履修計画を組むことを求める。「ジャーナリズム」，「情報文化アーカイブ」，「メディアプロデュース」，「スポーツインテリジェンス」のどの科目群に該当する科目か，p.150の表をよく確認してもらいたい。

⑶ 自由選択単位となる科目

自由選択単位となる科目とは，転換・導入科目，教養科目，外国語科目の修得要件単位（20単位），および専門科目の修得要件単位（82単位）を修得したうえで，さらに履修する科目の総称である。自由選択単位に算入されるものは以下の７つである。

① 転換・導入科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。

② 教養科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
③ 外国語科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
④ 選択科目の卒業要件単位を超えて修得したジャーナリズム学科開講の専門科目の単位。
⑤ ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
⑥ 司書課程・学校司書科目の単位。ただし８単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
⑦ ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし 22 単位まで。

自由選択単位となる科目は，科目区分にとらわれずに，自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。ただし，ジャーナリズム学科の学生は，自由選択単位数が卒業までに 22 単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

⑷ 再履修について

① 必修科目の再履修

必修科目の単位を，何らかの理由で修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再履修しなければならない。ただし「英語以外の外国語」については，言語を変えて再履修することも可能である（同一言語で４単位の修得が必要である。）再履修科目は，すべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。なお，一度単位を修得した科目の再履修はできないことを付記しておく。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

⑸ 中期留学をした場合の単位認定について

ジャーナリズム学科においては，海外に留学し研鑽を積むことを推奨する。本学には正規の留学プログラムとして，短期，中期，長期の３種類がある。ここで説明するのは，半年間の海外の協定校等への留学である，中期留学プログラムである。本学協定校等で所定の中期留学プログラムの単位を取得した場合，単位認定は次のように行うものとする。

① 学科所定の専門科目「中期留学プログラム１～８」の単位が認定される。この単位認定は 16 単位をまとめて行うものとし，一部での単位認定は認めない。

② 本人の希望に応じ，教養科目の「海外語学中期研修」として認定することもできる。したがって，留学を複数回行うことは可能であり，その場合は，専門科目として１回，教養科目として１回認定される。ただし，同一の大学に留学した場合は，単位認定の対象とはしない。

ジャーナリズム学科専門科目　必修科目，共通科目，４つの科目群

＜共通科目＞

科目群	科目名	配当年次	単位数
科目群共通科目	**情報表現実習（基礎）**	1	2
	情報表現実習（応用）	2	2
	応用実習	2	2
	ジャーナリズム論	1	2
	言論法	2	2
	メディア・コミュニケーション史	123	2
	ジャーナリズムの思想史	123	2
	現代社会とジャーナリズム	123	2
	ジャーナリズムの倫理	234	2
	ジャーナリズムとメディア	234	2
	情報アクセシビリティ論	234	2
	インターンシップ	234	2

※太字は必修科目

科目群	科目名	配当年次	単位数
科目群共通科目	プロジェクトＡ	23	2
	プロジェクトＢ	23	2
	ゼミナール１	3	2
	ゼミナール２	3	2
	ゼミナール３	4	2
	ゼミナール４	4	2
	卒業論文・制作	4	6
	中期留学プログラム１	234	2
	中期留学プログラム２	234	2
	中期留学プログラム３	234	2
	中期留学プログラム４	234	2
	中期留学プログラム５	234	2
	中期留学プログラム６	234	2
	中期留学プログラム７	234	2
	中期留学プログラム８	234	2

＜4 つの科目群＞

科目群	科目名	配当年次	単位数
ジャーナリズム系科目群	新聞学	123	2
	放送学	123	2
	出版学	123	2
	憲法とジャーナリズム	234	2
	事件・災害とジャーナリズム	234	2
	調査報道論	234	2
	インタビュー論	234	2
	メディア批評	234	2
	映像ジャーナリズム論	234	2
	フォト・ジャーナリズム論	234	2
	雑誌ジャーナリズム論	234	2
	国際ジャーナリズム論	234	2
	経済ジャーナリズム論	234	2
	政治ジャーナリズム論	234	2
	戦争ジャーナリズム論	234	2
	沖縄ジャーナリズム論	234	2
	ライティング１	234	2
	ライティング２	234	2
	ジャーナリズム実習	34	2
	ジャーナリズム特講	34	2

科目群	科目名	配当年次	単位数
スポーツインテリジェンス系科目群	情報とスポーツ	1234	2
	現代社会とスポーツ	1234	2
	スポーツジャーナリズム論	234	2
	スポーツ医科学情報	234	2
	コーチング論	234	2
	コーチング実習	234	2
	スポーツ情報戦略	234	2
	スポーツ栄養のイノベーション	234	2
	スポーツの社会学	234	2
	スポーツビジネス	234	2
	スポーツ政策	234	2
	スポーツインテリジェンス特講	234	2
	コンディショニングのための情報分析	234	2
	ライフステージと健康情報	234	2
	スポーツ心理の情報分析	234	2
	心理情報とメンタルマネジメント	234	2
	スポーツ文化の国際比較研究	234	2
	スポーツと法	234	2
	測定・調査実習	34	2
	スポーツ総合実習	34	2

科目群	科目名	配当年次	単位数
メディアプロデュース系科目群	パブリックメディア論	123	2
	ウエブジャーナリズム論	123	2
	テキストメディア論	123	2
	広告学	234	2
	ＰＲ論	234	2
	世論調査	234	2
	コンテンツ産業論	234	2
	メディアコンテンツ制作	234	2
	アニメーション論	234	2
	マンガ論	234	2
	コンテンツプロデュース	234	2
	情報マーケティング	234	2
	メディア技術の基礎	234	2
	映像表現技法	234	2
	視覚表現論	234	2
	グラフィックデザイン	234	2
	ウエブデザイン	234	2
	知的財産権	234	2
	映像特殊実習	34	2
	シナリオライティング実習	34	2

科目群	科目名	配当年次	単位数
情報文化アーカイブ系科目群	アーカイブ概論	123	2
	ジャーナリズムとアーカイブ	123	2
	アーカイブ発達史	123	2
	アーカイブ政策	234	2
	アーカイブ法制	234	2
	アーカイブマネジメント	234	2
	デジタルアーカイブ	234	2
	文化情報資源論（図書館）	234	2
	文化情報資源論（博物館）	234	2
	記録・史資料調査法	234	2
	記録・史資料調査実習	234	2
	市民とメディア	234	2
	娯楽とメディア	234	2
	言葉とメディア	234	2
	科学とメディア	234	2
	教育とメディア	234	2
	技術とメディア	234	2
	宗教とメディア	234	2
	アーカイブ特講	34	2
	アーカイブ総合実習	34	2

文学部ジャーナリズム学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	データリテラシー	データ分析入門				2		
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　心用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学 歴史の視点　倫理学					6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。
	自然科学系科目	自然科学実験演習１　生物科学３ａ　化学１ａ　物理学２ａ　数理科学３ａ 自然科学実験演習２　(4)　生物科学３ｂ　化学１ｂ　物理学２ｂ　数理科学３ｂ 生物科学１ａ　宇宙地球科学１ａ　化学２ａ　数理科学１ａ　科学論１ａ 生物科学１ｂ　宇宙地球科学１ｂ　化学２ｂ　数理科学１ｂ　科学論１ｂ 生物科学２ａ　宇宙地球科学２ａ　物理学１ａ　数理科学２ａ　科学論２ａ 生物科学２ｂ　宇宙地球科学２ｂ　物理学１ｂ　数理科学２ｂ　科学論２ｂ						・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4) テーマ科目 新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４ キャリア科目１ キャリア科目２ 教養テーマゼミナール１　(4)　教養テーマゼミナール２　(4)　教養テーマゼミナール３　(4) 教養テーマゼミナール論文					・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ　スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（健康と生涯スポーツ）　スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ）　スポーツ論（トレーニング科学） スポーツ論（スポーツコーチング）					
外国語科目	英語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)				4	8	・General Englishは，英語「Ａ・Ｂ群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
			General English　(1)					
		English Speaking a　(1) English Speaking b　(1) Computer Aided Instruction a　(1) Computer Aided Instruction b　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
	英語以外の外国語	導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)				4		・１年次で英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂを履修しなければなりません。 ・同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
				応用：ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ，ｂを履修するためには，英語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語） 世界の言語と文化（フランス語） 世界の言語と文化（中国語） 世界の言語と文化（スペイン語） 世界の言語と文化（ロシア語） 世界の言語と文化（インドネシア語） 世界の言語と文化（コリア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

【外国人留学生】文学部ジャーナリズム学科　転換・導入科目，教養科目，外国語科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（　）内の数字は，単位数を示す（記載のない科目は２単位）。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位		備考
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール				2	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
	データリテラシー	データ分析入門				2		
	キャリア基礎科目	キャリア入門						
	情報リテラシー科目	情報入門１ 情報入門２						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー　(1) スポーツウェルネス　(1)				2		
教養科目	留学生専修科目	一般日本事情１ 一般日本事情２				4	6	・卒業要件単位６単位を超えて修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・テーマ科目は，科目名の括弧内に示す表記が異なれば，それぞれ履修することができます（同一年度での複数履修も可能）。 ・教養テーマゼミナール論文は，教養テーマゼミナールの単位を修得し，次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成（履修）することができます。 ・アドバンストスポーツは，スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ，履修することができません。 ・アドバンストスポーツは，種目にかかわらず，複数履修することができます。
	人文科学基礎科目	日本の文化　歴史と地域・民衆　論理学入門 日本の文学　歴史と社会・文化　ことばと論理 世界の文学　基礎心理学入門　芸術学入門 文学と現代世界　応用心理学入門　異文化理解の人類学 英語圏文学への招待　哲学 歴史の視点　倫理学				2		
	社会科学基礎科目	日本国憲法　地理学への招待　子どもと社会の教育学 法と社会　社会学入門　情報社会 政治学入門　現代の社会学　はじめての経営 政治の世界　社会科学論　マーケティングベーシックス 経済と社会　社会思想　企業と会計 現代の経済　教育学入門						
	自然科学系科目	自然科学実験演習１ 自然科学実験演習２　(4) 生物科学１ａ 生物科学１ｂ 生物科学２ａ 生物科学２ｂ 生物科学３ａ 生物科学３ｂ 宇宙地球科学１ａ 宇宙地球科学１ｂ 宇宙地球科学２ａ 宇宙地球科学２ｂ 化学１ａ 化学１ｂ 化学２ａ 化学２ｂ 物理学１ａ 物理学１ｂ 物理学２ａ 物理学２ｂ 数理科学１ａ 数理科学１ｂ 数理科学２ａ 数理科学２ｂ 数理科学３ａ 数理科学３ｂ 科学論１ａ 科学論１ｂ 科学論２ａ 科学論２ｂ				2		
	融合領域科目		学際科目１　学際科目５　学際科目９ 学際科目２　学際科目６　学際科目10 学際科目３　学際科目７　学際科目11　(4) 学際科目４　学際科目８　学際科目12　(4)					
			テーマ科目					
			新領域科目１　新領域科目３　新領域科目５ 新領域科目２　新領域科目４					
			キャリア科目１ キャリア科目２					
			教養テーマゼミナール１　(4)	教養テーマゼミナール２　(4)	教養テーマゼミナール３　(4)			
				教養テーマゼミナール論文				
	保健体育系科目		アドバンストスポーツ スポーツ論（健康と生涯スポーツ） スポーツ論（オリンピックとスポーツ） スポーツ論（スポーツコーチング） スポーツ論（スポーツライフデザイン論） スポーツ論（人類とスポーツ） スポーツ論（トレーニング科学）					
外国語科目	日本語	導入：日本語文章理解１　(1) 日本語文章理解２　(1) 日本語音声理解１　(1) 日本語音声理解２　(1) 日本語口頭表現１　(1) 日本語口頭表現２　(1) 日本語文章表現１　(1) 日本語文章表現２　(1)				8	8	・前期「１」と後期「２」はセットで履修しますが，前期「１」を単位修得できない場合は後期「２」の履修ができません。
			応用日本語理解１　(1)　応用日本語表現１　(1) 応用日本語理解２　(1)　応用日本語表現２　(1)					・１年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。
	母語以外の外国語	A群：Basics of English (RL) 1a (1) Basics of English (RL) 1b (1) または Intermediate English (RL) 1a (1) Intermediate English (RL) 1b (1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
		B群：Basics of English (SW) 1a (1) Basics of English (SW) 1b (1) または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)						
		English Speaking a　(1)　Computer Aided Instruction a　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC a　(1) English Speaking b　(1)　Computer Aided Instruction b　(1)　Computer Aided Instruction for TOEIC b　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・English Speaking a・b，Advanced English a・b，English Language and Cultures a・bは，各科目４単位まで修得することができます。
			Advanced English a　English Presentation a　Screen English a Advanced English b　English Presentation b　Screen English b English Language and Cultures a　English Writing a English Language and Cultures b　English Writing b					
		導入：ドイツ語初級１ａ　(1) ドイツ語初級１ｂ　(1) ドイツ語初級２ａ　(1) ドイツ語初級２ｂ　(1) フランス語初級１ａ　(1) フランス語初級１ｂ　(1) フランス語初級２ａ　(1) フランス語初級２ｂ　(1) 中国語初級１ａ　(1) 中国語初級１ｂ　(1) 中国語初級２ａ　(1) 中国語初級２ｂ　(1) スペイン語初級１ａ　(1) スペイン語初級１ｂ　(1) スペイン語初級２ａ　(1) スペイン語初級２ｂ　(1) ロシア語初級１ａ　(1) ロシア語初級１ｂ　(1) ロシア語初級２ａ　(1) ロシア語初級２ｂ　(1) インドネシア語初級１ａ　(1) インドネシア語初級１ｂ　(1) インドネシア語初級２ａ　(1) インドネシア語初級２ｂ　(1) コリア語初級１ａ　(1) コリア語初級１ｂ　(1) コリア語初級２ａ　(1) コリア語初級２ｂ　(1)						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「導入」の各科目を履修する場合，同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂの４科目４単位をセットで履修しなければなりません。 ・「導入」の各科目は，同一言語の科目をすべて（４科目４単位）履修している，あるいは修得している場合，他の言語を履修することはできません。
			基礎：ドイツ語中級１ａ　(1)　中国語中級１ａ　(1)　ロシア語中級１ａ　(1)　コリア語中級１ａ　(1) ドイツ語中級１ｂ　(1)　中国語中級１ｂ　(1)　ロシア語中級１ｂ　(1)　コリア語中級１ｂ　(1) ドイツ語中級２ａ　(1)　中国語中級２ａ　(1)　ロシア語中級２ａ　(1)　コリア語中級２ａ　(1) ドイツ語中級２ｂ　(1)　中国語中級２ｂ　(1)　ロシア語中級２ｂ　(1)　コリア語中級２ｂ　(1) フランス語中級１ａ　(1)　スペイン語中級１ａ　(1)　インドネシア語中級１ａ　(1) フランス語中級１ｂ　(1)　スペイン語中級１ｂ　(1)　インドネシア語中級１ｂ　(1) フランス語中級２ａ　(1)　スペイン語中級２ａ　(1)　インドネシア語中級２ａ　(1) フランス語中級２ｂ　(1)　スペイン語中級２ｂ　(1)　インドネシア語中級２ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・「基礎」の各科目は，２単位まで修得することができます。ただし，同一年度に同一科目を履修することはできません。 ・「応用」の各科目は，同一年度に２単位，年度を越えてさらに２単位履修することができ，合計４単位まで修得することができます。
			応用：ドイツ語上級１ａ　(1)　ロシア語上級１ａ　(1) ドイツ語上級１ｂ　(1)　ロシア語上級１ｂ　(1) フランス語上級１ａ　(1)　インドネシア語上級１ａ　(1) フランス語上級１ｂ　(1)　インドネシア語上級１ｂ　(1) 中国語上級１ａ　(1)　コリア語上級１ａ　(1) 中国語上級１ｂ　(1)　コリア語上級１ｂ　(1) スペイン語上級１ａ　(1) スペイン語上級１ｂ　(1)					
			選択ドイツ語１ａ　(1)　選択スペイン語１ａ　(1)　選択イタリア語１ａ　(1) 選択ドイツ語１ｂ　(1)　選択スペイン語１ｂ　(1)　選択イタリア語１ｂ　(1) 選択フランス語１ａ　(1)　選択コリア語１ａ　(1) 選択フランス語１ｂ　(1)　選択コリア語１ｂ　(1) 選択中国語１ａ　(1)　選択アラビア語１ａ　(1) 選択中国語１ｂ　(1)　選択アラビア語１ｂ　(1)					・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・選択１ａ・ｂを履修するためには，母語以外の外国語「導入」の各科目から同一言語の初級１ａ・ｂと初級２ａ・ｂをすべて（４科目４単位）修得していなければなりません。 ・選択１ａ・ｂを履修する場合には，「導入」の各科目で４科目４単位を修得した言語とは異なる言語から，同一言語の選択１ａ・ｂをセットで履修してください。
		世界の言語と文化（ドイツ語）　世界の言語と文化（中国語）　世界の言語と文化（ロシア語）　世界の言語と文化（コリア語） 世界の言語と文化（フランス語）　世界の言語と文化（スペイン語）　世界の言語と文化（インドネシア語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。
			言語文化研究（ヨーロッパ）１　言語文化研究（アジア）１　言語文化研究（アメリカ） 言語文化研究（ヨーロッパ）２　言語文化研究（アジア）２					
	海外語学研修	海外語学短期研修１（外国語）　海外語学短期研修２（外国語）						・修得した単位は，自由選択修得要件単位に算入されます。 ・海外語学短期研修は，夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修１に，春期留学プログラムを修了した場合に短期研修２に認定されます。 ・海外語学中期研修は，中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。
			海外語学中期研修１（外国語）　海外語学中期研修４（外国語）　海外語学中期研修７（外国語） 海外語学中期研修２（外国語）　海外語学中期研修５（外国語）　海外語学中期研修８（外国語） 海外語学中期研修３（外国語）　海外語学中期研修６（外国語）					

文学部ジャーナリズム学科専門科目一覧

凡例：○必修，△選択

区分		1年次 科目名	単位	必・選	2年次 科目名	単位	必・選	3年次 科目名	単位	必・選	4年次 科目名	単位	必・選	卒業要件単位		備考
転換・導入科目														6		
教養科目														6		
外国語科目														8		
専門科目	基礎科目	情報表現実習（基礎）	2	○	情報表現実習（応用）	2	○							8	82	10科目24単位必修 29科目58単位選択
		ジャーナリズム論	2	○	言論法	2	○									
		メディア・コミュニケーション史							2	△						
		ジャーナリズムの思想史							2	△						
		現代社会とジャーナリズム							2	△						
		ウエブジャーナリズム論							2	△						
		新聞学							2	△						
		放送学							2	△						
		出版学							2	△						
		パブリックメディア論							2	△						
		テキストメディア論							2	△						
		アーカイブ概論							2	△						
		ジャーナリズムとアーカイブ							2	△						
		アーカイブ発達史							2	△						
	基幹科目				市民とメディア							2	△			
					娯楽とメディア							2	△			
					言葉とメディア							2	△			
					科学とメディア							2	△			
					教育とメディア							2	△			
					技術とメディア							2	△			
					宗教とメディア							2	△			
					映像ジャーナリズム論							2	△			
					フォト・ジャーナリズム論							2	△			
					雑誌ジャーナリズム論							2	△			
					国際ジャーナリズム論							2	△			
					経済ジャーナリズム論							2	△			
					政治ジャーナリズム論							2	△			
					戦争ジャーナリズム論							2	△			
					沖縄ジャーナリズム論							2	△			
					スポーツジャーナリズム論							2	△			
					ジャーナリズムとメディア							2	△			
					事件・災害とジャーナリズム							2	△			
					憲法とジャーナリズム							2	△			
					広告学							2	△			
					ＰＲ論							2	△			
					情報アクセシビリティ論							2	△			
					コンテンツ産業論							2	△			
					メディア技術の基礎							2	△			
					メディア批評							2	△			
					ジャーナリズムの倫理							2	△			
	発展・応用科目				応用実習	2	○	ゼミナール１	2	○	ゼミナール３	2	○	16		
								ゼミナール２	2	○	ゼミナール４	2	○			
											卒業論文・制作	6	○			
					プロジェクトＡ				2	△						
					プロジェクトＢ				2	△						
					世論調査							2	△			
					メディアコンテンツ制作							2	△			
					アニメーション論							2	△			
					マンガ論							2	△			
					調査報道論							2	△			
					インタビュー論							2	△			
					コンテンツプロデュース							2	△			
					情報マーケティング							2	△			
					スポーツ情報戦略							2	△			
					スポーツ政策							2	△			
					心理情報とメンタルマネジメント							2	△			
					コンディショニングのための情報分析							2	△			
					スポーツ心理の情報分析							2	△			
					グラフィックデザイン							2	△			
					ウエブデザイン							2	△			
					知的財産権							2	△			
					アーカイブ政策							2	△			
					アーカイブ法制							2	△			
					アーカイブマネジメント							2	△			
					デジタルアーカイブ							2	△			
					ライティング１							2	△			
					ライティング２							2	△			
					インターンシップ							2	△			
								ジャーナリズム実習				2	△			
								ジャーナリズム特講				2	△			
								アーカイブ総合実習				2	△			
								アーカイブ特講				2	△			
	関連科目	情報とスポーツ										2	△			
		現代社会とスポーツ										2	△			
					記録・史資料調査法							2	△			
					記録・史資料調査実習							2	△			
					スポーツインテリジェンス特講							2	△			
					スポーツ医科学情報							2	△			
					スポーツ栄養のイノベーション							2	△			
					映像表現技法							2	△			
					視覚表現論							2	△			
					スポーツビジネス							2	△			
					コーチング論							2	△			
					コーチング実習							2	△			
					文化情報資源論（図書館）							2	△			
					文化情報資源論（博物館）							2	△			
					スポーツ文化の国際比較研究							2	△			
					スポーツと法							2	△			
					ライフステージと健康情報							2	△			
					スポーツの社会学							2	△			
					中期留学プログラム１							2	△			
					中期留学プログラム２							2	△			
					中期留学プログラム３							2	△			
					中期留学プログラム４							2	△			
					中期留学プログラム５							2	△			
					中期留学プログラム６							2	△			
					中期留学プログラム７							2	△			
					中期留学プログラム８							2	△			
								映像特殊実習				2	△			
								測定・調査実習				2	△			
								シナリオライティング実習				2	△			
								スポーツ総合実習				2	△			
自由選択修得要件単位となる科目		ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている，転換・導入科目，教養科目，外国語科目，文学部開講の専門科目。司書・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。												22		転換・導入科目，教養科目，外国語科目，専門科目の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入されます。
年次修得単位の目安		38			38			38			14			124		

日本文学文化学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
日本文学概論 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学概論 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 3	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 4	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 5	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講義 6	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 3	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 4	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 5	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 6	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学講義 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学講義 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
出版文化論 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
出版文化論 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
ビジュアル文化論	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
児童文学研究	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学講読	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 7	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化講義 8	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 3	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 4	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 5	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 6	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 7	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学研究 8	2	234	△	#	#	#	#	#	#
現代文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
現代文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
比較文学研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
比較文学研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
文藝創作 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
文藝創作 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学通史 1	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
日本文学通史 2	2	1234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学史 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
中国文学史 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 3	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 4	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 5	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 6	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 7	2	234	△	#	#	#	#	#	#
日本文化研究 8	2	234	△	#	#	#	#	#	#

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
アジア文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
アジア文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
マンガ研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
マンガ研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
比較文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
比較文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
伝統文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
伝統文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
演劇研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
演劇研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
現代文化研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
現代文化研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
映画研究 1	2	234	△	#	#	#	#	#	#
映画研究 2	2	234	△	#	#	#	#	#	#
書道 1	2	1234	△						
書道 2	2	1234	△						
書道 3	2	1234	△						
書道 4	2	1234	△						
書道 5	2	1234	△						
書道 6	2	1234	△						
書道史	2	23	△						
書道美学論	2	23	△						
ゼミナール 1	4	2	○						
ゼミナール 2	4	3	○						
ゼミナール 3	4	4	○						
卒業論文	8	4	○						

英語英米文学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
Reading 1	1	1		○	○				
Reading 2	1	1		○	○				
Composition 1	1	1		○	○				
Composition 2	1	1		○	○				
Speaking 1	1	1		○	○				
Integrated English 1	1	1		○	○				
Speaking 2	1	1		○	○				
Integrated English 2	1	1		○	○				
Listening 1	1	1		○	○				
Listening 2	1	1		○	○				
英語総合演習 1	2	2		○	○				
英語総合演習 2	2	2		○	○				
Speaking 3	1	2		○	○				
Speaking 4	1	2		○	○				
Advanced Reading 1	2	2		◎	◎				
Advanced Reading 2	2	2		◎	◎				
Advanced Reading 3	2	34		◎	◎				
Advanced Reading 4	2	34		◎	◎				
Advanced Composition 1	2	2		◎	◎				
Advanced Composition 2	2	2		◎	◎				
Advanced Composition 3	2	34		◎	◎				
Advanced Composition 4	2	34		◎	◎				
Advanced Speaking 1	2	34		◎	◎				
Advanced Speaking 2	2	34		◎	◎				
Advanced Listening 1	2	2		◎	◎				
Advanced Listening 2	2	2		◎	◎				
Advanced Listening 3	2	34		◎	◎				
Advanced Listening 4	2	34		◎	◎				
上級英語総合演習 1	2	34			◎				
上級英語総合演習 2	2	34			◎				
国際理解 1	2	234		◎	◎				
国際理解 2	2	234		◎	◎				
英語圏の歴史・社会・文化	2	234		◎	◎				
異文化交流	2	234		◎	◎				
英語プレゼンテーション 1	2	234		◎					
英語プレゼンテーション 2	2	234		◎					
通訳入門 1	2	2		○	△				
通訳入門 2	2	2		○	△				
翻訳入門 1	2	2		○	△				
翻訳入門 2	2	2		○	△				
通訳演習 1	2	34		◎					
通訳演習 2	2	34		◎					
翻訳演習 1	2	34		◎	△				
翻訳演習 2	2	34		◎	△				
翻訳演習 3	2	34		◎	△				
翻訳演習 4	2	34		◎	△				
Business & English 1	2	34		◎	◎				
Business & English 2	2	34		◎	◎				
Media English 1	2	34	#	◎	◎	#	#	#	#
Media English 2	2	34	#	◎	◎	#	#	#	#
Japan & the World 1	2	34		◎	◎				
Japan & the World 2	2	34		◎	◎				
英国・英語圏の文学と文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリス文学の世界	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
アメリカ文学の世界	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
米国・英語圏の文学と文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
文学作品と英語表現	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米の小説・詩・演劇	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米ポップカルチャー論 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米ポップカルチャー論 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英文法のしくみ	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語のしくみ	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語の音声	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語の変遷史	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリスの歴史と文化 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
イギリスの歴史と文化 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
アメリカの歴史と文化 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
アメリカの歴史と文化 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語教育の研究と実践 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語教育の研究と実践 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばと社会・文化	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
異文化コミュニケーション	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米映画論 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米映画論 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 3	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 4	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 5	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米文学文化特殊講義 6	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語学の諸問題 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英語学の諸問題 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばの獲得 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
ことばの獲得 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 3	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
英米研究特殊講義 4	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
外国語学習の科学 1	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
外国語学習の科学 2	2	234	#	◎	◎	#	#	#	#
特別総合講義	2	1234	#	△	△	#	#	#	#
中期留学 1	2	234		◎	△				
中期留学 2	2	234		◎	△				
中期留学 3	2	234		◎	△				
中期留学 4	2	234		◎	△				
中期留学 5	2	234		◎	△				
中期留学 6	2	234		◎	△				
中期留学 7	2	234		◎	△				
中期留学 8	2	234		◎	△				
Special Seminar	2	234	#	△	△	#	#	#	#
英語英米文学概論 1	2	1		○	○				
英語英米文学概論 2	2	1		○	○				
ゼミナール 1	2	3		○	○				
ゼミナール 2	2	3		○	○				
ゼミナール 3	2	4		○	○				
ゼミナール 4	2	4		○	○				
卒業研究	4	4		○	○				

哲学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
哲学概論1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
哲学概論2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
倫理学概論1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
倫理学概論2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
論理学概論1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
論理学概論2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
芸術学概論1	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
芸術学概論2	2	12	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（古代）	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（中世）	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（近代）1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（近代）2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（現代）1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
西洋哲学史（現代）2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
日本思想史1	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
日本思想史2	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
中国思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
アジア思想特殊講義1	2	234	#	#	#	△	#	#	#
インド思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
アジア思想特殊講義2	2	234	#	#	#	△	#	#	#
イスラム思想史	2	123	#	#	#	◎	#	#	#
アジア思想特殊講義3	2	234	#	#	#	△	#	#	#
日本の思想（近現代以前）	2	234	#	#	#	△	#	#	#
近現代の日本の思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#
日本の伝統芸能	2	234	#	#	#	△	#	#	#
精神分析学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
言語論	2	234	#	#	#	△	#	#	#
宗教学1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
宗教学2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
心の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
科学哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
社会の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
倫理の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
音楽論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
美術論1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
美術論2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語入門1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語入門2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語入門1	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語入門2	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語文献講読1	2	2	#	#	#	△	#	#	#

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
ギリシア語文献講読2	2	2	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語文献講読3	2	3	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語文献講読4	2	3	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語文献講読5	2	4	#	#	#	△	#	#	#
ギリシア語文献講読6	2	4	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読1	2	2	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読2	2	2	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読3	2	3	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読4	2	3	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読5	2	4	#	#	#	△	#	#	#
ラテン語文献講読6	2	4	#	#	#	△	#	#	#
ポップカルチャー論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
映像文化論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
パフォーマンス論	2	1234	#	#	#	△	#	#	#
哲学特殊講義1	2	234	#	#	#	△	#	#	#
哲学特殊講義2	2	234	#	#	#	△	#	#	#
哲学特殊講義3	2	234	#	#	#	△	#	#	#
哲学特殊講義4	2	234	#	#	#	△	#	#	#
哲学の手ほどき	4	1	#	#	#	○	#	#	#
ことばの哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
論理の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
文化の哲学1	2	234	#	#	#	△	#	#	#
文化の哲学2	2	234	#	#	#	△	#	#	#
フェミニズム思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#
哲学特殊講義5	2	234	#	#	#	△	#	#	#
現代思想	2	234	#	#	#	△	#	#	#
生命の哲学	2	234	#	#	#	△	#	#	#
社会学原論1	2	12	#	#	#	△	#	#	
社会学原論2	2	12	#	#	#	△	#	#	
憲法1	2	23	#	#	#	△	#	#	
憲法2	2	23	#	#	#	△	#	#	
現代社会論1	2	234	#	#	#	△	#	#	
現代社会論2	2	234	#	#	#	△	#	#	
現代文化論1	2	234	#	#	#	△	#	#	
現代文化論2	2	234	#	#	#	△	#	#	
家族の社会学1	2	234	#	#	#	△	#	#	
家族の社会学2	2	234	#	#	#	△	#	#	
ゼミナール1	4	2				○			
ゼミナール2	4	3				○			
ゼミナール3	4	4				○			
卒業論文	8	4				○			

歴史学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位 日本文学文化	英語英米文 英語コミュニケーション	英語英米文 英語文化	哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
日本史概説1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
日本史概説2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
アジア史概説1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
アジア史概説2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
欧米史概説1	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
欧米史概説2	2	12	#	#	#	#	◎	#	#
歴史資料研究法1	2	2					◎		
歴史資料研究法2	2	2					◎		
歴史資料研究法3	2	2					◎		
歴史資料研究法4	2	2					◎		
歴史資料研究法5	2	2					◎		
歴史資料研究法6	2	2					◎		
歴史資料研究法7	2	2					◎		
歴史資料研究法8	2	2					◎		
歴史資料研究法9	2	2					◎		
歴史資料研究法10	2	2					◎		
歴史資料研究法11	2	2					◎		
歴史資料研究法12	2	2					◎		
歴史資料研究法13	2	2					◎		
歴史資料研究法14	2	2					◎		
歴史資料研究法15	2	2					◎		
歴史資料研究法16	2	2					◎		
歴史資料研究法17	2	2					◎		
歴史資料研究法18	2	2					◎		
歴史資料研究法19	2	2					◎		
歴史資料研究法20	2	2					◎		
日本文化史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本文化史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
アジア文化史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
アジア文化史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
欧米文化史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
欧米文化史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
古墳からみた国家形成1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
古墳からみた国家形成2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本古代の国家と社会1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本古代の国家と社会2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本古代の国家と宗教1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本古代の国家と宗教2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本中世の法と政治1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本中世の法と政治2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本近世の政治と社会1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本近世の政治と社会2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
生きることの日本近代史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
生きることの日本近代史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位 日本文学文化	英語英米文 英語コミュニケーション	英語英米文 英語文化	哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
日本近代の政治と社会1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本近代の政治と社会2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
中国古代の国家と家族1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
中国古代の国家と家族2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
東アジア関係論1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
東アジア関係論2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
南アジア関係論1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
南アジア関係論2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
ヨーロッパの国家と民衆1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
ヨーロッパの国家と民衆2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
近代ヨーロッパの社会と政治1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
近代ヨーロッパの社会と政治2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
アメリカの人種と政治1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
アメリカの人種と政治2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義3	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義4	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義5	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義6	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義7	2	234	#	#	#	#	△	#	#
世界史講義8	2	234	#	#	#	#	△	#	#
東アジア考古学1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
東アジア考古学2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
日本の宗教と社会	2	234	#	#	#	#	△	#	#
イスラーム史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
イスラーム史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
ジェンダー史1	2	234	#	#	#	#	△	#	#
ジェンダー史2	2	234	#	#	#	#	△	#	#
古文書学概論1	2	12	#	#	#	#	△	#	#
古文書学概論2	2	12	#	#	#	#	△	#	#
考古学概論1	2	12	#	#	#	#	△	#	#
考古学概論2	2	12	#	#	#	#	△	#	#
総合世界史1	2	12					△		
総合世界史2	2	12					△		
総合世界史3	2	12					△		
総合世界史4	2	12					△		
考古学実習1	4	23					△		
古文書学実習	4	34					△		
考古学実習2	4	34					△		
ゼミナール1	4	2					○		
ゼミナール2	4	3					○		
ゼミナール3	4	4					○		
卒業論文	8	4					○		

環境地理学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
環境地理学概論及び調査法	4	1						○	
野外調査法1	4	2						○	
人文地理学概論1	2	12	#	#	#	#	#	◎	#
人文地理学概論2	2	12	#	#	#	#	#	◎	#
自然地理学概論1	2	12	#	#	#	#	#	◎	#
自然地理学概論2	2	12	#	#	#	#	#	◎	#
地誌学概論	2	12	#	#	#	#	#	◎	#
人文環境学調査法1	2	23						◎	
人文環境学調査法2	2	23						◎	
人文環境学調査法3	2	23						◎	
人文環境学調査法4	2	23						◎	
人文環境学調査法5	2	23						◎	
自然環境学調査法1	2	23						◎	
自然環境学調査法2	2	23						◎	
自然環境学調査法3	2	23						◎	
野外調査法2	4	34						◎	
都市環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
都市環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
農村環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
農村環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
歴史環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
歴史環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
社会環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
社会環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地誌学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
地誌学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地形環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
地形環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
気候環境学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
気候環境学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
地域生態学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
地域生態学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
環境地図学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
環境地図学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
空間情報学1	2	23	#	#	#	#	#	◎	#
空間情報学2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地域研究1	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地域研究2	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地域研究3	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地域研究4	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地域研究5	2	234	#	#	#	#	#	△	#
文化地理学	2	234	#	#	#	#	#	△	#
経済地理学	2	234	#	#	#	#	#	△	#
陸水学	2	234	#	#	#	#	#	△	#
地理情報システム実習1	2	234						△	
地理情報システム実習2	2	234						△	
リモートセンシング実習1	2	234						△	
リモートセンシング実習2	2	234						△	
測量学	2	234	#	#	#	#	#	△	#
応用測量学	2	234	#	#	#	#	#	△	#
測量学実習	4	234						△	
環境地理学特殊講義A	2	234	#	#	#	#	#	△	#
環境地理学特殊講義B	2	234	#	#	#	#	#	△	#
環境地理学特殊講義C	2	234	#	#	#	#	#	△	#
ゼミナール1	4	3						○	
ゼミナール2	4	4						○	
卒業論文	8	4						○	

ジャーナリズム学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
ジャーナリズム論	2	1	#	#	#	#	#	#	○
ウエブジャーナリズム論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
記録・史資料調査法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ライフステージと健康情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ総合実習	2	34							△
測定・調査実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
コンディショニングのための情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ医科学情報	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ心理の情報分析	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツの社会学	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コーチング論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ政策	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ政策	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツビジネス	2	234	#	#	#	#	#	#	△
文化情報資源論（図書館）	2	234	#	#	#	#	#	#	△
放送学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
映像ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
新聞学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
憲法とジャーナリズム	2	234	#	#	#	#	#	#	△
出版学	2	123	#	#	#	#	#	#	△
雑誌ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
PR論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
広告学	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズムとアーカイブ	2	123	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ概論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
言論法	2	2	#	#	#	#	#	#	○
ジャーナリズムの倫理	2	234	#	#	#	#	#	#	△
言葉とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
国際ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
教育とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
技術とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
市民とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
科学とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
娯楽とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
メディア・コミュニケーション史	2	123	#	#	#	#	#	#	△
メディア批評	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズム実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズム特講	2	34	#	#	#	#	#	#	△
インターンシップ	2	234							△
心理情報とメンタルマネジメント	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ情報戦略	2	234	#	#	#	#	#	#	△
現代社会とスポーツ	2	1234	#	#	#	#	#	#	△
事件・災害とジャーナリズム	2	234	#	#	#	#	#	#	△
現代社会とジャーナリズム	2	123	#	#	#	#	#	#	△
フォト・ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
政治ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
戦争ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
沖縄ジャーナリズム論	2	234							△
コンテンツ産業論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
情報アクセシビリティ論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ特講	2	34	#	#	#	#	#	#	△
中期留学プログラム1	2	234							△
中期留学プログラム2	2	234							△

科目名	単位	配当年次	○：必修，◎：選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位						
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム
				英語コミュニケーション	英語文化				
中期留学プログラム3	2	234							△
中期留学プログラム4	2	234							△
中期留学プログラム5	2	234							△
中期留学プログラム6	2	234							△
中期留学プログラム7	2	234							△
中期留学プログラム8	2	234							△
プロジェクトA	2	23							△
プロジェクトB	2	23							△
ゼミナール1	2	3							○
ゼミナール2	2	3							○
ゼミナール3	2	4							○
ゼミナール4	2	4							○
卒業論文・制作	6	4							○
情報表現実習（基礎）	2	1							○
情報表現実習（応用）	2	2							○
応用実習	2	2							○
ジャーナリズムの思想史	2	123	#	#	#	#	#	#	△
パブリックメディア論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
テキストメディア論	2	123	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ発達史	2	123	#	#	#	#	#	#	△
情報とスポーツ	2	1234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ文化の国際比較研究	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツと法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツ栄養のイノベーション	2	234	#	#	#	#	#	#	△
スポーツインテリジェンス特講	2	234	#	#	#	#	#	#	△
宗教とメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
経済ジャーナリズム論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ジャーナリズムとメディア	2	234	#	#	#	#	#	#	△
メディア技術の基礎	2	234	#	#	#	#	#	#	△
世論調査	2	234	#	#	#	#	#	#	△
メディアコンテンツ制作	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アニメーション論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
マンガ論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
調査報道論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
インタビュー論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コンテンツプロデュース	2	234	#	#	#	#	#	#	△
情報マーケティング	2	234	#	#	#	#	#	#	△
グラフィックデザイン	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ウエブデザイン	2	234	#	#	#	#	#	#	△
知的財産権	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ法制	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブマネジメント	2	234	#	#	#	#	#	#	△
デジタルアーカイブ	2	234	#	#	#	#	#	#	△
コーチング実習	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ライティング1	2	234	#	#	#	#	#	#	△
ライティング2	2	234	#	#	#	#	#	#	△
アーカイブ総合実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
記録・史資料調査実習	2	234	#	#	#	#	#	#	△
映像表現技法	2	234	#	#	#	#	#	#	△
視覚表現論	2	234	#	#	#	#	#	#	△
文化情報資源論（博物館）	2	234	#	#	#	#	#	#	△
映像特殊実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△
シナリオライティング実習	2	34	#	#	#	#	#	#	△

第４章

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について

Ⅰ　科目設置の趣旨と教育の目的

Ⅱ　文学部で取得できる資格について

Ⅲ　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目

Ⅳ　文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

Ⅴ　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料

Ⅰ　科目設置の趣旨と教育の目的

現代社会におけるスポーツは，それ自身が目覚ましい発展を遂げたばかりでなく，極めて大きな社会的影響力を持つようになっています。今やスポーツは，政治的，経済的，さらに文化的にも，人々の生き方や暮らし方に重要な影響を与えています。人々のスポーツへの関わり方は，単に「する」立場だけでなく，スポーツを「みる」立場，そしてスポーツを「ささえる」立場へとその領域を大きく広げています。

このスポーツの世界において，情報が一つの鍵を握るようになっています。情報（Intelligence）は「ある特定の目的について適切な判断を下し，行動の意思決定をするために役立つ資料や知識」と定義づけられており，スポーツにおいては各種メディアで報じられているスポーツニュースをはじめ，自ら撮影した競技映像，試合後に公式発表される競技結果，現在では情報を分析する専門のアナリストも存在し，パフォーマンスの向上やゲーム分析など，情報の利用は活発に行われています。

文学部ジャーナリズム学科に設置されたスポーツインテリジェンス分野では，このようなスポーツフィールドに散在する様々な情報を，科学的な手法を通じて高次の情報，すなわちインテリジェンスへ分析・加工し，そのインテリジェンスをスポーツフィールドへ正しく還元できる能力を身につけるための授業を展開しています。コーチング，スポーツコンディショニング，情報戦略，メンタルマネジメント，健康，医・科学，栄養，法制，文化国際比較など，スポーツを取り巻く幅広い領域の科目が用意されています。そしてこれらの学びを通し，情報をキーワードとしてスポーツに幅広い視点から関わっていくことのできる人材を育成することを目的としています。また，これらの科目を履修し単位を修得することで，日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者」の共通科目Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの申請をすることができます（免除適応コース）。

当該科目を履修することは，単に自らの競技力向上に結び付けるだけではありません。自ら学び身に付けたことを，将来，どのように社会に対して還元できるかという立場から，応用力や人間力の獲得をも意識する必要があります。2019 年度に改定された日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度では，「人間力」と称する「思考・判断（スポーツの意義と価値の理解，コーチングの理念・哲学等）」と，「態度・行動（対自分力，対他者力）」に関する内容の比重が，以前よりも増やされています。このことからもわかるように，プログラムは必ずしもトップアスリートの育成や運動能力の向上のためだけではなく，スポーツを通して「より良い生き方」，「生きがい」を探究するとともに，将来的にスポーツを通じた社会貢献に繋がることも期待されています。将来の自らの姿を想像しつつ，明確な目標を持って授業に参加してくれることを願っています。

Ⅱ　文学部で取得できる資格について

文学部では所定の単位を修得することにより，日本スポーツ協会のコーチングアシスタント（スポーツ指導者基礎資格）を申請することができます。また，その後の上位講習を受講することにより取得できる，「競技別指導者資格」や「フィットネス資格」，「マネジメント指導者資格」といった各種資格取得に必要な『共通Ⅰ』『共通Ⅱ』『共通Ⅲ』の講習・試験の一部またはすべてが免除されます。

上記の資格取得あるいは免除適応を受けるためには，事前に日本スポーツ協会のホームページより「マイページ」の登録及びリファレンスブックを購入する必要があります。また，指定された時間数を満たすよう，単位を修得する必要があります。修了判定については，検定試験（オンラインテスト）に合格した後，日本スポーツ協会から資格登録手続の案内がありますので，各自資格登録手続きを行ってください。この手続きを行わないと適応コースを修了したことにはなりません。

Ⅲ　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目

⑴　履修上の注意

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得に必要な科目は，文学部ジャーナリズム学科の専門科目として設置されており，文学部全学科の学生が履修することができます。ただし，文学部ジャーナリズム学科以外の学生がこれらの科目の単位を修得した場合には自由選択修得要件単位に算入されます。

〈日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目一覧〉

科目名	単位	配当年次	△：専門選択　＃：自由選択修得要件単位							備考
			日本文学文化	英語英米文		哲	歴史	環境地理	ジャーナリズム	
				英語コミュニケーション	英語文化					
コーチング論	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツ政策	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツの社会学	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
ライフステージと健康情報	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
コーチング実習	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
コンディショニングのための情報分析	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツ医科学情報	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツ栄養のイノベーション	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツ心理の情報分析	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツと法	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツビジネス	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
現代社会とスポーツ	2	1234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
心理情報とメンタルマネジメント	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
スポーツ情報戦略	2	234	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	
測定・調査実習	2	34	＃	＃	＃	＃	＃	＃	△	

公認スポーツ指導者養成講習会共通科目コース免除申請 科目内容対応表

【共通科目Ⅲコース】

共通科目内容	免除申請内容		
	科　目　名	時間(h)	時間計(h)
コーチングを理解しよう	コーチング論	6	80
1．コーチングとは	コーチング実習	4	
2．コーチに求められる役割	コンディショニングのための情報分析	4	
3．コーチに求められる知識とスキル	ライフステージと健康情報	10	
4．対他者力を磨こう	測定・調査実習	18	
5．対自己力を磨こう	心理情報とメンタルマネジメント	2	
6．スポーツの意義と価値	スポーツ心理の情報分析	2	
7．スポーツの価値を守るスポーツ権	スポーツ医科学情報	2	
8．スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー	スポーツの社会学	2	
9．暴力・ハラスメントの根絶	スポーツ政策	10	
10. スポーツのインテグリティ	スポーツと法	20	
11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任			
12. スポーツ仲裁			
13. スポーツ倫理			
14. 時代をリードするコーチング			
グッドコーチに求められる医・科学知識	コーチング論	2	144
1．スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	コーチング実習	20	
2．体力のトレーニング	コンディショニングのための情報分析	20	
3．スキルトレーニング	測定・調査実習	4	
4．心のトレーニング	ライフステージと健康情報	2	
5．スポーツと栄養	スポーツ心理の情報分析	18	
6．スポーツに関連する医学的知識	心理情報とメンタルマネジメント	22	
7．アンチ・ドーピング	スポーツ医科学情報	26	
	スポーツ栄養のイノベーション	30	
現場・環境に応じたコーチング	コーチング論	2	70
1．コーチング環境の特徴	ライフステージと健康情報	6	
2．ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	測定・調査実習	2	
3．スポーツ組織のマネジメント	スポーツ心理の情報分析	4	
4．障がい者スポーツ	心理情報とメンタルマネジメント	6	
	現代社会とスポーツ	12	
	スポーツの社会学	12	
	スポーツ情報戦略	20	
	スポーツビジネス	6	
		合計	294

資格取得申請を行うためには，総時間数と「コーチングを理解しよう」の時間数が以下の時間数を超えている必要があります。

	総時間数	コーチングを理解しよう
共通科目Ⅰ	45 時間	16 時間
共通科目Ⅱ	135 時間	46 時間
共通科目Ⅲ	150 時間	51 時間

⑵　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連科目概要

コーチング論

コーチングはあらゆる分野において，目的を達成するための手段の一つであり，人々が充実し満足した生活を送ることを手助けするものである。近年，様々な分野でコーチングが注目されており，教育現場や社会人教育に活用されている場面も多く見られる。本科目では，スポーツ現場に着目したコーチングの事例を参照にして授業を展開し，コーチングについて基本的な考え方を理解し，また国内外のスポーツの現場でのさまざまな応用・実践事例を取り上げてコーチングについて考察を進める。

スポーツ政策

現在，日本のスポーツ界は大きな変革の最中にある。2001 年度のスポーツ振興基本計画に始まった初期の変革は，10 年後のスポーツ基本計画へと引き継がれ，2015 年にはスポーツ庁が文部科学省の外局として設置されるに至っている。その間，国の施設として国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターが稼働し，また呼応するように地域においてもスポーツの変革が始まっている。本科目ではこれらのスポーツ政策立案過程にまつわる動きについて多大に影響を与えた情報（インテリジェンス）の役割を中心に講義を展開し，スポーツと政治の関係性について考えていく。

スポーツの社会学

現代において，スポーツは社会現象あるいは文化現象となるほど多大な影響力を有するメインカルチャーとなっている。スポーツは現在では社会経済への貢献や政治的機能の遂行，地域社会の活性化や社会統合など多くの社会的機能までも求められ，実際にそれらの機能を果たしている。本科目では現代スポーツの持つ社会的機能や役割について体系的に学修するとともに，スポーツを巡る様々な社会的問題点や課題について事例を紹介し，スポーツが社会の発展に寄与するためにどうあるべきかについて議論する。

ライフステージと健康情報

生涯にわたる健康の保持・増進に人々の関心が集まり，メディア等で見聞きする機会が多くなっている。身体活動や運動が健康に良い影響を及ぼすという科学的根拠も数多く発表され，スポーツが心，身体，文化的側面にもたらす効果への期待も高まっている。健康的な生活を実現するためには，人々の体験談やメディアなどから溢れる「健康」にまつわる正しい情報をライフステージにあわせて身につけ実践する必要がある。本科目では多様で広範な科学の諸分野から健康に関する情報を整理し，身近で優先度の高い課題を取り上げて理論と組み合わせて実践を試み，「健康」という言葉をキーワードとして過去，現在，そして未来の自分自身の健康について考えていく。

コーチング実習

一人ひとり異なる選手の能力・性格を見極め，本人が持つ潜在能力や可能性を引き出す「コーチング」について，実習を用いてチャレンジする。本科目では，指導計画，準備方法など，現場で必要なことについて学習し，実際に実践できる能力を身につけることを狙いとする。さらに，チームビルディング，思考力，問題解決力，自発的行動，コミュニケーションなどのスキルと，コーチングの考え方を実践より学び，より優れた各種プランの立案と，そのプランをマネジメントできるスキルを身につけることを狙う。

コンディショニングのための情報分析

ジャーナリズム活動の基礎も当然ながら，心と身体を健全に保つことから始まる。それは，健康で豊かな生活を送るためには，運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得して健康の保持・増進に努めること，体力値を高めることにほかならない。そのためにはまず現時点での自分の身体の「状態（コンディション）」を知ること，そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための「方策（トレーニング）」を学び，良い方向に向かっていく「コンディショニング」が大切である。本科目では，自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートし，環境や運動の刺激に対する人体の適応性を利用し，自分の「心」と「身体」の変化に気づき，「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得，継続することを目的とする。

スポーツ医科学情報

現代におけるスポーツ医科学の研究範囲は拡大し進歩し続けている。アスリート対象の研究として近年では競技分析やスキル分析，戦術・戦略分析の分野の研究が盛んに行われるようになり，スポーツ医科学の活用が競技成績を大きく左右する要因となっている。その一方，健康の維持・増進としてのスポーツについても同様に研究が進んでおり，実際に住民の医療費削減や生活の質的向上といった成果につながっていることが報告されている。本科目では，スポーツ医科学の最前線の情報を，スポーツ医学，ライフサイエンス，スポーツサイエンスの切り口から紹介する。

スポーツ栄養のイノベーション

人が生活を維持していくうえで，いかにコンディションを整えるかが重要であるかは言うまでもない。その究極の一例がアスリートで，トレーニングや試合でベストコンディションを維持するためには，栄養・食事に対する意識を高め，運動量や目的に合わせた食事の調整を身につける必要がある。本科目では，日常の栄養補給の理論とそれに基づく食事の知識，また栄養に関するイノベーションについて情報提供を行う。食生活における自己管理とは何か，栄養がヒトの何を変えるのか，実際の国際競技会などを例に，どのような栄養摂取戦略がなされているのかなど栄養のイノベーションについて学習する。

スポーツ心理の情報分析

人間が行動を起こす際には「心」が深く関わる。その典型例として，スポーツにおいても「心」の動きによって，成績が大きく変化してしまうことがある。本科目では，スポーツにおける人の行動を心の面から探り分析していくことで，人間行動を探求する。心を人の動きなどから探ったり，技術が向上する過程を様々な角度から科学的・客観的に分析・評価することによって，「心」と「身体」との関連を深く理解することを学ぶ。

スポーツと法

スポーツ法学は，日本ではスポーツ活動中の事故をめぐる責任問題を中心に発展してきた。しかし，スポーツが世界的メインカルチャーに成長してきた昨今，差別や人権問題，肖像権，選手選考，プロ・スポーツ選手の契約，スポーツビジネスにおける権利，紛争解決など多様な法的問題が発生するようになった。そのために，そのようなスポーツと法の関わりに対して関心が高まっている。本科目では，スポーツ法学全体像を把握するために，まず，スポーツ法とは何か，スポーツ法学の対象等について理解し，次に，スポーツ界で起きているさまざまな事例を通じて，学校体育・スポーツ，地域スポーツからオリンピックやプロ・スポーツにいたるあらゆるスポーツの場面においてスポーツが直面している法的問題について学習する。

スポーツビジネス

現在，国内外のプロスポーツは，野球をはじめサッカー，ゴルフ，バスケットボールなど一般的にプロフェッショナルと呼ばれている選手に加え，オリンピックに出場するような選手の中にも自分の競技以外に職を持たずに生活をしている人々をも対象としている。また，アスリート自身のみでなく，指導者やトレーナーにもプロフェッショナルが生まれている。本科目では，最新の国内外のスポーツビジネス情報や，ユニークな取り組み情報などを提供しスポーツビジネスに関する基礎から応用まで幅広く取り上げて講義を展開していく。

現代社会とスポーツ

現代社会において，スポーツは著しい発展を遂げている。テレビや新聞などのメディアでスポーツが報道されない日はなく，更にはインターネット・メディアにおいてもスポーツに関する膨大な映像コンテンツが配信されており，スポーツは今やメディアが注目する最大のコンテンツに成長した。また，スポーツはアスリートの華やかな活躍のみならず，健康の維持・増進，スポーツが有する公共性や求心力，地域住民のコミュニティ推進など，現代社会に欠かすことのできない文化でもあり，市民生活の中でもその価値は高まっている。本科目はジャーナリズム活動を行うための基礎教養として，様々な事例をもとに市民社会におけるスポーツが有するポテンシャルについて理解を進め，スポーツの価値をジャーナリズムの観点から深く考察する。

心理情報とメンタルマネジメント

近年，スポーツ競技において，精神的な能力の発揮が競技成績を左右する重要な鍵となっている。これらはスポーツ心理学の分野で研究され実践された知見をもとに問題の本質を特定し，その特性を理解することが重要である。本科目では，スポーツをする人にとっての心理的な課題の具体的な解決方法について実際に体験し，心をマネジメントするための手段を探る。こうした心の自己管理は，スポーツ分野にかかわらず，多くの市民生活の局面において，役立つものである。

スポーツ情報戦略

情報とは，ある特定の目的について適切な判断を下し，行動の意志決定をするために役立つ資料や知識のことである。一方，戦略とは，目的達成のためのシナリオ，である。これらのことから，競技スポーツにおける情報戦略とは，競技力向上に有用な情報を戦略的に活用しようとする営み，ということができる。スポーツではさまざまな階層で意志決定が行われており，扱われる情報の範囲は広い。本科目では，競技スポーツにおける情報戦略について，その必要性と役割について学ぶ。そこでは，実例や具体的なケースをもとにスポーツにおける情報戦略のプロセスについて，情報の収集から加工，提供と活用までの範囲について学習する。

測定・調査実習

身体情報に関わる数多くの情報を取捨選択し，正しい判断を行うには主としていままでの経験に基づく「主観的」な情報とあわせて，測定・調査から得られる「客観的」な情報・評価が求められる。本実習では，身体情報に関する測定・調査を，(1) 体力・運動能力に関わる領域，(2) 身体活動に関わる領域，(3) 形態計測に関わる領域の３群に分け，それぞれの群の実習を行う。測定機器は日々進化し，測定項目も多岐にわたっている事から，ウェアラブル機器やアプリを使用した測定や競技種目特有の測定項目やテスト開発についても実習を行う。

Ⅳ　文学部と日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

⑴　スポーツ指導者に求められているもの

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の詳細については後ほど述べますが，漫然と単位を修得しただけでは資格は与えられません。なぜなら，日本スポーツ協会が考えている公認スポーツ指導者とは常にプレーヤーを最優先するというスタンスで，スポーツ医・科学の知識を活かし，「スポーツを安全に，正しく，楽しく」指導し，「スポーツの本質的な楽しさ，素晴らしさ」を伝えることのできる者であり，

◎ スポーツに初めて出会うどもたちが，安心してスポーツ活動を楽しめるようサポートすること
◎ どの年代からでも，スポーツを始められるようサポートすること
◎ 生涯を通じてスポーツを楽しむ方法や機会を提供すること
◎ スポーツの経験がない人でも「スポーツ愛好家」に導くようサポートすること
◎ 技能をもっと高めたいという，ジュニアからトップレベルまでの競技者の願いが実現するようサポートすること
◎ スポーツを通して人間としてのマナー，エチケットなど豊かな人間性を涵養すること

が求められ，公認スポーツ指導者は，日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに，「仲間と楽しく行いたい」，「うまくなりたい，強くなりたい」さらに「健康になりたい，長生きしたい」という欲求に応えられるよう，その実現に向けて「サポートする」活動を通して，望ましい社会の実現に貢献するという役割を持つ。

また，常に自己研鑽を図り，自ら成長・発展するとともに，社会的評価を得られるよう努力することが重要である。（いずれもリファレンスブックより）

とされています。

⑵　スポーツ指導者になるためには

① 本学で修得できる単位

スポーツといっても非常に多様なものがあるのはご存じの通りです。前項であげた指導者になるためには，どの分野のどの科目を履修していなければならないか，後ほど掲げる日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料をよく読んでください。なおそこには共通Ⅰ，Ⅱ，Ⅲなどと書かれていますが，これはP.166に記載の時間数を超える必要があります。

従ってP.166の各科目をいかに履修するか，そしてどの資格を考えていくかを十分検討してください。

② 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の資格別専門科目について

本学では専門科目は開講していません。専門科目の修得については指導者となりたい競技団体にお問い合わせください。

③ 指導者の登録

指導者となるためにはカリキュラムを履修するだけでなく，日本スポーツ協会に登録する必要があります。登録料も競技によって異なりますので，日本スポーツ協会のホームページで確認してください。

⑶ 登録の更新

指導者であり続けるためには４年に１回更新を行う必要があります。その際研修受講を義務づけている競技団体がほとんどです。資格によって４年に１回研修受講をすればよいもの，２年に１回研修受講が必要なものなど異なりますので確認をしてください。

⑷ 期待される将来の進路

スポーツフィールドに横たわっているデータを有益な情報へと加工し，スポーツフィールドをより良く変えるために指導者・専門家を目指すのはもちろん，五輪ボランティア，スポーツメディアの分野などで生かすことができる内容になっています。将来のキャリア形成を視野に入れ，学んでほしいと考えています。また，スポーツアナリスト，スポーツインストラクター，フィットネスクラブの指導者・経営者になることはもちろん，広い意味でのスポーツ業界（プロリーグのフロント，マネージャー，スポーツ用品メーカーなど）への就職も視野に入れることができます。

V　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度関連資料

・公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト

日本スポーツ協会及び加盟団体等は，スポーツ文化を豊かに享受するというすべての人々がもつ基本的な権利を保障するため，ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を公認スポーツ指導者として育成し，望ましい社会の実現に貢献する。

・公認スポーツ指導者とは

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し，プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し，常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して，豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる方です。

公益財団法人日本 スポーツ協会公認スポーツ指導者登録規程

（趣旨）

第１条　本規程は，公益財団法人日本スポーツ協会（以下「JSPO」という。）公認スポーツ指導者制度第６条に基づき，公認スポーツ指導者の登録及び認定に関することについて定める。

（登録）

第２条　登録は，次の条件のいずれかを満たしたとして JSPO が認めた者が個人で申請するものとする。

(1) 公認スポーツ指導者養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し，公認スポーツ指導者として必要な資質能力を身に付けた「新規登録」対象者

(2) 公認スポーツ指導者として認定されている者のうち第６条に定める「更新登録要件」を満たした「更新登録」対象者

(3) その他，登録の要件を満たした者として JSPO が特別に認めた者

２．前項の定めにかかわらず，以下に定める者については，公認スポーツ指導者として登録することができない。

(1) JSPO 倫理規程又は JSPO 登録者等処分規程に基づく処分を受け，その後の再教育プログラムを修了していない者

(2) 反社会的勢力（暴力団，暴力団員，暴力団員でなくなった時から５年を経過しない者，暴力団準構成員，暴力団関係企業，総会屋等，社会運動等標ぼうゴロ又は特殊知能暴力集団，その他これらに準ずる者をいう。）

３．公認スポーツ指導者としての登録の有無にかかわらず，過去４年間において JSPO 倫理規程第４条又は JSPO 登録者等処分規程第３条に定める遵守事項に違反する行為を行ったが，当該行為に対して JSPO 倫理規程又は JSPO 登録者等処分規程に基づく処分を科せられていない者については，公認スポーツ指導者としての登録を拒絶することができる。

４．登録は，公認スポーツ指導者制度に定める資格毎に行うものとする。

５．登録にあたっては，第３条に定める登録料を納めるものとする。

（登録料）

第３条　登録料は，全資格者共通の基本登録料及び資格毎に設定する資格別登録料の合計金額とする。

２．前項に加え資格毎に，その初回の登録に際して初期登録手数料を納めるものとする。なお，第７条第６項に基づく「復活登録」に際しても初期登録手数料を納めるものとする。

３．公認スポーツ指導者として認定されている者が新たな資格を登録する場合（以下「資格追加」という。）は，前項の初期登録手数料に加え，新たな資格の資格別登録料を納めるものとする。新たな資格がすでに認定されている資格（以下「既認定資格」という。）と同一競技・種目における

上位資格の場合（以下「資格昇格」という。）の資格別登録料は，昇格前と昇格後の資格別登録料の差額とする。

なお，第５条に基づく当該資格の有効期間が４年間に満たない場合の資格別登録料は，当該期間に応じた金額とする。

４．基本登録料，資格別登録料及び初期登録手数料の金額は別に定める。

５．登録料を変更する際は，事前に告知するものとする。

（手続き・認定日）

第４条　登録に係る手続き（以下「登録手続き」という。）及び認定予定日は，第２条第１項に定める対象者に対し JSPO が案内する際に明示するものとし，認定予定日以前の所定の期間内に登録手続きを完了した場合，当該予定日を認定日とする。

２．所定の期間内に登録手続きを完了しない場合は，登録する権利を失うものとする。 ただし，第６条及び第７条に定める要件を満たした場合は，登録する権利を与えるものとする。

３．JSPO が，第２条第１項第１号に定める「新規登録」対象者について，JSPO 倫理規程第４条に違反する疑いにより調査を開始した場合は，同倫理規程第５条に基づく処分がなされ，あるいは，同条に基づく処分をしない決定がなされ，この処分・決定が確定するまでの間，当該対象者の登録手続きは完了しない。

４．「新規登録」対象者が，前項の規定に基づき，所定の期間内に登録手続きが完了しない場合は，所定の登録手続きの終期は調査終了日まで延長される。

５．認定の起算日は，４月１日又は 10 月１日とする。

（有効期間）

第５条　資格の有効期間は認定日から４年間とする。

２．公認スポーツ指導者として認定されている者が新たな資格を登録する場合（「資格追加」又は「資格昇格」）は，当該資格の認定日から既認定資格の有効期限までを当該資格の有効期間とする。ただし，当該資格の認定予定日と既認定資格の「更新登録」に伴う認定予定日が同日の場合の有効期間は，当該資格の認定日から４年間とする。

３．JSPO 登録者等処分規程第 22 条に基づき「資格停止」処分を科された場合の有効期限は，停止期間に関わらず変更しない。

（更新登録要件）

第６条　有効期間満了に伴う「更新登録」にあたっては，有効期限の６か月前までに，資格毎に JSPO 又は JSPO 加盟団体等の定める更新研修を修了するなどの要件を満たさなければならない。

２．更新登録の要件を満たした場合は「更新登録」の対象となる。

３．JSPO 登録者等処分規程に基づく再教育プログラムの受講は，更新登録の要件として認めない。

録料の差額とする。

なお，第５条に基づく当該資格の有効期間が４年間に満たない場合の資格別登録料は，当該期間

に応じた金額とする。
4．基本登録料，資格別登録料及び初期登録手数料の金額は別に定める。
5．登録料を変更する際は，事前に告知するものとする。

（保留・無効）
第７条　第４条に定める登録手続きを行わなかった場合，「新規登録」（「資格追加」又は「資格昇格」を含む）の場合は「未登録」，「更新登録」の場合は「未更新」として当該資格の認定を「保留」とする。
2．「保留」とする期間は最短６か月間，最長１年間とする。
3．「未登録」の場合，「保留」期間中は登録する権利が与えられ「新規登録」の対象となる。
4．「未更新」の場合，「保留」期間中の認定起算日前日の６か月前までに前条に定める更新登録要件を満たした場合は，登録する権利が与えられ「再登録」の対象となる。
5．「保留」期間を超過した場合は，登録する権利を「無効」とする。
6．「無効」の場合は，資格毎に JSPO 又は JSPO 加盟団体等の定める復活登録要件を満たすことにより，登録する権利が与えられ「復活登録」の対象となる。
7．JSPO 登録者等処分規程第 22 条に基づき「資格停止」処分を科された場合は，処分の効力発生日から再教育プログラムを修了し資格が回復するまでの期間，当該資格を登録する権利を「無効」とし，資格回復時は，当該資格の有効期限に応じて前各項の規定に基づくものとする。

（辞退）
第８条　第５条に定める有効期間内に，資格の「辞退」を希望する場合は，JSPO 所定の方法により公認スポーツ指導者本人又は代理人が手続きするものとし，本人の意思を確認できる場合に限り受理する。
2．「辞退」の理由がいかなる場合であっても，納入済の登録料は返還しない。
3．「辞退」した資格の登録を再び希望する場合，当該希望日が「辞退」時点の資格有効期限前の場合は，再び当該有効期限まで公認スポーツ指導者として認定する。当該希望日が「辞退」時点の資格有効期限を超過している場合，当該有効期限から１年以内の場合は第７条第４項，１年経過している場合は第７条第６項に定める要件を満たすことにより，登録する権利が与えられ，それぞれ「再登録」，「復活登録」の対象となる。
4．公認スポーツ指導者として認定されている者に対して，JSPO 登録者等処分規程第３条に定める遵守事項に違反する疑いにより JSPO が事実調査を開始した場合は，同登録者等処分規程第 22 条に基づく処分がなされ，あるいは，同条に基づく処分をしない決定がなされ，この処分・決定が確定するまでの間，当該指導者からの「辞退」申請は受理しない。

（登録証・認定証）
第９条　第４条に定める登録手続きを完了した者を公認スポーツ指導者として認定し，「登録証」を交付する。

2．資格毎にその初回の登録に際しては，「認定証」を交付する。ただし，スポーツドクター及びスポーツデンティストは，「更新登録」に際しても，「認定証」を交付する。
3．前２項の定めにかかわらず，登録手続き時に指導者マイページにおいて「登録証」及び「認定証」の発送を希望しない旨を回答した場合は，発行しないものとする。
4．資格の有効期間中は，指導者マイページにおいて「登録証」及び「認定証」を表示することができる。

（登録番号）
第 10 条　公認スポーツ指導者には，「新規登録」対象者となった時点から７桁の数字を用いた登録番号を付与する。

（個人情報等）
第 11 条　公認スポーツ指導者の個人情報は，JSPO 個人情報保護方針に基づき，JSPO 及び JSPO 加盟団体等にて共同利用する。
2．その他，個人情報の取り扱いの詳細については，別に定める。

（各種サービス）
第 12 条　公認スポーツ指導者として認定されている者は，公認スポーツ指導者制度第７条に定める権利をはじめとする各種サービスについて，JSPO が指定する方法により受けることができる。
2．JSPO は，各種サービスや関連規程等の変更が生じた場合，公認スポーツ指導者が登録した住所や電子メール宛の発信，指導者マイページ・JSPO オフィシャルサイト上での掲示，JSPO が発行する情報誌での掲載等の JSPO が適当と認める方法で公認スポーツ指導者に通知することとする。
3．前項の通知が電子メールで行われる場合，JSPO は，公認スポーツ指導者が登録した電子メールアドレス宛に発信した時点をもって公認スポーツ指導者への通知が完了したものとみなすこととし，公認スポーツ指導者は，JSPO が電子メールで発信した通知を遅滞なく閲覧する義務を負うものとする。
4．JSPO は，以下のいずれかに該当する事象が発生した場合，公認スポーツ指導者に事前に通知する事なく，一時的にサービスの提供を中断することがある。
(1) サービスを提供するため，システムを定期的若しくは緊急に保守点検するとき
(2) 天災，火災，停電，暴動，サーバーの停止等により，JSPO がサービスを提供できず若しくは提供が困難となったとき
（3）JSPO がサービスの運営上又は技術上の判断により，サービスの一時的な中断が必要と判断したとき
5．JSPO は，前項に定めるサービスの提供の中断により，公認スポーツ指導者又は第三者に損害が発生してもこれを賠償する責務を負わないものとする。

（登録情報の変更）

第 13 条　公認スポーツ指導者は，住所，連絡先等の登録情報に変更があった場合，指導者マイページ，書面，電話等により直ちに JSPO 又は JSPO 加盟団体等に届け出なければならない。

２．前項の届け出がないために，JSPO 又は JSPO 加盟団体等からの通知等が延着し，又は到達しなかった場合は，前条第３項の場合を除き，通常到着すべきときに到達したとみなされることを予め異議なく承認するものとする。

３．第１項の届け出を怠ったことによる公認スポーツ指導者の損害について，JSPO 又は JSPO 加盟団体等は一切の責任を負わないものとする。

４．公認スポーツ指導者は，登録情報等の届け出た内容に間違いがあった場合に，必要な範囲において何ら通知することなく JSPO 又は JSPO 加盟団体等が当該届出内容の変更を行うことを了承するものとする。

（その他）

第 14 条　公認スポーツ指導者資格のうちスポーツリーダーの認定及び認定に伴う登録に関することについては，別に定める。

２．JSPO が認めた一部の資格・競技の認定及び認定に伴う登録に関することについては，当該資格・競技を協同認定する JSPO 加盟団体等の定めによるものとする。

（変更）

第 15 条　本規程は，JSPO 指導者育成委員会の議決により変更することができる。

（雑則）

第 16 条　本規程に定めるほか，登録に関して必要な事項は，別に定めることができる。

附　則　本規程は，平成元年４月１日から施行する。

本規程は，平成７年 10 月１日から施行する。

本規程は，平成 17 年４月１日から施行する。

本規程は，公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。

本規程は，平成 26 年７月 23 日から施行する。

本規程は，平成 30 年４月１日から施行する。

本規程は，平成 31 年４月１日から施行する。

本規程は，令和元年６月 21 日から施行する。

本規程は，令和２年４月１日から施行する。

本規程は，令和４年４月１日から施行する。

本規程は，令和５年１月１日から施行する。

日本スポーツ協会が加盟団体等と養成するスポーツ指導者の分類と役割

年齢（発育発達段階）や技能レベル，興味や志向など多様なスポーツ活動に対応するため，指導対象や活動拠点を考慮し5領域17種類の指導者資格に分類されています。

⑴　スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして，基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

これからスポーツに関する正しい知識を学ぼうとする方々や，既にスポーツ指導に携わっているが時間的な制約などから講習会に参加できなかった方々もチャレンジしやすい受講システムとなっています。本制度における基礎資格として位置づけており，資格取得後は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく，競技別指導者資格やフィットネス資格などへとステップアップしていただくための資格でもあります。スポーツ推進委員の方々にもぜひ取得していただきたい資格です。

⑵　コーチングアシスタント

地域におけるスポーツグループやサークル等において，上位資格者を補佐する者として，基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

⑶　競技別指導者

ア．コーチ１

地域スポーツクラブ等において，スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に，競技別の専門的な知識を活かし，個々人の年齢や性別など指導対象に合わせた指導にあたる方のための資格です。特に発育発達期の子どもに対しては，総合的な動きづくりを主眼に置き，遊びの要素を取り入れた指導ができるようにカリキュラムを構成していることから，スポーツ少年団などで小学校期の子どもたちの競技別指導にあたる方にはぜひ取得していただきたい資格です。

イ．コーチ２

地域スポーツクラブ等において，年齢，競技レベルに応じた指導にあたる方のための資格です。また，地域スポーツクラブなどが実施するスポーツ教室の事業計画立案などを学ぶことができるので，クラブ内指導者の中心的な役割を担う方，広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にもあたる方，指導員を育成する立場の方にぜひ取得していただきたい資格です。

ウ．コーチ３

各競技団体の都道府県レベルにおける競技者育成を担当する方のための資格です。広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において，有望な競技者の育成にあたる方，広

域スポーツセンターの巡回指導に協力する方，国民体育大会の監督にあたる方など高いレベルの実技指導をする方にはぜひ取得していただきたい資格です。

工．コーチ４

国際大会等の各競技会における監督・コーチとして，競技者が最高の能力を発揮できるよう，強化スタッフとして指導にあたるなど，中央競技団体におけるナショナルレベルのトップコーチのための資格です。各競技団体のナショナルレベルのトレーニング拠点などにおいて，各年代で選抜された競技者の育成強化や各競技団体で競技力向上策の開発に参画する方などにぜひ取得していただきたい資格です。

オ．教師

民間商業スポーツ施設やスポーツクラブなどにおいて，競技別の専門的指導者として，質の高い指導を行う方のための資格です。スポーツクラブ会員（顧客）が支払うメンバーフィー（対価）にふさわしい指導能力，個々人の年齢や性別，技能レベルや志向に合わせた実技指導能力を得ることができます。

カ．　上級教師

民間商業スポーツ施設やスポーツクラブなどにおいて，競技別の専門的指事者のチーフインストラクターとして，実技指導にあたるとともに，各種事業に関する計画の立案，指導方針の決定など中心的な役割を担う方のための資格です。地域スポーツ経営のためのコンサルティング及び経営受託の企画・調整なども学ぶことができます。

⑷　スポーツドクター

スポーツ関係臨床医として，スポーツ医・科学に関する知識を有し，スポーツマンの健康管理と競技力向上の援助，スポーツ外傷・障害の診断，治療，予防などにあたる方のための資格です。競技会等における医事運営やチームドクターとしてのザポートなど，スポーツ活動を医学的な立場からサポートする方の資格です。

⑸　スポーツデンティスト

スポーツドクターやコーチ等との緊密な連携の下，歯科医師の立場からスポーツマンの健康管理，スポーツ外傷・障害の診断，治療，予防などにあたる方の資格です。様々なスポーツの現場においてアスリートのパフォーマンス維持向上をはじめとして，地域住民のスポーツを通じた健康づくりを支援し，健康寿命の延伸，QOL の維持向上等に寄与する方の資格です。

⑹　アスレティックトレーナー

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し，スポーツ活動現場において，スポーツドクター及びコーチとの緊密な連携・協力の下に，競技者の健康管理，スポーツ外傷・障害の予防，救急処置，アスレティックリハビリテーション及びトレーニング，コンディショニングなどにあたる方のための資格です。

⑺　スポーツ栄養士

地域におけるスポーツ活動の現場や，都道府県での競技者育成にスポーツ栄養の知識を持つ専門家として，競技者の栄養・食事に関する自己管理能力を高める栄養教育や，食事環境の整備を専門的視点から支援，サポートを行っていただく方の資格です。

⑻　フィットネストレーナー

民間商業スポーツ施設やスポーツクラブなどにおいて，フィットネスの維持や向上など，各種トレーニングの専門的指導者として質の高い指導にあたる方のための資格です。スポーツクラブ会員（顧客）が支払うメンバーフイー（対価）にふさわしい指導能力，個々人の年齢や性別，志向に合わせた実技指導とスポーツ相談などを学ぶことができます。

⑼　スポーツプログラマー

フィットネスの維持や向上についての専門的な知識と各種トレーニング指導法に関するノウハウを持ち，スポーツ相談による個々人に適した身体づくりの実技指導と活動プログラムの提供をする方のための資格です。

主に青年期以降のすべての人に対し，地域スポーツクラブや民間スポーツクラブなどにおいて指導にあたる方にぜひ取得していただきたい資格です。

⑽　ジュニアスポーツ指導員

発育発達期の身体的・心理的特徴についての専門的な知識と指導ノウハウを持ち，おおよそ２歳くらいの幼児から15歳までの子どもたちを対象に指導にあたる方のための資格です。

総合的な身体づくりと基礎的動作の習得を遊びやゲームを取り入れたプログラムから学ぶことができます。

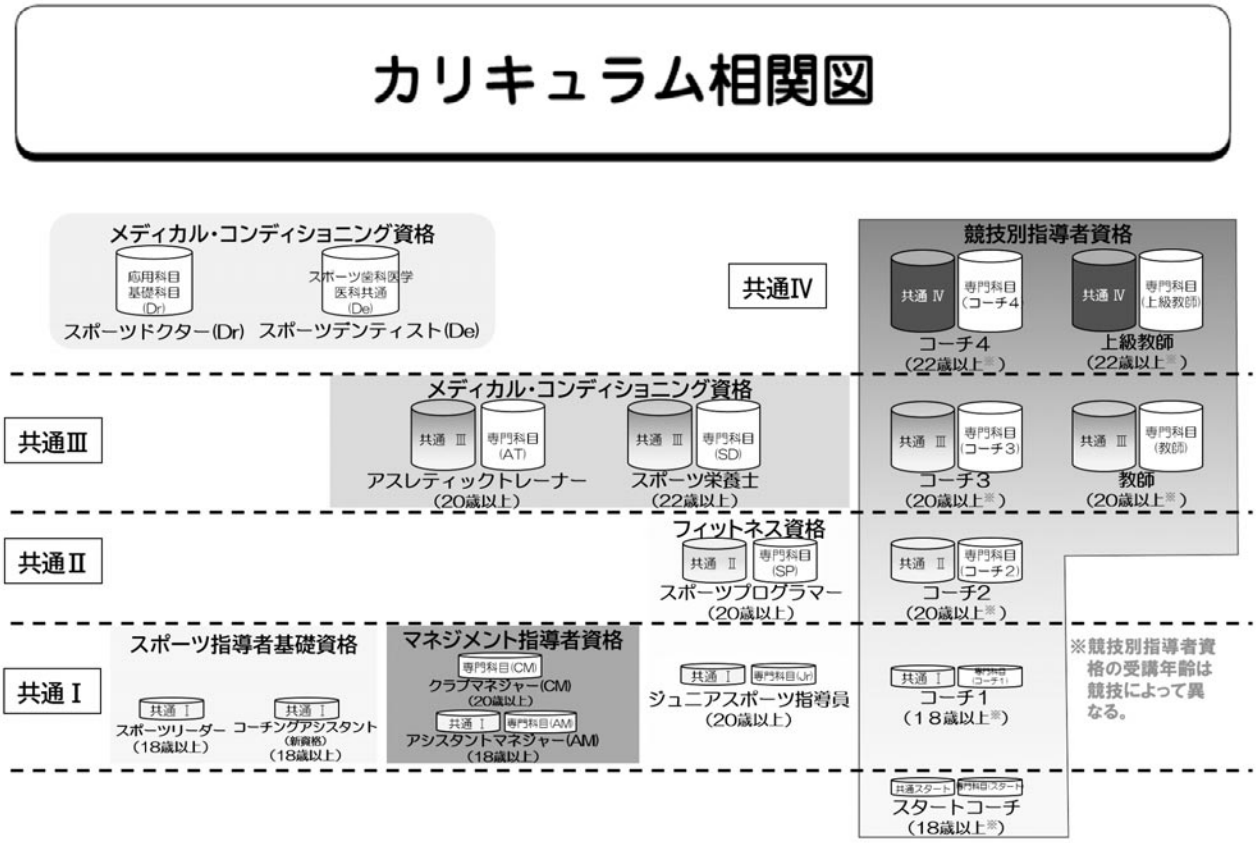
⑾　アシスタントマネジャー

総合型地域スポーツクラブなどにおいて，クラブの運営に携わっている方やこれからお手伝いしたいと考えている方のための資格です。クラブ運営の基礎を学ぶことができます。

⑿　クラブマネジャー

総合型地域スポーツクラブなどにおいて，クラブ管理運営（経営）責任者としての立場にある方のための資格です。実際にクラブを安定的・継続的に管理運営（経営）するためのカリキュラムを学びます。

共通カリキュラム


カリキュラム相関図
メディカル・コンディショニング資格
応用科目 基礎科目 (Dr)
スポーツドクター(Dr)
スポーツ歯科医学 医科共通 (De)
スポーツデンティスト(De)
共通Ⅳ
競技別指導者資格
共通Ⅳ
専門科目 (コーチ4)
コーチ4
(22歳以上※)
共通Ⅳ
専門科目 (上級教師)
上級教師
(22歳以上※)
共通Ⅲ
メディカル・コンディショニング資格
共通Ⅲ
専門科目 (AT)
アスレティックトレーナー
(20歳以上)
共通Ⅲ
専門科目 (SD)
スポーツ栄養士
(22歳以上)
共通Ⅲ
専門科目 (コーチ3)
コーチ3
(20歳以上※)
共通Ⅲ
専門科目 (教師)
教師
(20歳以上※)
共通Ⅱ
フィットネス資格
共通Ⅱ
専門科目 (SP)
スポーツプログラマー
(20歳以上)
共通Ⅱ
専門科目 (コーチ2)
コーチ2
(20歳以上※)
共通Ⅰ
スポーツ指導者基礎資格
共通Ⅰ
スポーツリーダー
(18歳以上)
共通Ⅰ
コーチングアシスタント
(新資格)
(18歳以上)
マネジメント指導者資格
専門科目 (CM)
クラブマネジャー(CM)
(20歳以上)
共通Ⅰ
専門科目 (AM)
アシスタントマネジャー(AM)
(18歳以上)
共通Ⅰ
専門科目 (Jr)
ジュニアスポーツ指導員
(20歳以上)
共通Ⅰ
専門科目 (コーチ1)
コーチ1
(18歳以上※)
※競技別指導者資格の受講年齢は競技によって異なる。
共通スタート
専門科目 (スタート)
スタートコーチ
(18歳以上※)

第５章

資格課程について

Ⅰ　教　職　課　程

Ⅱ　司書・司書教諭・学校司書課程

Ⅲ　学 芸 員 課 程

Ⅳ　大学院教職課程

Ⅴ　科 目 等 履 修 生

資格課程について

Ⅰ．教職課程

本学では，中学校および高等学校の「教育職員免許状」（以下「免許状」という）を取得することを希望する学生のために，教職課程を設置しています。

現在の法律では，原則として免許状を取得していないものは教職に就くことができませんので，将来教職に就く意思のある学生は，教職課程を履修し，免許状を取得してください。

本学で免許状を取得するためには，原則として３年間以上教職課程の科目を履修し，単位を修得しなければなりません。教職課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。

また，修得科目・修得単位は学部・学科によって異なります。詳細については，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**を参照してください。

なお，教職課程を履修する場合は履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。

取得できる免許状は次のとおりです。

学部	学科	種類・教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
文学部	日本文学文化学科	国語	国語，書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史，公民
	歴史学科	社会	地理歴史，公民
	環境地理学科	社会	地理歴史，公民

※ジャーナリズム学科の学生は教員免許状を取得できません。

Ⅱ．司書・司書教諭・学校司書課程

司書課程は，公共図書館，大学図書館，研究機関や企業の資料室などで，資料や情報を収集・整理し，これらを利用者に対して適切に提供する専門職（司書）の養成を目的としています。

司書教諭課程は，初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職（司書教諭）の養成を目的としています。なお，司書教諭の資格を取得するためには，司書教諭課程の履修と併せて，教職課程を履修し，教育職員免許状を取得しなければなりません。

学校司書課程は，学校および学校図書館において，図書館資料の管理や提供および授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について，司書教諭と協働しながら従事する学校司書の養成を目的としています。

本学で司書の資格を取得するためには原則として３年間以上，司書課程の授業を履修し，15 科目 30 単位以上を修得しなければなりません。また，司書教諭については５科目 10 単位以上，学校司書については 13 科目 26 単位を修得しなければなりません。

司書，司書教諭，学校司書課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。また，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**も併せて参照してください。

なお，司書課程，司書教諭課程，学校司書課程を履修する場合は履修初年度に各課程の受講料を納入する必要があります。

※ジャーナリズム学科の学生は免許状を取得できないため，司書教諭課程を履修できません。

Ⅲ．学芸員課程

学芸員課程は，博物館，美術館，歴史資料館，考古資料館，民俗資料館，民芸館，文学館，文書館，動・植物園，水族館，科学館等に勤務し，その事業の目的を達成するために，資料の収集，保管，展示および調査研究，その他これに関連する事業についての専門的事項を司る専門職員を養成することを目的としています。

本学で学芸員の資格を取得するためには，原則として２年間以上，学芸員課程の科目を履修し，13 科目 27 単位以上を修得しなければなりません。

学芸員課程の履修方法等は，年度初めに行われる資格課程ガイダンスに出席し，説明を受けてください。また，履修初年度のガイダンスで配布する**「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」**も併せて参照してください。

なお，学芸員課程を履修する場合は履修初年度に，学芸員課程受講料を納入する必要があります。

Ⅳ．大学院教職課程

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し，中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が，大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合，中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細は教務課資格課程事務室で確認してください。

Ⅴ．科目等履修生

在学中の単位不足等により本学卒業後，教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は，科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし，科目等履修生となるためには，前年度の２月中旬～下旬に出願し，面接選考のうえ，合格した場合に限り許可されます。

なお，詳細については，教務課窓口（神田校舎）へお問い合わせください。

付　　録

Ⅰ　専修大学履修規程

Ⅱ　専修大学定期試験規程

Ⅲ　定期試験における不正行為者処分規程

Ⅰ　専修大学履修規程

平成 30 年 4 月 1 日
制定
改正　平成 31 年 4 月 1 日
令和 2 年 4 月 1 日
令和 3 年 4 月 1 日

（趣旨）

第１条　この規程は，専修大学学則第４条第３項の規定に基づき，専修大学（以下「本学」という。）における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

（授業科目の種類）

第２条　授業科目の種類は，次のとおりとする。

⑴　必修科目　当該学部・学科の教育目的を達成するため，卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。

⑵　選択科目　学生の履修目的に応じて選択し，修得単位を卒業要件に算入する授業科目（選択必修科目及び必履修科目を含む。）をいう。

⑶　自由科目　履修することはできるが，修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

（履修方法）

第３条　各学部・学科並びに教職課程，司書課程，司書教諭課程，学校司書課程及び学芸員課程（以下「資格課程」という。）において履修する授業科目は，入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い，学生本人が決定するものとする。

（単位数及び授業科目）

第４条　各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は，別表第１から別表第３まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

（履修登録）

第５条　授業科目の履修登録は，前期及び通年の授業科目（後期の授業科目のうち，前期に履修登録することが必要な授業科目を含む。）にあっては前期履修科目登録期間，後期の授業科目にあっては後期履修科目登録期間に行うものとする。

（スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録）

第６条　スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は，入学した年次に適用される「SWP 学修ガイドブック」に定めるところによる。

（資格課程科目の履修登録）

第７条　教職課程科目は，教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料，実習料等を納入することにより履修することができる。

２　司書課程科目及び司書教諭課程科目は，司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が，所

定の期日までに，所定の受講料を納入することにより履修することができる。

3　学校司書課程科目は，学校司書課程を修了しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料を納入することにより履修することができる。

4　学芸員課程科目は，学芸員の資格を取得しようとする者が，所定の期日までに，所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。

5　資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は，入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

（履修上限単位数）

第８条　１年間に履修登録することができる履修上限単位数は，各学部・学科が別に定めるところによる。

2　履修上限単位数には，再履修科目の単位を含めるものとし，次に掲げる単位を含めないものとする。

⑴　海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位

⑵　資格試験により認定される単位

⑶　専修大学科目等履修生（付属高等学校生徒）として履修し，本学に入学した後，単位認定される授業科目の単位

⑷　資格課程科目として履修する授業科目の単位

（履修登録することができない授業科目）

第９条　教養科目及び外国語科目の授業科目のうち，外国人留学生のために開講する授業科目は，外国人留学生以外の学生は，履修登録することができない。

2　前項の授業科目を履修登録した場合は，当該授業科目の履修登録を無効とする。

（再度の履修登録の禁止）

第 10 条　既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，再び履修登録することができない。

2　再び履修登録した場合は，当該授業科目の履修登録を無効とする。

（重複した履修登録の禁止）

第 11 条　履修する年度において，同一の履修期間，曜日及び時限に行われる授業科目は，重複して履修登録してはならない。

2　重複して履修登録した場合は，いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

（履修登録の修正，削除，追加及び変更）

第 12 条　履修登録の修正，削除，追加及び変更は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，履修科目登録期間及び履修修正期間に限り認めるものとする。ただし，当該期間以外の期間であっても特別の理由があると認められる場合は，履修登録の修正，削除，追加及び変更を認めることができる。

2　あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については，原則として，履修クラスの変更を認めないものとする。

3　履修者制限が行われた授業科目で，一旦履修を許可されたものについては，原則として，その削除及び変更を認めないものとする。

（履修の中止）

第 13 条　履修を継続する意思のない授業科目は，各学部・学科が指定する授業科目を除き，所定の履修中止申請期間に，所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

２　履修の中止については，次に定めるところにより取り扱うものとする。

⑴　履修を中止した授業科目は，授業への出席，定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。

⑵　履修を中止した授業科目の単位は，当該年度の履修上限単位数に含める。

⑶　履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。

⑷　履修を中止した授業科目は，GPA 及び平均点に算入しない。

⑸　履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は，履修中止申請を認めない。

⑹　履修中止申請は，取り下げることができない。

（単位の修得）

第 14 条　履修登録を行わない授業科目については，単位を修得することができない。ただし，履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については，この限りでない。

（事務所管）

第 15 条　この規程に関する事務は，教務部教務課の所管とする。

（規程の改廃）

第 16 条　この規程の改廃は，教授会の議を経て，学長が行う。

附　則

この規程は，平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この規程は，平成 31 年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正後の専修大学履修規程の規定は，平成 31 年度以後の入学者について適用し，平成 30 年度以前の入学者については，なお従前の例による。

附　則

（施行期日）

１　この規程は，令和２年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正後の専修大学履修規程の規定は，令和２年度以後の入学者について適用し，平成 31 年度以前の入学者については，なお従前の例による。

附　則

この規程は，令和３年４月１日から施行する。

別表第１（第４条関係）　略

別表第２（第４条関係）　略

別表第３（第４条関係）　略

Ⅱ　専修大学定期試験規程

（趣旨）

第１条　この規程は，専修大学学則第 17 条の規定に基づき実施する試験に関し，必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第１条の２　この規程において「試験」とは，学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

（種類）

第２条　試験の種類は，次の各号に定めるとおりとする。

⑴　前期試験　　前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。

⑵　後期試験　　後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。

⑶　前期追試験　　第１号の試験を受験できなかった者に対し，当該授業科目について実施する試験をいう。

⑷　後期追試験　　第２号の試験を受験できなかった者に対し，当該授業科目について実施する試験をいう。

（時期）

第３条　試験の実施の時期は，次の各号に定めるとおりとする。ただし，実施の時期を変更することがある。

⑴　前期試験　　７月～８月

⑵　後期試験　　１月～２月

⑶　前期追試験　　８月

⑷　後期追試験　　２月～３月

（試験方法）

第４条　試験は，筆記，口述又は実技によるものとする。ただし，レポートをもってこれに替えることができる。

（試験時間）

第５条　試験時間は，原則として 60 分とする。

（試験監督）

第６条　試験監督は，当該授業科目担当教員が行う。ただし，必要に応じて補助者を加えることがある。

２　試験監督者は，試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

（試験委員）

第７条　試験の実施に際し，試験委員を置く。

２　試験委員は，試験の実施を統轄する義務と権限を有する。

３　試験委員は，教授会の承認を得て，学長が委嘱する。

４　試験委員は，試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

（受験資格の取得）

第８条　受験資格は，次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

⑴　履修科目登録の手続

⑵　学費の納入手続

⑶　その他所定の手続

２　前項の規定にかかわらず，試験時において休学又は停学中の者は，受験資格を有しない。

（受験資格の喪失）

第９条　次の各号の一に該当する者は，当該授業科目の受験資格を失う。ただし，第４号については，別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

⑴　学生証を携帯していない者

⑵　試験開始後 20 分を超えて，遅刻した者

⑶　試験監督者の指示に従わない者

⑷　試験において不正行為を行った者

２　前項第１号に該当する者に対して，当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。

３　臨時学生証の交付を受けようとする者は，当該試験開始時刻までに，一部の試験については教務課窓口に，二部の試験については二部事務課窓口に申し出なければならない。

４　前項の規定にかかわらず，同項の規定による申出をしなかった場合であっても，その者が試験教室において，当該試験開始時刻までに試験監督者に対し，学生証不携帯の旨を申し出たときは，臨時学生証の交付を認めることができる。

５　前２項の規定による臨時学生証の交付に当たっては，所定の交付手数料を徴収するものとする。

（受験手続）

第10条　第２条第１号及び第２号による受験者は，試験前に公示する「定期試験実施要領」により，所定の手続を完了しなければならない。

２　第２条第３号及び第４号による受験者は，所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し，受験許可を得なければならない。

⑴　教育実習	教育実習参加を証明するもの
⑵　就職試験	就職試験受験を証明するもの
⑶　業務命令による出張又は超過勤務	所属長による証明書
⑷　公式試合	公式試合参加を証明するもの

⑸　天災その他の災害	被災を証明するもの
⑹　二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
⑺　本人の病気又は怪我	医師の診断書
⑻　交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
⑼　その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

（成績評価）

第11条　成績評価は，100点を満点とし，60点以上を合格とし，60点未満を不合格とする。

２　前項の場合において，成績評価の区分は，90点以上をＳ，85点以上90点未満をＡ＋，80点以上85点未満をＡ，75点以上80点未満をＢ＋，70点以上75点未満をＢ，65点以上70点未満をＣ＋，60点以上65点未満をＣ，60点未満をＦとする。

３　前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し，グレード・ポイント・アベレージ（ＧＰＡ）を算出する。この場合において，グレード・ポイントは，Ｓを4.0，Ａ＋を3.5，Ａを3.0，Ｂ＋を2.5，Ｂを2.0，Ｃ＋を1.5，Ｃを1.0，Ｆを0.0とする。

（成績発表）

第12条　試験の成績結果は，９月及び３月に本人に通知する。

（受験者の義務）

第13条　受験者は，次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

⑴　試験場においては，試験監督者の指示に従うこと。

⑵　試験開始後20分以内の遅刻者は，試験監督者の入室許可を得ること。

⑶　学生証を机上に提出すること。

⑷　解答にさきだって，学籍番号及び氏名を記入すること。

⑸　学籍番号及び氏名の記入は，ペン又はボールペンを使用すること。

⑹　試験開始後30分以内は，退場しないこと。

⑺　配付された答案用紙は，必ず提出すること。

⑻　試験場においては，物品の貸借をしないこと。

（無効答案）

第14条　次の各号の一に該当する答案は，無効とする。

⑴　第８条に定める受験資格を有していない者の答案

⑵　第９条に該当する者の答案

⑶　学籍番号及び氏名が記入されていない答案

⑷　不正行為に該当する者の答案

⑸　授業科目の担当者，曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

（不正行為）

第15条　試験における不正行為とは，次の各号の一に該当する場合をいう。

⑴　代人が受験したとき。（依頼した者・受験した者）

⑵　答案を交換したとき。

⑶　カンニングペーパーを廻したとき。

⑷　カンニングペーパーを使用したとき。

⑸　所持品（電子機器を含む。）その他へ事前に書込みをして，それを使用したとき。

⑹　他人の答案を写したとき。（見た者・見せた者）

⑺　言語・動作・電子機器等で連絡したとき。（連絡した者・連絡を受けた者）

⑻　使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。

⑼　他人の学生証で受験したとき。（貸した者・借りた者）

⑽　偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。

⑾　故意による答案無記名のとき。

⑿　答案を提出しなかったとき。

⒀　使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。

⒁　その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

（不正行為の確認）

第16条　試験監督者は，不正行為を発見した場合，その受験者の受験を直ちに中止させ，本人を同行して試験委員に報告するものとする。

２　試験委員は，学生部委員の立ち合いのもとに，不正行為の事実確認を行う。

３　試験委員は，不正行為が確認された場合，本人に始末書を提出させ，速やかに当該学部長に報告しなければならない。

（不正行為者の処分）

第17条　不正行為者の処分は，別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

（規程の改廃）

第18条　この規程の改廃は，教授会の議を経て学長が決定する。

附　　則

この規程は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

Ⅲ　定期試験における不正行為者処分規程

第１条　この規程は，専修大学定期試験規程第 17 条の規定に基づき，定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し，必要な事項を定めるものとする。

第２条　不正行為者の処分は，学部長が行う。

第３条　不正行為者の処分は，次の基準による。

⑴　代人受験（依頼した者・受験した者）	２ケ月の停学処分とし，当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
⑵　答案交換	第１号に同じ
⑶　カンニングペーパー廻し	けん責処分とし，当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
⑷　カンニングペーパーの使用	第３号に同じ
⑸　当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等）	第３号に同じ
⑹　答案を写す（見た者・見せた者）	第３号に同じ
⑺　言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者）	第３号に同じ
⑻　使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用	第３号に同じ
⑼　他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者）	第３号に同じ
⑽　偽名又は氏名抹消	第３号に同じ
⑾　故意による無記名	第３号に同じ
⑿　答案不提出	第３号に同じ
⒀　使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者）	けん責処分とし，当該受験科目を無効とする。
⒁　その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合	第１号から第 13 号に準じて処分する。

２　学部長は，前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第４条　前条により処分を受けた者が，再度不正行為をした場合は，前条の規定にかかわらず教授会の議を経て２カ月以上１年以下の停学とし，当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第５条　試験終了後に不正行為が発覚した場合においても，第３条及び第４条により処分する。

第６条　処分の起算日は，処分決定日とする。

第７条　不正行為者の氏名及び処分は，速やかに掲示し，本人及び保証人に通知する。

第８条　処分事項は，学籍簿に記載するものとする。

第９条　不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは，直ちにその資格を失う。

第10条　停学処分中の者は，当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条　不正行為者処分に関する事務取扱いは，教務課又は二部事務課が行う。

第12条　この規程の改廃は，教授会の議を経て学長が決定する。

附　　則

この規程は，平成 27 年４月１日から施行する。

２０２３　文学部学修ガイドブック

令和５年４月１日

編集・発行　専修大学文学部
〒214－8580

神奈川県川崎市多摩区東三田２－１－１

TEL　044-911-1254（ダイヤルイン）